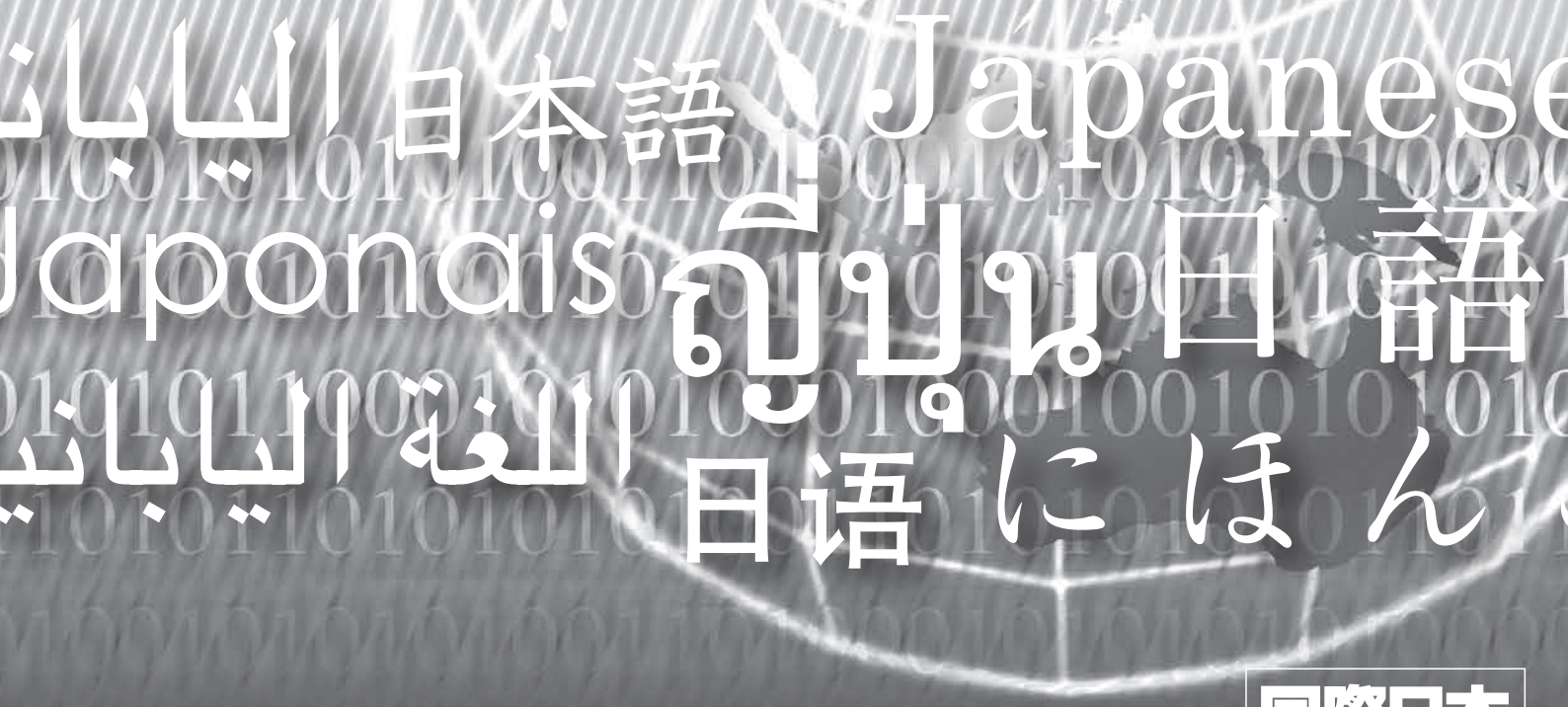
Print edition : ISSN 2188-5060
Online edition : ISSN 2188-5087

国際日本語教育部門3ヶ年プロジェクト成果報告論文集

日本語学習者の母語・地域性をふまえた日本語教育研究

ー国内外の日本語教育研究機関との協働的研究

（2010～2012）



東京外国語大学国際日本研究センター

国際日本研究センター
International Center for Japanese Studies

国際日本語教育部門３ヶ年プロジェクト成果報告論文集

日本語学習者の母語・地域性をふまえた日本語教育研究

—国内外の日本語教育研究機関との協働的研究
（2010 ～ 2012）

東京外国語大学国際日本研究センター

目　次

「発刊にあたって」 …… 4
小林幸江（東京外国語大学）

■ 第 1 章
〈報告〉
「国際日本語教育部門３ヶ年プロジェクト〈1〉の概要」 …… 6
小林幸江（東京外国語大学）

■ 第 2 章
〈論文〉日本語とアラビア語の対照研究
「詫び表現の形式のバリエーションと機能との関わり
－日本語教育に向けた日本語とアラビア語との対照研究－」 …… 16
谷口龍子（東京外国語大学）
ハーネム・アハマド（カイロ大学）
榮谷温子（慶應義塾大学）

〈論文〉中国語と日本語の対照研究
「主観量表現に関する中日対照研究―大数量の場合を中心に－」 …… 29
彭広陸（北京大学）

〈報告〉日本語と英語・中国語の対照研究
「オンライン日本語誤用辞典の構築と展望」 …… 45
小柳昇（拓殖大学）
望月圭子（東京外国語大学）

〈論文〉日本語とフランス語の対照研究
「フランス語と日本語の従属節についての一考察－フランス人日本語学習者の「シ」節使用を例に－」 …… 55
秋廣尚恵（東京外国語大学）
谷口龍子（東京外国語大学）

〈論文〉日本語とタイ語の対照研究
「中～上級専門日本語における語彙知識の精緻化を目指した練習の導入
－タイ語母語話者を対象にした「通訳入門」科目の一環として－」 …… 67
鈴木美加（東京外国語大学）
タサニー・メータービスィット（タマサート大学）

INDEX

■ Chapter 1

"Overview of the Three-Year-Project by International Japanese Education Division" …… 6

Yukie Kobayashi (Tokyo University of Foreign Studies)

■ Chapter 2

Contrastive Study for JAPANESE and ARABIC

"Relationship between Various Types of Expressions of Apology and their Functions – a Comparative Analysis of Japanese and Arabic for Japanese Language Education" …… 16

Ryuko Taniguchi (Tokyo University of Foreign Studies)

Hanem Ahmad (Cairo University)

Haruko Sakaedani (Keio University)

Contrastive Study for JAPANESE and CHINESE

"Comparative Studies on 'Subjective Quantity Expression' in Chinese and Japanese: the Case Study Analysis on 'Large Subjective Quantity Expressions' " …… 29

Peng Guangle (Peking University)

Contrastive Study for JAPANESE, ENGLISH and CHINESE

"Comparative Studies on Japanese, English and Chinese; Exploring the Construction of TUFS Online Dictionary of Misused Japanese" …… 45

Noboru Oyanagi (Takusyoku University)

Keiko Mochizuki (Tokyo University of Foreign Studies)

Contrastive Study for JAPANESE and FRENCH

"French and Japanese Subordinate Clauses – "shi-clause" Usage of French Learners of Japanese" …… 55

Hisae Akihiro (Tokyo University of Foreign Studies)

Ryuko Taniguchi (Tokyo University of Foreign Studies)

Contrastive Study for JAPANESE and THAI

"Vocabulary Elaboration Exercises in Intermediate/ Advanced"Specialized Japanese" Classes -An Exercise Introduced into the "Introductory Interpreting Class" for Thai Students-" …… 67

Mika Suzuki (Tokyo University of Foreign Studies)

Tasanee Methapisit (Thammasat University)

「日本語学習者の母語・地域性をふまえた日本語教育研究
―国内外の日本語教育研究機関との協働的研究」（2010 ～ 2012）

報告論文集発刊にあたって

国際日本研究センター（以下、センター）は、2009 年 4 月に日本語教育の方法およびこれを支える日本文化・社会等に関する研究分野について、様々な視点から調査研究し、「地球化社会時代における新たな日本研究教育体制の構築」及び「研究者間の情報ネットワークの構築」に寄与することを目指し設置されました。センターには、国際日本語教育部門をはじめ、対照日本語部門、社会言語部門、比較日本文化部門、国際連携推進部門の 5 つの部門があり、それぞれの任務のもと活動しています。国際日本語教育部門（以下、当部門）は、「日本語教育の国際的展開の基礎構築」のため、次の二つを柱として活動しています。

①日本語教育の現状把握
②言語別教材の開発

当部門は、センターの専任、本学の総合国際学研究院、留学生日本語教育センター教員の 5 人より構成されています。5 人は動きやすい人数ではありますが、学内にあって所属が異なり、また、それぞれが業務を抱えての参加ですので、センター設立当初はまさに部門内での学内連携の構築から始まりました。センター設立の初年度には、①を推進するために、国内外の高等教育機関における日本語教育事情を調査しデータ構築を開始しました。さらに、②を推進するために、2010 年度から 2012 年度にかけて「日本語学習者の母語・地域性をふまえた日本語教育研究－国内外の日本語教育研究機関との協働的研究」と題したプロジェクトを立ち上げました。具体的には、母語・地域を、アラビア語・中国語・英語・フランス語・タイ語（アルファベット順）の 5 つに絞り、それぞれの日本語教育研究機関の特任研究員との協働的研究を目指し活動して参りました。

当部門では、3 ヶ年のプロジェクトの総括として、国際シンポジウムの実施および本報告論文集の刊行を企画しました。プロジェクトで達成された研究成果をまとめたシンポジウムは 2013 年 3 月 16 日に実施し、報告論文集は 2013 年度の刊行となりました。より多くの皆様にご覧いただき、ご意見、ご批判を賜れば幸甚の至りに存じます。

2014 年 3 月 31 日

国際日本研究センター国際日本語教育部門

部門長　**小林　幸江**

第 1 章

〈報告〉

国際日本語教育部門３ヶ年プロジェクト〈1〉の概要

小林　幸江（東京外国語大学）

キーワード：国際日本語教育部門　母語　地域性　対照比較研究　協働的研究

はじめに

本プロジェクトは、正式名を「日本語学習者の母語・地域性をふまえた日本語教育研究－国内外の日本語教育研究機関との協働的研究」といい、国際日本語教育部門（以下、当部門）で 2010 年度から 2012 年度にかけて行われた。本プロジェクト終了後に新たな３ヶ年プロジェクト（注 1）が走り出しており、それと区別するためにここではプロジェクト〈1〉としている。本報告では、まず当部門について簡単に述べ、次に本プロジェクトの概要についてまとめる。

１．国際日本語教育部門の概要

1-1　目的

当部門は、「日本語教育の国際的展開の基礎構築」を目指し、日本語教育の現状把握、及び言語別教材の開発の二つの業務を柱として活動している。

1-2　活動

設立時、当部門は 4 人でスタートしたが、その年の後半に新たに採用された専任が加わり 5 人体制となった。以下に、当部門の部門員を示す。表中の下線は部門責任者、（　）は所属を示す。

年度	部門員（所属）	専門
2009	小林幸江（留日 *1） 望月圭子（研究院 *2） 海野多枝（研究院） 鈴木美加（留日） 谷口龍子（センター専任）	日本語教育学 日本語・英語・中国語対照言語学 第二言語習得論 日本語教育学 言語学、語用論、日本語教育学
2010	小林幸江・望月圭子・海野多枝 鈴木美加・谷口龍子	*1 留学生日本語教育センター *2 総合国際学研究院 *3 休職（2011 ～ 2012） 2013 年度から海野に代わり、佐野洋（研究院）が新たに加わった。
2011	小林幸江・望月圭子・（海野多枝 *3） 鈴木美加・谷口龍子	
2012	小林幸江・望月圭子・（海野多枝） 鈴木美加・谷口龍子	

初年度の前半は、プロジェクトの策定にあて、後半からは本格的に活動を開始した。まずは、当部門の任務について意見交換や検討を重ね研究計画を構想した。同時に、センター設立にあたって国内外の高等教育機関との情報交換及び日本語教育事情調査のため、台湾大学、北京大学等に出張した（注 2）。

1-3　国内外の高等教育機関における日本語教育事情調査について

当部門では、他部門の協力を得て「国内外の高等教育機関における日本語教育事情調査」を行っている。この調査

では、本学の交流協定校を中心に海外の高等教育機関における日本語教育研究の現状と課題について、特に次の４つの項目に重点をおいて関係者への聞き取り調査、質問紙調査等を行っている。

1）学部教育における日本語教育の特徴
2）学部教育研究における日本学・日本語学・日本語教育学のカリキュラム及び各分野の連携教育
3）大学院教育研究における日本学・日本語学・日本語教育学に関わる研究内容・方向性、研究者・大学院生間の国際的協働ネットワーク
4）大学及び大学院教育研究における日本留学の位置づけ、留学先との連携、日本留学のサポート体制、選抜方法、奨学金についての情報
（センター HP「国内外の高等教育機関における日本語教育事情調査」）

HP 上に掲載されている国内外の高等教育機関数はすでに 50 に上っており（2014/3/20 現在）、今後も新しい情報が順次 HP 上にアップされる予定である。これらの情報は、センターの研究を支える基礎データとなると同時に、海外大学への留学、視察等を計画する際の事前情報として、また、海外の大学の研究者、大学院生の間で協働的研究を計画する際の情報としても広く活用できる。なお、本調査報告については（谷口・坂本 2012）に詳しい。

２．国際日本語教育部門３ヶ年プロジェクト〈１〉の概要

2-1　目的

本プロジェクトでは、アラビア語、英語、中国語、フランス語、タイ語の５つの母語話者、地域を対象としている。それぞれの母語話者・地域の日本語教育に資することを目的とし、特任研究員とチームを組み協働的研究を行ってきた。

母語・地域	主な研究テーマ（部門員）	特任研究員（無印）・連携研究員（㊟）
アラビア語	アラビア語と日本語の詫び表現に関する対照語用論研究と日本語教育学研究 （谷口・小林）	エルカウィーシュ・ハナーン氏：カイロ大学日本文学科准教授（2010.10 ～ 2013.3） 榮谷温子氏：慶應義塾大学非常勤講師（2011.4 ～ 6㊟）（2011.7 ～ 2013） ハーネム・アハマド氏：カイロ大学日本文学科専任講師（2011.10 ～ 2012.9）
英語	英作文誤用コーパスから見える日本語の特質 （望月・海野）	森本一樹氏：リーズ大学フェローシップ（2011 ～ 2012） キャロライン狩野氏：本学教員（2011 ～ 2012）
中国語	日本語と中国語の対照研究 （望月・谷口）	趙華敏氏：北京大学外国語学院教授（2011 ～ 2012） 張麟声氏：大阪府立大学人間社会研究科教授（2012） 彭広陸氏（北京大学外国語学院教授）（2011 ～ 2012）
日本語･英語･中国語	オンライン日本語誤用辞典の構築（2011 年度～）	小柳昇（拓殖大学）
フランス語	フランス人日本語学習者の誤用から考察する省略、従属節の対照研究 （谷口）	秋廣尚恵氏：エクス・マルセイユ大学日本語学科専任講師）（2010 ～ 2012） 東京外国語大学大学院総合国際学研究院専任講師（2013.10 ～）
タイ語	タイの大学における技能養成に向けた語彙教育 （鈴木）	タサニー・メーターピスィット氏（タマサート大学）（2010 ～）

2-2　研究活動

３ヶ年プロジェクト〈1〉では、上述の各研究に関連しワークショップ４回、研究会３回、講演会１回、国際シンポジウム１回と、継続的に研究活動を行い国内外の特任研究員とともに協働研究を推進してきた。特に、研究会は

「言語研究と教育」というシリーズを組み、言語研究の成果をどのように日本語教育に結び付けてゆくかという言語研究と教育現場のインターフェイスを目指した。各年の活動は以下の通りである。

2010 年度

各チームからそれぞれの研究計画に沿って特任研究員が推薦され、協働研究が本格的にスタートした。以下、表中の数字の「1」はテーマ、「2」は講師、「3」は要旨を示す。

（2010/4/5）第 1 回 ワークショップ
1)「アメリカにおける日本語教育－英語母語話者に対する効果的な日本語教授法－」
2) ロバート・ラッセル氏（ブリンガム・ヤング大学アジア・中近東語学部准教授、米国）
3) 米国における日本語教育の概況、中上級レベルの日本語学習者の多いブリンガム・ヤング大学における日本語学習者の背景、カリキュラム、日本語習得上の困難点等について
（2010/10/2）第 2 回 ワークショップ 「日本語とアラビア語－対照研究と教育への応用－」
1)「アラビア語と日本語の音声」
2) エルカウィーシュ・ハナーン氏（カイロ大学文学部日本語学科准教授、エジプト）
3) エジプト人日本語学習者の音声・音韻習得上の問題点やその原因について解説。効果的な教え方として学習者に自分の発音を意識化させることの重要性及び日本人アラビア語学習者の言語転移の特徴を具体的に指摘。
1)「アラビア語と日本語の文法」
2) エバ・ハッサン氏（カイロ大学文学部日本語日本文学科卒、東京大学総合文化研究科博士後期課程）
3) 日本語とアラビア語の格構造の比較、両語の他動性に関する相違について、自動詞と他動詞のバリエーションや受身・使役表現などについての例を挙げアラビア語母語話者が日本語を学習する際の困難点について指摘。
（2010/12/7）第 1 回 講演会
1)「日本語教育のための言語学－日本語の言語構造と日英対照の視点から－」
2) ウェスリー ·M· ヤコブセン氏（ハーバード大学、米国）
3) 日本語学習においては、3 つの言語構造（Argument structure〈項構造〉、Information structure〈情報構造〉, Immediate constituent structure〈樹形図〉）に注意を払うことが、複雑な言語構造を理解する上で役に立つ。この 3 つの観点から言語の類型化が可能であり、日本語が決して特別な言語ではない等、日英の言語構造について述べた。

2011 年度

プロジェクト２年目は、充実した活動を展開することができたが、翌年度の予算が厳しいことが予想され、研究活動の継続のため科研等の外部資金獲得が急務の課題となった。当部門でも申請したが、結果としては不採択となった。また、文科省のグローバル COE プログラム（国際的に卓越した教育研究拠点形成のための重点的支援）で採択された「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」の終了（2011 年 3 月）に伴い、同研究に携わっていた望月圭子より、当部門がそれを引き継いでいくことの提案があった。検討の結果、本プロジェクトの中に取り組んでいくことになった。2011 年度の第 3 回ワークショップでその取り組みが発表された。

（2011/7/19）言語研究と教育シリーズ第 1 回研究会
1)「『省略』日仏対照研究と教育への応用」
2) 金谷武洋氏（モントリオール大学、カナダ）
3) 日仏語の基本文を対比させ、仏語や英語は、主語と動詞の結びつきが強く、主語によって動詞の形が決まるが、日本語の基本文は人称代名詞から一切自由であることから、日本語における主語の規程を否定した。
2) 秋廣尚惠氏（エクス・プロバンス大学、フランス）
3) 仏人日本語学習者の誤用例として、過剰な目的語の省略を紹介。原因として仏語では非照応的な省略が多く行われている点を指摘。誤用を防ぐために、動詞と目的語のコロケーションを早い段階から指導することを提案。また、代名詞の省略や繰り返しの有無は談話の規則に従うものであり、早い時期から談話レベルにおける細かい指導が必要であると述べた。
（2011/12/2）言語研究と教育シリーズ第 2 回研究会 『中国語・日本語対照研究と日本語教育：量の表現』
1)「中国語と日本語の数量表現の双方向習得研究」
2) 張麟声氏（大阪府立大学・本センター特任研究員）

3）記述研究の方法として対照研究が安直に考えられている点を指摘した上で、第二言語習得研究と言語研究それぞれにおける対照研究の重要性を主張。第二言語習得研究では「規則発見型」の研究方法が主流であるが、張氏は、「仮説検証型」モデル（対照研究・誤用観察・仮説検証の三位一体の習得研究）による言語転移の扱いについて提案した。
1）「中国語と日本語の主観量表現の対照研究」
2）彭広陸氏（北京大学、本センター特任研究員、中国）
3）日本語と中国語の主観的（評価的）な表現について、夥しい例を挙げ日中両語の対照研究の緻密な分析例を示した。中国語の主観量の多数量を示すもの、少数量を示すものを分類。一方で、日本語の少数量、多数量を示すものを分類した。
（2012/3/3）言語研究と教育シリーズ第３回ワークショップ 「日本語と中国語・英語の対照研究と教育への応用」
1）「日中両語のヴォイスに見られる視点のあり方」
2）彭広陸氏（北京大学）
3）日本語と中国語のヴォイスは、視点の在り方が異なることから、人称制限にその違いが見られる。つまり、日本語の場合は、基本的に視点が話し手（一人称）に置かれているのに対し、中国語では視点が移動しやすいことから、人称制限がなく、一人称が主語や補語に使われる。
1）「日本語と中国語・英語の対照研究と教育への応用」
2）望月圭子氏（本学教員）、小柳昇氏（本センター特任研究員）、市川淳太氏
3）オンライン日本語誤用辞典についての概要説明ならびに活用方法を紹介した。また、辞典の元であるコーパスに見られる日本語学習者の顕著な誤用（助詞「に」と「で」、自他動詞の混用、ヴォイス、アスペクト）の傾向について分析した。
1）「日本語人による英語学習者コーパスに基づく日英語対照」
2）キャロライン狩野氏（本センター連携研究員）、望月圭子氏（本学教員）
3）日本人学生の英語作文に多く見られる誤用の傾向（前置詞の使い分け（”in”” on”” at”）、副詞の語順など）を紹介、分析した。
1）「複合動詞の運用能力－日本語学習者による作例からの一考察」
2）谷口龍子氏（本センター教員）
3）日本語の V1+V2 型複合動詞について、中国語を母語とする日本語学習者と日本語母語話者の産出データを比較した。前項動詞と後項動詞の格が異なる複合動詞の運用について、中国語母語話者と比較すると、日本語母語話者の産出データには、「見慣れた町」などの連体修飾,「食べ飽きてしまう」のようなモダリティ表現との共起、目的語の主題化や省略が多く見られることがわかった。
1）「『学習者独自の規則』とは何か－その形成にかかわる認知的要因からの分類の一試案―」
2）張麟声氏（大阪府立大学教授、本センター特任研究員）
3）言語習得の観点から、中国語を母語とする日本語学習者が認知的枠組みにおいて特有の中間言語を形成し得るという仮説について論じた。

2012 年度

プロジェクト最終年のこの年は、３ヶ年の研究活動をどのように総括するかが大きな課題となった。話し合いの結果、年度末に国際シンポジウムを開き成果を発表すること、また、論文集にそれをまとめることが確認された。シンポジウムは 2013 年 3 月 16 日に実施し、報告論文集は 2013 年度に刊行することとなった。

（2012/7/21）第４回 ワークショップ「タイ語母語話者への日本語教育」
1）「連想法によるタイ人日本語学習者のひらがな学習の効果」
2）スニーラット・ニャンジャローンスック氏（タマサート大学）
3）タイ語母語話者向けの連想法（Association Method）によるひらがな教材が紹介され、その教材の効果が報告された。教材を利用した 50 分のひらがな授業終了後の再生テスト及び ARCS モデルによる分析から、教材により、①短時間でひらがな導入ができ、学習者平均 25.3 字の正しい再生がなされた、②連想法が学習を促す役割を果たした、③学習者がひらがな学習を「楽しく、覚えやすい」と評価した、という点が実証的に示された。
1）「タイ語を母語とする日本語学習者から見た現代日本語の限定表現―「だけ」を中心に―」
2）アッカラチャイ・モンコンチャイ氏（東京外国語大学大学院博士後期課程）
3）日本語の限定表現「だけ」とタイ語の「「khεε̂」と日本語の「だけ」との対照分析による検討がなされた。両者は多くの用法において一致しているものの、「khεε̂」の「不十分」、「未達のレベル」、「唯一の方法」の用法は、「だけ」にはなく、「しか」が対応し、その際学習者の誤用が起こりやすいと分析。
1）「中上級日本語学習者を対象としたマルチメディアの活用に関する実践研究」

2）タサニー・メーターピスィット氏（タマサート大学、センター特任研究員、タイ）
3）タマサート大でのマルチメディアを駆使した、通訳養成科目の先進的な教育実践を背景的な理論とともに紹介された。①「タイ文化紹介の日本語ビデオ作成」においては、専門家に対するインタビュー録画と、そのタイ語を日本語に通訳する場面の録画・映像編集・DVD 作成、相互評価を行い、②「デジタル教材のタイ語吹替版作成」では NHK の学校向けデジタル番組をタイ語に通訳し、音声吹き替え、編集、CD-R 作成をする、というタスク型授業を通して、卒業後の日本企業に就職した際に期待される技能の養成に結び付けていることが報告された。
（2012/12/21）言語研究と教育シリーズ第３回研究会「中国語・英語から見た日本語－外国語教育への応用－」
1）「対照研究と母語別日本語教育文法の構築」）
2）張麟声氏（大阪府立大学、センター特任研究員）
3）日本語教育のための母語別日本語教育文法の構築が必要であることを説き、その方法として、目標言語にある特定の形式が母語のどの形式と対応しているかを確定し、そこから、どのような誤用を引き起こしやすいかという点で分類する必要があることが述べられた。
1）「日中両言語における内部移動表現の相違について－「入る」と〈-进 :jin〉 を中心に－）
2）張志凌氏（本学博士後期課程学生）
3）日本語の「入る」と中国語の〈-进 :jin〉の意味について、『日本語書き言葉均衡コーパス』を使用し、対照分析を行った。両者はいずれも内部移動という共通の意味を持つが、「入る」が「内部」と「外部」との対立が曖昧な場合が多いのに対し、〈-进 :jin〉は、「内部」と「外部」の対立が常に成立し、移動の様態や手段に関心が高いという結果が得られた。
1）「可能表現の日本語と中国語の対照研究－日本語の無標識可能を表す自動詞と中国語の可能補語－」）
2）福田翔氏（本学博士後期課程学生）
3）日本語の無標識可能（「見つかる」など、見つけることができるという可能の意味を持つもの）と中国語の可能補語を対照し、両者の意味の範囲が異なる要因として発話者の動作主に対する「共感」という概念を取り入れて分析した。
1）「日本語母語話者による英作文誤用コーパスに基づく誤用類型－ ‘in’ ‘on’ ‘at’ と対応する日本語との対照－」）
2）キャロライン狩野氏（本学教員、センター特任研究員）、望月圭子氏（本学教員、本部門員）、大熊洋祐氏（リンガハウス）
3）本学英語専攻１年生の学生による英語作文のデータから、前置詞の誤用に一定のパターンが見られることを示した。
（2013/3/16）国際シンポジウム「理解・産出における母語の影響への取り組み」:「日本語学習者の母語・地域性を踏まえた日本語教育研究―国内外の日本語教育研究機関との協働的研究―」（プロジェクト最終報告会）
（日本語とフランス語の対照研究）
2）秋廣尚恵氏（エクス・マルセイユ大学、センター特任研究員）
3）フランス語母語話者による接続助詞「し」の誤用例を例に、従属節と主節の論理的関係が明確であるフランス語の母語話者にとって、談話文法的な機能を果たす「し」節の誤用が多いことを指摘し、レベル別の日本語学習者への導入方法を提案。
（日本語とタイ語の対照研究）
2）タサニー・メーターピスィット氏（タマサート大学、センター特任研究員）、鈴木美加氏（本学教員、本部門員）
3）語彙学習では語の効率的な習得と効果的な技能への活用が重要であるとし、タイ人中上級日本語学習者の語彙学習教材「処理短」（対象語と共起しやすい語句や表現をセットで学習する教材）使用の結果に見られる学習者の語の理解における傾向と、教材の有用性について報告。
（日本語と英語の対照研究）
2）キャロライン狩野氏（本学教員、センター特任研究員）、マシュー・ミラー氏（本学教員）
3）望月圭子氏（本学教員）を統括者とするウェブ用「日本語・英語・中国語相互学習者作文コーパス・誤用コーパス」のうち、英語学習者誤用コーパスを分析、前置詞に関する英語学習者の誤用は *in ← on、*in ← at、*at ← in の順で誤用が多く（誤用率は 44.7%、33.5%、11.1%の順）という結果であった。さらに、佐野洋氏（本学教員、本部門員）からは、辞典からの検索方法や種類（エラー箇所、エラーの種類、学習者の属性、学習歴など）、研究への応用などについて説明があった。
（日本語とアラビア語の対照研究）
2）榮谷温子氏（センター特任研究員）、谷口龍子氏（本学教員、本部門員）
3）アラビア語のエジプト方言における”マーレッシュ”の語用論的機能を分類した後で、日本語学習者の転移を予測し、談話完成タスクの結果について発表。
（日本語と中国語の対照研究）
2）小柳昇氏（センター特任研究員）

3）日本語学習者言語コーパスから中国語母語話者と英語母語話者に見られる２文の接続に関する誤用の類型を分析した。誤用を同分野間の誤用（「＊行けば←行くとすれば：条件←条件」のように機能が同じ表現の誤用）と異分野間の誤用（「＊転びましたが←転んだので：逆接←原因」）に２分類し、中国語母語話者の場合、「列挙・継起」では異分野間の誤用が多く、その中でも特にテ形接続・中止法の誤用が多く、英語母語話者では、「時」に関する同分野間の誤用が多いことを報告。

2-3　研究成果

ここでは、本論文集の外に収められている、主なプロジェクトの３ヶ年の研究成果を年ごとに示す。

無印は部門員、＊は特任研究員及び連携研究員を示す。

種類	氏名	題	雑誌・研究大会等
2010 年度			
発表	谷口龍子	「アラビア語のエジプト方言における詫びおよび感謝表現の語用論的機能」	『エジプトにおける日本研究－過去、現在、未来』国際シンポジウム カイロ大学
	＊小柳昇 テレンス・シャア	「オンライン日本語学習者作文コーパス・誤用コーパスの作成と日本語教育への活用」	2010 年度日本語教育学会秋季大会（神戸）
論文	＊趙華敏	「中国の日本語教育について ～スタンダーズ『到達目標』を例に～」	「世界の日本語・日本学～教育・研究の現状と課題～国際シンポジウム報告集」国際日本研究センター
2011 年度			
発表	＊小柳昇 テレンス・シャア 望月圭子	「オンライン日本語誤用辞典の作成と日本語教育への活用の可能性」	2011 年日本語教育世界大会（中国天津）
論文	谷口龍子	「アラビア語のエジプト方言における詫びおよび感謝表現の語用論的機能」	『留学生センター教育研究論集』横浜国立大学 19 号
報告	＊秋廣尚恵	「プロバンス大学における日本語教育の変遷と現状について」ウェブ報告	国際日本研究センター http://www.tufs.ac.jp/common/icjs/jp/5001.html
	＊秋廣尚恵	「フランスで出版された大学生向け日本語教科書の比較 」ウェブ報告	国際日本研究センター http://www.tufs.ac.jp/common/icjs/jp/5001.html
2012 年度			
発表	望月圭子	「日本語学習者誤用コーパスにみる日本語学習者の誤用の類型―英語母語話者と中国語母語話者の場合―」	国際日本研究センター・夏季公開セミナー 2012「言語・文化・教育―国際日本研究の試み－」
	＊小柳昇 望月圭子 市川淳太	「日本語学習者コーパスに基づく２文の接続に関する誤用の類型―中国語母語話者と英語母語話者の場合―」	2012 年日本語教育国際研究大会（名古屋）
	＊趙華敏	「日本語と中国語の『好まれる言い方』について―発想の相違と表現形式に焦点をあてて―」	国際日本研究センター・夏季公開セミナー 2012「言語・文化・教育―国際日本研究の試み－」
	＊徐一平	「コーパスによる日本語研究の事例―周辺的な言語現象をめぐって―」	国際日本研究センター・夏季公開セミナー 2012「言語・文化・教育―国際日本研究の試み」
	＊小柳昇 望月圭子 他１名	「日本語学習者コーパスに基づく２文の接続に関する誤用の類型」	2012 国際日本語教育研究大会
論文	＊徐一平	「日本学の方法論をめぐって―コーパス構築の視点から―」	『国際日本学の構築に向けて』国際シンポジウム報告書、国際日本研究センター
	＊趙華敏	「研究成果の日本語教育への応用について－依頼言語行動の中日対照研究を例に－」	『国際日本学の構築に向けて』国際シンポジウム報告書、国際日本研究センター

報告書	谷口龍子 坂本惠	「『国内外の高等教育機関における日本語教育事情調査』データベース中間報告Ⅰ－欧米型（日本研究の中の日本語教育）とアジア型（日本語教育から日本研究へ）－」	『日本語・日本学研究』vol.3　国際日本研究センター
研究ノート	谷口龍子 ＊榮谷温子	「儀礼的方略としてのアラビア語－エジプト方言“maʕliʃʃ”の使用」	『日本語・日本学研究』 vol.2　国際日本研究センター

なお、HP 上にアップされている「オンライン英作文学習者コーパス・誤用辞典」（Online Dictionary of Misused English － Based on a Learners' Corpus －）の開発については（望月 2014）に詳しい。

2-4　課題

３ヶ年を振り返って、このプロジェクトのねらいをひと言で言えば、研究会のテーマでもある「言語研究と教育現場のインターフェイス」であると言える。それこそ当部門に求められている大きな役割であると考える。しかし、この３年は、それぞれが業務を抱えながら、とにかく各チームが計画を立て突っ走ってきたというのが現状である。それでも、国内外の研究者とよい出会いがありよい関係を築き、意義ある協働研究を進めることができた。HP に掲載されている「オンライン英作文学習者コーパス・誤用辞典」は、英語・日本語、二つの言語の母語話者に益する具体的な成果の一つと言える。

当部門では、３ヶ年プロジェクトに続き、2013 年度より新たな３ヶ年プロジェクト「母語・地域性をふまえた日本語教育研究とウェブ辞典構築 - 国内外の日本語教育研究機関との協働的研究」（英語・中国語・フランス語・アラビア語・タイ語）(2013-2015 年度）を立ち上げている。この３ヶ年は、研究への次なる一歩と考え、さらに継続的に研究を進め、より具体的な形での日本語教育への還元が課題となる。

おわりに

当部門では、この３ヶ年プロジェクト〈1〉を通して築かれた国内外の研究者とのご縁、連携関係を大事にし、今後も協働研究を推進して参ります。それにより、それぞれの母語話者・地域の日本語教育にさらに寄与することを目指していきたいと考えています。

最後に、このプロジェクトにご協力いただいた多くの皆様に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

注１　「母語・地域性をふまえた日本語教育研究とウェブ辞典構築―国内外の日本語教育研究機関との協働的研究」（英語・中国語・フランス語・アラビア語・タイ語）(2013-2015 年度）

注２　当部門員及び特任教員による海外大学・研究機関・フィールドワークのための出張は以下のとおりである。出張報告は HP で見ることができる。表中の＊は特任研究員を示す。

2009 年度

期間	訪問先	出張者
12/21 ～ 30	台湾大学、東呉大学、輔仁大学、政治大学、元智大学、財団法人交流協会日本語センター	望月圭子
2010/3/15 ～ 24	フランス（パリデイデロ第７大学、スタンダール第３大学、フランス国立東洋言語文化学院、エクス・プロバンス大学、パリ日本文化会館）	谷口龍子
2010/3/21 ～ 26	北京大学外国語学院、北京外国語大学、北京日本学研究センター	望月圭子

2010 年度

期間	訪問先	出張者
5/16 ～ 24	ハーバード大学	望月圭子
8/12 ～ 20	北京大学、北京外語言大学、黒竜江大学	望月圭子

9/19 ～ 26	ブリティッシュ・コロンビア大学、アルバータ大学、ビクトリア大学、モントリオール大学	谷口龍子
11/26 ～ 12/3	カイロ大学	谷口龍子

2011 年度

期間	訪問先	出張者
6/8 ～ 14	北京外国語大学、北京大学、南開大学	望月圭子
8/5 ～ 11	カイロ大学	＊榮谷温子
9/5 ～ 7	リーズ大学	＊キャロライン狩野
2012/3/25 ～ 28	タマサート大学、シーナカリンウィロート大学	鈴木美加

2012 年度

期間	訪問先	出張者
8/18 ～ 20	国際日本語教育大会（名古屋）研究発表	＊小柳昇
2013/3/21 ～ 29	カイロ大学、アインシャムス大学、ミスル科学技術大学他	小林幸江 谷口龍子 ＊榮谷温子

参考文献・資料

谷口龍子・坂本惠「『国内外の高等教育機関における日本語教育事情調査』データベース中間報告Ⅰ－欧米型（日本研究の中の日本語教育）とアジア型（日本語教育から日本研究へ）－」(2012)『日本語・日本学研究』vol.3　国際日本研究センター

望月圭子　Web 版『国際日本語教育部門 3 ヶ年プロジェクト成果論文集　日本語学習者の母語・地域性をふまえた日本語教育研究－国内外の日本語教育研究機関との協働的研究（2010 ～ 2014)』

国際日本研究センター HP (2014)

http://www.tufs.ac.jp/common/icjs/jp/1500.html

刊行物：『国際日本研究センター・ニューズレター』第 1 号～第 12 号

ジャーナル『日本語・日本学研究』 vol.3

http://www.tufs.ac.jp/common/icjs/jp/1300.html

Overview of the Three-Year-Project by International Japanese Education Division

KOBAYASHI yukie (Tokyo University of Foreign Studies)

The International Center for Japanese Studies was established in April 2009 with the mandate to develop a foundation for Japanese language education research. The Center's goal is to build a global hub for Japanese education, and is divided into five divisions: 1) International Japanese Education; 2) Contrastive Japanese; 3) Sociolinguistics; 4) Comparative Japanese Culture; and 5) International Cooperation. Each division has its own unique objectives to achieve with the International Japanese Education division having two main objectives.

The first is to assess the present state of Japanese language education in higher education institutions both inside and outside of Japan, as well as creating a database of its findings that will contribute to research on Japanese education. The second is to develop materials for Japanese education. To achieve this, the project titled "Japanese Language Research Based on Learners' Native Languages and Regional Characteristics—In Cooperation with Educational and research Institutes Offering Japanese Language Study both within Japan and Abroad" was carried out for 3 years from 2010 to 2012. The study developed an interface for a Japanese language education research program with Arabic, English, Chinese, French, and Thai languages that will allow further research to be built atop of it.

第 2 章

〈論文〉日本語とアラビア語の対照研究

詫び表現の形式のバリエーションと機能との関わり

－日本語教育に向けた日本語とアラビア語との対照研究－

谷口　龍子（東京外国語大学）
ハーネム・アハマド（カイロ大学）
榮谷　温子（慶應義塾大学）

キーワード：詫び表現　日本語とアラビア語の対照研究　語用論的機能

1．はじめに

自分の行為を相手に対して詫びる時に使われる表現は、多くの言語にあり、日常生活で使われている。日本語教育においても「すみません」「ごめんなさい」などの定型表現は初級の早い時期に導入されている。

しかしながら、日本語学習者の発話には指導者が予期せぬような表現が使われることがある。次の会話例は、アラビア語エジプト方言[1]（以下、アラビア語）を母語とする日本語学習者の会話例である。試験勉強中に隣家から漏れる音楽の音がうるさいことから苦情を言う場面を設定したロールプレイの実例である。

例 1）A　＊「あの、どうもすいませんが、お願いがあるんですが。」
　　B　　「はい、どうぞ。」

例 1）では、要求の前置きに詫び表現が使われているが、「どうも」という副詞が使用されているために不適切な文になってしまう。学習者には、要求や依頼の際には、詫び表現が前置きとして使われるという指導は受けているようだが、形式を間違えたために非文となっているのである。

英語や中国語にある“sorry”、“对不起”など形式がほぼ決まっている表現と異なり、日本語の「すみません」には、「すいません」「すみませんが」「すみませんね」「すみませんけど」のようなバリエーションがあり、対応する語用論的機能（以下、機能）も異なりが見られるようだ。機能によって副詞等との共起も変わってくるであろう。学習者の誤用の要因は様々であり、上記の誤用を母語の影響と短絡的に判断することはできないが、詫び表現について日本語とアラビア語を対照することを一つのてがかりとしたいと考え、本稿では、アラビア語母語話者への日本語教育研究に向けた対照研究として、日本語とアラビア語の詫び表現のバリエーションに注目することにした。データは、日本語とアラビア語の詫び表現が含まれる談話を映画やテレビドラマの発話から取り、文字化したものを分析する。また、アラビア語については、ロールプレイによる会話データも加え、言語形式と機能の関係について考察した。日本語とアラビア語の詫び表現について言語形式と機能の比較を試みることにより、アラビア語を母語とする日本語教育に向けた基礎的な研究資料も提供できると考えたからである。

2．先行研究

近年の詫び表現に関する研究は、大きく四つの流れに分けられる。一つは、日本語に関し、日本語の詫びや感謝の定型表現の種類を分類し、主に語義の面から体系化、分析したもの（佐久間（1983）、奥津・沼田（1985）、金田一（1987）、森山（1999）である。佐久間（1983）は、テレビドラマの台詞から、日本語の感謝と詫びの定型表現を 130 種類（詫び 70 種、感謝 60 種）挙げて表現別に分類している。

その後、1980 年代後半から 1990 年代前半にかけて Searle（1969）の発話行為理論をもとに、日本語と主に英語との対照研究が行われるようになった（山梨 1986、中田 1989、熊取谷 1988、1993）。Searle（1969）では、発話行為が

適切に行われるために満たすべき条件を規定することで個々の行為の特徴づけを行い、詫びや感謝に関する条件が示されている。陳謝および感謝の適切性条件は以下の通りである。

{陳謝}

1. 命題内容条件：Ｐはｘによる過去の行為
2. 準備条件　　：ｘは自分の行為がｙにマイナスであると信じている
3. 誠実条件　　：ｘは自分の行為を悔いている
4. 本質条件　　：ｘの自分の行為に対するその気持ちの表出

一方、Coulmas（1981:80）は、“indebtedness”（恩義）の有り無しにより詫び（apology）あるいは感謝（thanks）行為が行われるとしている。Searle（1969），Coulmas（1981）等は、詫びる行為の動機や意図の在り処を求めることを最終の目的としている。

詫びる行為を、人間関係を円滑にすすめるための一つのストラテジーと考えているものが、Brown & Levinson（1987）によるポライトネス理論である。Brown & Levinson（1987）は、Goffman（1967）の「フェイス」という概念を取り入れ、人は他者に好かれ、認められ、尊敬され、または評価されたいという「積極的フェイス[2]」（positive face）と、その一方で、他の人から邪魔されたくないという「消極的フェイス」（negative face）の両面を有し、それらを守ろうとする行為が普遍的であることを前提としている。両フェイスを守る目的のためには、フェイスを侵害する行為（face threatening acts: 以下、FTAs）を軽減しなければならず、その行為をそれぞれ「積極的ポライトネス」（positive politeness）、「消極的ポライトネス」（negative politeness）と呼んでいる。Brown & Levinson（1987:187-190）では、“Excuse me, but…”“I’m sorry to bother you…”などの許しを乞う表現（beg forgiveness）が、ネガティブ・ポライトネスの一つのストラテジーであり、FTAs の前に使用される点を指摘している。

「すみません」の使用の実態調査等も多く見られる（酒井 1979、住田 1990、三宅 1994、小川 1995）。三宅（1994）では、日本人の大学生・大学院生とイギリス人の大学生や大学卒業直後の青年層を対象にアンケート調査を行い、日本人の詫び表現の使い方が、相手の負担の量や話し手の利益の大小などの要因以上に、相手の種類や人間関係に強く影響を受けていることを指摘している。さらに、小川（1995）は、世代の異なる社会人にアンケート調査を行い、「すみません」の使用に制約があること、相手や状況による使い分けだけでなく、使用する側に世代差があることを指摘している。三宅（1994）は、日本語と英語の母語話者に対して詫びや感謝の言語表現を誘発しそうな場面を設定してアンケート調査を行い、英語の場合、詫びと感謝の使い分けが明確である点、さらに日本人がウチ・ソトに加えてヨソの人という意識を持ち、表現の使い分けが、場面や情報により大きく異なる点を指摘している。朝日（2008）では、愛知県岡崎市における敬語調査のデータから、話を切り出す場合は「すいません」、恐縮を表明するには「すみません」を多く使用する傾向があるという結果を出している。

これらの実証的研究は、言語表現の種類による使い分け、あるいは一部の定型表現の局所的な機能のみに言及している。

アラビア語に関する詫び研究は、談話完成テストによるデータ収集、使用状況やジェンダー差による詫びストラテジーの相違についての分類が多く見られる（Bataineh& Bataineh（2008）、Nureddeen（2008）など）。言語表現による機能の相違に言及しているものには、Samarah（2010）、谷口・榮谷（2011）がある。Samarah（2010）では、8種類の詫び表現について、社会的要素により分類している。また、谷口・榮谷（2011）は、アラビア語の“maʕliʃʃ”が FTAs（face-threatening acts[3]）の前に使われることに言及している。谷口・榮谷（2012）“maʕliʃʃ”は FTAs を緩和することで相手との修復を図り、“maʕliʃʃ”と詫びられたのに対し、“maʕliʃʃ”と答えることで相手の詫びを受け入れる。また、相手の要求に従わない場合であっても真っ向から対立することなく、“maʕliʃʃ”ではぐらかし、何とか相手との平和的な関係を維持しようと努める。さらに、相手の行為に感謝するばかりでなく、相手への負担に配慮することによっても関係維持に努めようとする姿勢が見られることを指摘している。

これまで見てきたように、詫び表現に関する先行研究は、詫びるという言語行動や詫びる意図に注目するもの、あるいは「ごめん」「すみません」「申し訳ありません」のような会話参加者間の上下関係、親疎関係による使い分け、

詫びられる側の対応も含めた詫び談話の分析などが主なものである。使い分けについても「すみません」「すいません」「すみませんが」など形式が異なるものを「すみません」系と一括りに巨視的に考察している場合が多く、同じ表現のバリエーションと機能との関わりについては、ほとんど看過されてきたと言えよう[4]。ポライトネス理論ではこれらの言語形式のバラエティや同じ表現のバリエーションについて説明することはできない。しかし1章で挙げた学習者の誤用例にあるように、実際にはちょっとした形の違いや副詞との共起が誤用に結びつくケースも少なくないことがわかる。

そこで、本稿では、同じ表現の形式のバリエーションと語用論的機能の相違を副詞などの共起も含めて考察する。

3. 本稿における機能の捉え方とその分類

本章では、本稿における機能の概念と分類について確認する。

3-1 機能の概念

会話のコミュニケーションについて考える際に機能という言葉が使われる時は、通常 Halliday（1985）に代表される機能言語学のアプローチにおける機能あるいは発話行為（speech act）として理解される[5]。機能言語学における言語の機能（functions of language）とは、すなわち使用（use）であり[6]、Halliday（1985）は、統語論のレベルにおいて、観念作用的機能、対人関係的機能、テクスト形成的機能の三つを挙げている。対人関係的機能（interpersonal：言語が話し手の態度の表出あるいは聞き手の態度や行動に対する影響力として機能する場合）が、語用論に属するものであることは、Leech（1983）でも指摘されている[7]。Searle（1969）による発話内行為の種類は以下のようなものである。

①断定型（assertive）、②指示指導型（directives）、③行為拘束型（commissives）、④宣言型（declaratives）、⑤態度表明型（expressive）

これら一般の機能に対する認識について、熊谷（1997:21-22）は、「ある発話の機能を明らかにするということが、その発話がどのような種類の言語行為なのかを特定することは、発話の機能を一面的にしか捉えないこと、言語や文化が異なると機能を特定する際にズレが生じる」ことを指摘し、発話機能を、行為の種類だけでなく、話し手の表出姿勢、話し手と聞き手の関係、やりとりの流れにおける位置づけなど、複数の側面について発話を考察し、特徴の束として広いスコープで発話機能を捉えている。

熊谷（1997:28-29）では、分析項目として｛発話内容・発話姿勢｝①行為的機能（行為要求、注目要求、陳述・表出など）②相手へのはたらきかけの姿勢（肯定的、攻撃的、教示・伝達的など）③話題・内容に対する話し手の評価・態度（肯定的か否定的か）④同調性（同調的、非同調的、保留）｛話し手と相手、および両者の関係｝⑤話し手の種類（もともとの話し手、伝言や代弁など見かけの話し手）⑥発話の受け手の種類（マトモの聞き手、マトモおよびワキの聞き手、不特定多数の聞き手など）⑦話し手と相手との力関係への影響⑧話し手と相手との親疎関係への影響⑨発話のきっかけ（自発的か、事態の推移かなど）⑩発話のうけわたし⑪発話のうけつぎ⑫談話構成上のはたらきが挙げられている。

これらの分析項目は、各々の項目を同次元で網羅しようとする意図がある。しかしながら、話し手の発話意図という観点から見た場合、発話行為と直接的に結びつく最も核心的な機能はおそらく一つであると筆者は考える。たとえば、食堂で料理にかける塩が必要だが、自分の手では取れない位置に塩があった場合、ほかの人に塩を取ってもらうように働きかける。その際には当然、相手と自分との関係や状況を考えて言語形式や談話構造を瞬時に組み立てて発話するであろう。だが、最も核心の発話意図は、「塩を取ってもらう」という依頼である。「すみません。ちょっと塩を取ってもらえますか。すみません。」というひとまとまりの談話の場合、話し手は「塩を取ってもらいたい」という要求があるからこのような談話が生まれるのであり、どのようなスピーチスタイルにするか、または核心部分の前後に言葉を添えるかどうかは、聞き手との関係や状況などから取捨選択されるものであろう。したがって、この談話の中心は依頼と言える。相手に通路をふさがれて通れない時に発する「すみません」は、通路を開けてほしいという要求の機能となる。相手に別れを告げるときに発する「すみません」は、話を終了させることが FTAs に当たることから、詫び表現が使われるのだが、それよりも終了させてその場を去るという意図が優先されることから終了の機

能となる[8]。

3-2　機能の分類

話し手が自分自身の行為について聞き手に詫びる場合「詫び」の機能とする。家族や友人など自分以外の者の行為を代理で詫びた場合も含まれる。聞き手による行為が話し手にとって利益となった場合に発した詫び表現の機能を感謝とする。

相手に行為を要求する機能として[9]、相手が断ることができる立場や状況の場合は「依頼」、相手が断れない立場や状況にいる場合には「要求」、職務上の行為を相手に要求する場合を「指示」とする。「依頼」、「要求」か「指示」かの判断は、話し手と聞き手との関係や発話の場面により判断される。「すいません。次の信号、右曲がって 246 に戻ってもらえます？」のように、形式上は相手が拒否できる疑問文であっても客とタクシーの運転手という関係を鑑みた場合、「すいません」は依頼ではなく、指示の前置きとなる。

相手からの申し出や勧めなどの働きかけを受け入れたり、断ったり、あるいは了解したりする場合にも詫び表現が使われる。相手の申し出や勧めに対し、詫び表現にその行動が伴えば「受け入れ」となる。一方、相手の勧めや申し出に対して詫び表現の使用とともに断りの理由を添えた場合は、「断りの前置き」の機能となる。受け入れか断りかは談話構造や映像から判断する。

談話全体の構成上の機能として、談話を開始させたり、中断させたり、終了させたりする場合も詫び表現が使われる。呼びかけや割り込みは談話の「開始」、中座や別れる時に使われる場合は「終了」の機能となる。

さらに、相手にとって不利益な行為をしたわけでもなく、相手が自分に利益となる行為をしてくれたわけでもない場面や状況にあって、詫び表現を発することがある。これは、相手の間違いを指摘したり、反論するなど FTAs に抵触するような発言をしなければならない時や、相手と気まずい関係になりそうな状況を打開する必要がある時に、詫び表現を使うことにより相手との対立を望んでいないという意思を示し、関係の修復や維持を望むものとして、「関係維持」の機能と呼ぶ。

4. 日本語のテレビドラマの発話データ

もっとも自然談話に近く、しかもできるだけ多くの場面における言語使用の実態を掴むために、テレビドラマ[10]の発話を収集し文字化した。先行研究にはシナリオを扱っているものが多いが、役者によっては、必ずしもシナリオどおりではなく、それぞれの場面においてより自然な発話をする者もいることから、映画やテレビドラマでの実際の発話を文字化したほうが、自然談話に近いデータが収集できると考えた。特に本研究で対象としている詫びや感謝の定型表現は、無意識のうちに発せられる場合が多く、シナリオとは異なり、より自然な言語表現を役者が発話する場合が多いからである[11]。また、使用したテレビドラマは、ストーリーができるだけ一般の日常生活に近いものであり、発話者の年代を 20 代から 40 代の男女に絞った。

データから、詫びの定型表現が使用されている場面の談話を収集し、詫び表現 253 語を含む談話を文字化した。表 1）は、言語表現別に機能を挙げたものである。

表 1）　日本語の詫び表現の言語表現別機能

言語形式	機能	件数	%
ごめん	詫び 24、断り（含前置き）3, 要求･依頼（含前置き）3、関係維持 3, 終了 2	35	14
ごめんなさい	詫び 17, 断り（の前置き）6, 終了（含前置き）2, 呼びかけ 1, 関係維持 1	27	11
ごめん＜繰り返し＞ (＋ほんとうに)	詫び 9、要求 1	10	3.9
ごめんなさい＜繰り返し＞	断り（の前置き）1	1	0
ごめんなさいね	詫び 6, 説明の前置き 1	7	2.7
ごめんね（/ な）	詫び 10、呼びかけ 2、終了 1	13	5.1

すいません	詫び 39、要求・指示・依頼（含前置きと補償）15, 感謝 10, 申し出の受け入れ 7, 了解･許可 6, 関係維持 5, 呼びかけ 5, 終了 2, 断り（の前置き）2, 勧めの受け入れ 1, 割り込み 1	93	36.8
（どうも）すいませんでした	詫び 8, 終了 2	10	4
すいません＜繰り返し＞	詫び 3, 終了 1	4	1.6
すいませんが	断り（の前置き）1, 要求・依頼 2	3	1.2
すみません＜繰り返し＞	詫び 1	1	0
すいませんね	詫び 1	1	0
すまなかったね	詫び 1, 終了 1	2	0.8
すまん	断りの補償 1	1	0
すまん＜繰り返し）＞	詫び 1	1	0
（どうも）すみません	詫び 3, 感謝 1	4	1.6
申し訳ありません	詫び 5、断り（の前置き）2	7	2.8
申し訳ございません	詫び 2、断り（の前置き）1	3	1.2
申し訳ありませんが	断り（の前置き）3	3	1.2
申し訳ありませんでした	詫び 1	1	0
申し訳ないんですが	断り（の前置き）1	1	0
わる（/ り）い	詫び 2, 断り（の前置き）1, 要求の前置き 2, 終了 1	6	2.4
わるいが	指示の前置き 1	1	0
わるいけど	依頼 2、終了の前置き 1、関係維持 1	4	1.6
わるいな	詫び 2、申し出の受け入れ 1、呼びかけ 1	4	1.6
でもわるいな	断り（の前置き）1	1	1.6
わるいんだけど	依頼の前置き 1	1	1.6
わるかったね（/ よ）	詫び 2	2	0.8
（これは）失礼致しました	詫び 3	3	1.2
ご迷惑をおかけしました（+ 深くお詫びいたします）	詫び 3	3	1.2
	計	253	99.9[12]

「すいません」は最も使用頻度が高く、これまでの先行研究でも言及されているように、「詫び」、「要求・依頼」、「断り」や「受け入れ」、「関係維持」、談話構成上の「呼びかけ」、「終了」など、多くの機能を有している。つまり、「勧め」や「申し出」など相手からの働きかけを受け入れる場合も断る場合も同じ表現が使われることから、聞き手にとって判断が難しいことがわかる。

「とても」「大変」のような程度副詞は詫びる程度を示すことから、詫び以外の機能では共起しない。また、「すみません」「ごめん」などの繰り返しも詫びる気持ちの程度を示していることから、詫びの機能以外では使われない。

「わるいな」は申し出の受け入れであるが、「でもわるいな」は断りとして機能し、接続詞との共起により大きく異なることがわかる。

表 2）日本語の詫び表現の機能別言語形式

機能	言語形式	件数	%
詫び	ごめん 24, ごめん（繰り返し）8, ごめんな 3, ごめんね 7, ごめんなさい 17, ごめんなさい（繰り返し）1, ごめんなさいね 6, すいません 39, すいません（繰り返し）3,（どうも）すいませんでした 8, すいませんね 1, すまなかったね 1, すまん（繰り返し）1,（どうも）すみません 2, すみません（繰り返し）1, 申し訳ありません 5, 申し訳ございません 2, 申し訳ありませんでした 1, わるいな 2, わるい 1, わりい 1, わるかったね 1, わるかったよ 1, 失礼しました 3, ご迷惑をおかけしました（+ 深くお詫びいたします）3	142	56.1

要求･依頼（含前置きと補償）	すいません 15, すいませんが 2, ごめん 3, ごめん＜繰り返し＞1, わりい 1, わるい 1, わるいが 1 , わるいけど 2, わるいんだけど 1	27	10.7
関係維持（間違い指摘、言い難い話の前置き、気兼ね）	すいません 5, ごめん 3, ごめんなさい 1, ごめんなさいね 1, わるいけど 1	11	4.3
断り（含前置きと補償）	ごめん 3, ごめんなさい 6, ごめんなさい＜繰り返し＞1, すいません 2, すいませんが 1, でもわるいな 1, 申し訳ありません 2, 申し訳ありませんが 3, 申し訳ございません 1, 申し訳ないんですが 1, わるい 1, すまん 1	23	9.1
申し出の受け入れ	すいません 7, わるいな 1	8	3.2
勧めの受け入れ	すいません 1	1	0.4
了解・許可	すいません 6,（どうも）すいませんでした 1	7	2.8
開始（呼びかけ）	すいません 5, わるいな 1, ごめんね 2, ごめんなさい 1	9	3.6
開始（割り込み）	すいません 1	1	0.4
終了（の前置き）	すいません 2, すいません＜繰り返し＞1, すいませんでした 2, すまなかったね 1, ごめん 2, ごめんなさい 2, ごめんね 1, わるい 1, わるいけど 1	13	5.1
感謝	すいません 10, どうもすみません 1	11	4.3
	計	253	100

「すいませんが」「わるいけど」「申し訳ありませんが」のように接続助詞「が」「けど」と共起する場合は、要求・依頼や断りとして機能し、詫びや呼びかけには使われない。行為要求は重大な FTAs であることから、言いさしとなることが多い。「タ」形のバリエーションにも機能の制約があり、「わるかったね」は「詫び」の機能、「すみませんでした」「申し訳ありませんでした」は「詫び」あるいは「終了」の機能となる。また、接続詞と共起する「でもわるいな」は、「断り」として使われる。

このように言語表現のバリエーションも多岐にわたり、形式と機能の結びつきにも細かな制約があることがわかった[13]。

5. アラビア語の映画の発話データ

10 本の映画[14]から俳優の発話を文字化し、謝罪表現を含む談話データを 59 件抽出した。日本語のデータと同様に、自然なストーリーの映画を選定し、日常生活の会話の場面における成人男女の発話データを記録した。

表 3）アラビア語エジプト方言の詫び表現の形式と機能

機能	言語表現	件数	%
詫び	ʔana m. ʔa:sif/*f.* ʔasfa（11）, maʕliʃʃ（9）、so:ri[15]（6）, maʕliʃʃ+ ʔana m. ʔa:sif/*f.* ʔasfa（2）, maʕliʃʃ< 繰返し >（1）, m. sa:miħ-ni /*f.* samħi:-ni（1）, ʁasbin ʕann-i（1）, m. mutaʔassif/*f.* mutaʔassifa（1）, ʔabu:s ʔi:d-ak（1）, ʔana maħʔuʔ l-ak b-aʕtazir l-ak（1）, ʔana ma-kan-ʃ ʔasˤd-i（1）, ħaʔʔ-ak ʕalej-ja（1）, ma-tizʕali:-ʃ minn-i（1）	37	62.7
感謝	maʕliʃʃ（3）, ʔana *f.* ʔasfa（1）, ʔana *m.* ʔa:sif + maʕliʃʃ（1）	5	8.5
依頼・要求（含前置き）	maʕliʃʃ（4）, so:ri（1）	5	8.5
断り（含前置き）	maʕliʃʃ（5）, so:ri（1）	6	10.2
終了	maʕliʃʃ（1）	1	1.7
関係維持	ʔana *m.* ʔa:sif/（2）, maʕliʃʃ（1）, so:ri（1）maʕliʃʃ< 繰り返し >（1）	5	8.5
	計	59	100

“ʔana *m.* ʔa:sif/*f.* ʔasfa”は、詫びの機能を持つ表現の中で、最も多く使われており、全体の使用頻度は”maʕliʃʃ”が最も高い。詫びる場合の詫び表現の使い分けについては、Samarah (2010) に”maʕliʃʃ”は軽い謝罪と書かれてい

るように、相手に注意された後で詫びたり、子供たちを叱った後で感情的になったことを詫びるなど、発言について詫びる場合に使われる。一方、“ʔana *m.* ʔa:sif/*f.* ʔasfa”など他の詫び表現は、相手に明らかな不利益を与えたり、遅刻をするなど具体的な行為を行った場合に多く使われる[16]。

表 4）複数の機能を持つ詫び表現

言語表現	機能	件数
maʕliʃʃ	詫び 9、断り（含前置き）5、依頼・要求（含前置き）4、感謝 3、関係維持 1、終了 1	23
ʔana *m.* ʔa:sif/*f.* ʔasfa	詫び 10、関係維持 1	11
so:ri	詫び 6、関係維持 1	7
maʕliʃʃ（繰り返し）	詫び 1、関係維持 1	2
	計	43

“maʕliʃʃ”は、「依頼」や「要求」の前置き、「断り」、「感謝」、「終了」、「関係維持」等多くの機能を有していることがわかる。

6. アラビア語のロールプレイ・データ（苦情を言う場面に使われる謝罪表現）

言語表現と機能の関係をより明確にするために、映画データの調査に加えて、ロールプレイ調査を 2 回行った。1 回目（2010 年 8 月から 9 月まで）の調査協力者は、ホテル従業員、カイロ在住者の成人男性、2 回目（2013 年 3 月）はカイロ市内の大学生で、談話データを合計 8 件収録した[17]。発話は、IC レコーダーで録音し、アラビア語の母語話者ならびにアラビア語研究者の共同作業により、IPA を用いて文字化した。設定は、隣家のパーティで音楽が聞こえてきて、翌日の試験勉強ができないことから、隣人に苦情を言う場面である。タスクは、苦情を言うまでの指示のみ与え、その後の展開は自由に行う半構造的なロールプレイとした。データから詫び表現を 27 件抽出することができた。

表 5）アラビア語の詫び表現の言語別機能

言語表現	機能	件数
maʕliʃʃ	要求の前置き 6、関係維持 4、断り（含前置き）4、詫び 1、詫びの受け入れ 1	16
maʕliʃʃ ʔana *m.* ʔa:sif/*f.* ʔasfa	詫び 4	4
ʔana *m.* ʔa:sif/*f.* ʔasfa	詫び 4	4
m. mutaʔassif/*f.* mutaʔassifa	詫び 2	2
ʔana *m.* ʔa:sif/*f.* ʔasfa	詫び 1	1
	計	27

アラビア語エジプト方言では、ほとんどの詫び表現は、詫びる意を表明するために使われており、詫び以外の機能として使われるのは“maʕliʃʃ”のみである。“maʕliʃʃ”は、詫びとしても使われるが、「要求」、「受け入れ」、「断り」、「関係維持」など複数の機能を有している。複数の機能を持つ”maʕliʃʃ”と、「詫び」の機能しか持たない“ana ʔasfa”の違いは次の会話例を見れば明らかである。例 2）は、相手に苦情を言われ、納得した上で、音楽のボリュームを下げることに同意している。この場合は、“maʕliʃʃ”の後に“ʔana ʔasfa”が続いている。

例 2）

Salma: ʔana bass b-aða:kir fa-sˤooti il-musi:qa ʃuwajja mida:jiʔ-ni

（勉強しているから、ちょっと音楽の音が邪魔になっているけど。）

Rana: ʔaah fihimt maʕliʃʃ ʔana ʔasfa χala:sˤ ħ-awatˤtˤti:-h

（はい、わかった。ごめんなさい。音小さくするね。）

一方、例 2）では、苦情を言われた側はパーティを行っているという自分の事情を説明することで逆に相手を説得しようとしている。この場合、相手の要求を受け入れられないという意思を示す FTAs となることから、“maʕliʃʃ”を使用した上で、反論に及んでいる。

例 3）

Biʃu:j: bass maʕliʃʃ lawi sˤ-sˤo:t wa:tˤi ʔaʔall ʃiwayya miʃ ħa-tibʔa muʃkila yaʕni ʔin ʔana ʔaʕraf ʔaða:kir ʃiwayya law watˤtˤeti:-h

（でも、音を小さくして　もらったら、そんなに問題にならない。それなら私も勉強できる。）

Hiba: bass lawi sˤ-sˤo:t watˤtˤe:t-uh ʔil-ħafla miʃ ħa-tibʔa mumtiʕa yaʕni fa-maʕliʃʃ ʔistaħmil-ni yaʕni fa maʕliʃʃ ʔistaħmil-ni nnahardah

（でも、音を小さくすれば、パーティ―はあまり楽しくないよ。だから、ごめんね きょう　私のこと我慢してね。）

アラビア語では、詫びの機能のみを有する“ana ʔasfa”等の詫び表現と、複数の機能を有する“maʕliʃʃ”との使い分けが明確であることが、ロールプレイ調査によりわかった。

7. おわりに（まとめ）

日本語とアラビア語のデータ数が異なり、正確な比較対照は行えなかったが、一定の傾向を知ることはできたと思う[18]。日本語とアラビア語の詫び表現には「詫び」の機能の外に、「依頼」や「要求」などの行為要求、相手からの働きかけに対する「受け入れ」や「断り」、談話の「開始」や「終了」の機能や「感謝」の機能がある点で類似している。また、詫びる必要がない場面においても詫び表現を使うことで、互いの関係修復や関係維持に役立っている。日本語の「すみません」とアラビア語の“maʕliʃʃ”は、いずれも多くの機能を有しており、感謝の意も表すほかに、詫び以外に行為要求、働きかけの受け入れや断りなど FTAs の場面で多く使われているが[19]、「すいません」が有する談話の「開始」や「終了」の機能を、“maʕliʃʃ”は持たない。形式のバリエーションについては、「すみませんが」「わるいけど」「申し訳ありませんが」など逆接の接続助詞が付加される形式は、行為要求や断り、談話の終了などに使われる。接続助詞を付加することで命題を省略するネガティブ・ポライトネスの一つと考えることができる。また、これらの形式は詫びや談話の開始の機能は持たない。詫びとして使われる場合は、「とても」「大変」のような程度副詞が使われたり、詫びの深さを示すために同じ形式や異なる詫び表現が繰り返し使われることがある。

一方、アラビア語では、ほとんどの詫び表現は、詫びの意を表明するために使われており、「詫び」以外の機能として使われるのは“maʕliʃʃ”のみである。“maʕliʃʃ”は、「詫び」としても使われるが、「要求」、「受け入れ」、「断り」、「関係維持」など複数の機能を有している[20]。

このように、アラビア語の詫び表現は、詫びの機能を持つ表現（ʔana *m.* ʔa:sif/*f.* ʔasfa など）と詫び以外の表現を持つ表現（“maʕliʃʃ”など）がかなり明確に分かれているのに対し、日本語では「すみません」が複数の機能を持つと同時に、「すいませんが」などのバリエーションにより機能が異なり、複雑である。したがって、形態的に日本語と異なる言語を母語とする日本語学習者にとっては、教師が指摘しなければ、日本語学習者は「すいません」と「すいませんが」などを同じ機能を持つ異形態として理解し、不適切な場面で「すいませんが」を使用したり、副詞を加えたりすることが起こり得るのであろう。「すいません」のバリエーションと機能の相違についてこれまで研究があまり行われてこなかった理由として、「すいません」と「すいませんが」、「わるいな」と「でもわるいな」などの使い分けは、ネイティブの話者にとって無意識のうちに正確に使い分けられることから、看過されていたことが考えられる。今後、詫び表現の指導においては、形式のバリエーションと機能の関わりに留意して指導することが必要であろう。

参考文献

AL-Adaileh Bilal A.（2011）. When the strategic displacement of the main topic of discussion is used as a face-saving technique:Evidence from Jourdanian Arabic. *Journal of Politeness Research*. pp.239-257.

Austin,J.L.（1975）*How to Do Things with Words*. Cambridge: Harvard University Press.

朝日祥之（2008）「『スミマセン／スイマセン』のコミュニケーション機能－岡崎敬語調査データから－」『社会言語科学会第 22 回大会ワークショップ「同一データの複眼的分析からわかること：岡崎敬語調査 4 場面の再分析」』愛知大学

Bataineh Rula Fahmi, Bataineh Ruba Fahmi（2008）. A cross-cultural comparison of apologies by native speakers of American English and Jordanian Arabic. *Journal of Pragmatics,40*.pp792-821.

Beebe, Leslie M., Tomoko Takahashi, and Robin Uliss-Welt（1990）Pragmatic transfer in ESL refusals.In Scarcella, Robin C., Elaine S. Anderson, and Stephen D. Krashen（eds.）*Developing communicative competence in a second language*. Boston, Mass.: Heinle & Heinle Publishers. pp.55-73.

Blum-Kulka Shoshana, House Juliane, Kasper Gabriele（1989）. *Cross-cultural pragmatics: requests and apologies*. Norwood,NJ Ablex

Brown Penelope and Levinson Stephen（1987⦇1978⦈）. *Politeness: Some Universals in language usage*. Cambridge University Press.（田中典子監訳（2011）『ポライトネス　言語使用における、ある普遍現象』研究社

Coulmas, F.（1981）Poison to Your Soul: Thanks and Apologies Contrastively Viewed. *Conversational Routine*, The Hague Mouton, pp69-91.

Eisenstein Miriam, W.Bodman Jean（1986）. I Very Appreciate': Expressions of Gratitude by Native and Non-native Speakers of American English. *Applied Linguistics*, Vol.7, No.2, Oxford University Press, pp166-185.

Farghal Mohammed.（1995）. The pragmatics of 'inšālah' in Jordanian Arabic. *Multilingua 14-3*. pp.253-270.

Goffman Erving（1967）*Interaction Ritual*. Pantheon Books, New York.

ゴッフマン・アーヴィング著 浅野敏夫訳　（2002）『儀礼としての相互行為』法政大学出版局

Grice Paul（1989）*Studies in the Way of Words*, HUP.（清塚邦彦訳『論理と会話』勁草書房、1998）

Gu.Y.（1990）　Politeness Phenomena in modern Chinese. *Journal of Pragmatics,14（2）*, pp237-257.

橋元良明＆異文化コミュニケーション研究会' 91（1992）「婉曲的コミュニケーション方略の異文化間比較」『東京大学社会情報研究所　調査研究紀要 No.1』東京大学社会情報研究所

林明子（1999）「会話展開のためのストラテジー－「断り」と「詫び」の出現状況と会話展開上の機能―」『東京学芸大学紀要 2 部門』（東京学芸大学）50, pp175-188.

林宅男（2008）『談話分析のアプローチ』研究社

Haugh Michael, Hinze Carl（2003）A metalinguistic approach to deconstructing the Concepts of 'face' and 'politeness' in Chinese, English, Japanese. *Journal of Pragmatics* 35 pp-1561-1581.

彭国躍（1991）「『詫び』行為の遂行とその社会的相関性についてー日中比較社会語用論的視点からー」第 101 回大会研究発表要旨『言語研究』（日本言語学会）99 号 , pp156-157.

――――――（2005）「現代日本語の詫び発話行為の類型と機能」『日本語学』（明治書院）4 月号 vol.24, pp78-90.

堀江・インカピロム・プリヤー（1995）『国立国語研究所研究報告 11 日本語と外国語の対照研究Ⅱマイペンライ－タイ人の言語行動を特徴づける言葉とその文化的背景についての考察　その１－』国立国語研究所

――――――（2000）『日本語と外国語の対照研究Ⅷマイペンライ－タイ人の言語行動を特徴づける言葉とその文化的背景についての考察　その２－』国立国語研究所

Ide Risako（1998）'Sorry for your kindness':Japanese interactional ritual in public discourse. *Journal of Pragmatics, 29*,　pp509-529.

井出里咲子（2005）「スモールトークとあいさつー会話の潤滑油を超えて」『異文化とコミュニケーション』ひつじ書房

生駒知子・志村明彦（1993）「英語から日本語へのプラグマティック・トランスファー『断り』という発話行為について」『日本語教育』79 号 日本語教育学会

柏崎秀子（1992）「話しかけ行動の談話分析―依頼・要求表現の実際を中心に」『日本語教育』79 号

加藤重広（2004）『日本語語用論のしくみ』研究社

熊谷智子（1993）「研究対象としての謝罪」『日本語学』（明治書院）11 月号 vol.12, pp4-12.

――――（1997）「はたらきかけのやりとりとしての会話」『対話と知』（新曜社）, pp21-46.
熊取谷哲夫（1988）「発話行為理論と談話行動から見た日本語の「詫び」と「感謝」」『広島大学教育学部紀要』（広島大学）第 2 部第 37 号 , pp223-233.
――――（1993）「発話行為対照研究のための統合的アプローチ－日英語の「詫び」を例に－」『日本語教育』（日本語教育学会）79 号， pp26-40.
――――（1994）「発話行為としての感謝―適切性条件、表現ストラテジー、談話機能」『日本語学』（明治書院）7 月号 vol.13, pp63-72.
宮地裕（1995）「依頼表現の位置」『日本語学』（明治書院）vo.14　10 月号, pp4-11.
三宅和子（1994）「「詫び」以外で使われる詫び表現―その多様化の実態とウチ・ソト・ヨソの関係―」『日本語教育』（日本語教育学会）82 号， pp134-146.
――――（2011）『日本語の対人関係把握と配慮言語行動』ひつじ書房
森山卓郎 （1990）「「断り」の方略―対人関係調整とコミュニケーション」『言語』19 巻 8 号　大修館書店
――――（1999）「お礼とお詫び－関係修復のシステムとして」『國文學―解釈と教材の研究』（学灯社）第 44 巻、第 6 号， pp78-82.
中田智子（1989）「発話行為としての詫びと感謝」『日本語教育』（日本語教育学会）68 号 , pp191-203.
西村啓子（1981）「感謝と謝罪の言葉における『すみません』の位置」『日本文学ノート』（宮城女学院女子大学日本文学会）第 16 号
西野容子（1993）「会話分析についてーディスコースマーカーを中心として」『日本語学』（明治書院）vol.12　5 月号 , pp89-96.
Nureddeen Fatima Abdurahman.（2008）. Cross cultural pragmatics:Apology strategies in Sudanese Arabic. *Journal of Pragmatics 40*.pp.279-306.
大浜るい子（1997）「日本語による会話終了のメカニズム解明のための予備的考察」『広島大学教育学部紀要』（広島大学）第二部第 46 号、pp159-167.
Owen, Marion（1983）. Apologies and Remedial Interchange, New York: Mouton.
酒井良枝（1979）「『すみません』の用法について」『昭和学院国語国文』第 12 号　昭和學院短期大学國語國文学會 ,pp 119-128.
佐久間勝彦（1983）「感謝と詫び」『講座日本語の表現 3　話しことばの表現』筑摩書房、pp54-66.
Searle, J.R.（1969）*Speech Acts: An essay in the philosophy of language*, Cambridge Univ. Press.
――――（1975）Indirect speech acts. *Syntax and Semantics 3*: Speech Acts, New York: Academic Press, pp265-277.
Samarah Abdullah Y.（2010）.Views of Apology in linguistics: Examples of Arabic culture. *Journal of Language and Literature.No.3*, pp.57-73.
サール .J.R 著 坂本百大・土屋俊訳（1986）『言語行為』勁草書房
Spencer-Oatey Helen（2000）. *Culturally Speaking*, Continuum.
――――（2002）Managing rapport in talk: Using rapport sensitive incidents to explore the motivational concerns underlying the management of relations. *Journal of pragmatics 34*, pp 529-545.
住田幾子（1992）「日本語の詫びのあいさつことば－女子学生の言語生活における談話資料をもとにして－」『日本文学研究』第 28 号、梅光女子学院大学日本文学会
谷口龍子（2007）「日本語と中国語における詫びおよび感謝の表現、対象と機能の関わり」『社会科学ジャーナル』61 COE 特別号、国際基督教大学
――――（2009）『詫びおよび感謝表現の日中対照分析－談話構造から見た機能とポライトネス－』国際基督教大学　博士論文
谷口龍子・榮谷温子（2011）「アラビア語のエジプト方言における詫びおよび感謝表現の語用論的機能」『横浜国立大学留学生センター教育研究論集　シンポジウム『エジプトにおける日本研究－過去、現在、未来』開催記念号』

第 19 号、横浜国立大学
――――――（2012）「儀礼的方言としてのアラビア語―エジプト方言”maʕliʃʃ”の使用―」『日本語・日本学研究』No.2 東京外国語大学国際日本研究センター
Taniguchi Ryuko・Ahmad Hanem・Sakaedani Haruko（2013）‘topological analysis of expressions of apology and thanks-comparative studies of Japanese, Chinese and Arabic’, presentation documents, *13th International Pragmatics Conference*, International Pragmatics Association,
山口和代（1997）「留学生の発話行為と文化的要因に関する一考察―中国人および台湾人留学生を対象として」『異文化間教育』（異文化間教育学会）11 号 , pp125-140.
――――――（2002）「ポライトネスに応じた言語形式と人間関係の認知―中国人ならびに台湾人留学生と日本人母語話者との比較の視点から―」『社会言語科学』（社会言語科学会）第 5 巻第 1 号，pp75-84.
山梨正明（1986）『新英文法選書 12 発話行為』大修館書店

注

1　アラビア語は「フスハー」と呼ばれる「正則アラビア語」と、「アンミーヤ」と言われる日常生活で使われる言葉に大別される。「アンミーヤ」は地域により大きく異なり、日本語を学習するアラビア語母語話者は、言語習得の過程で「アンミーヤ」による内省や転移が予測されることから、本調査のデータは量的、質的データのいずれもアラビア語エジプト方言によるものを収集した。
2　日本語訳はジェニー・トマス著浅羽亮一監修（1998:184）による。
3　Brown and Levinson（1987）では、FTAs が acts すなわち「行為」に付随しているとは限らないことから、6 章において、“face-threatening intention”と言い変えているが、本稿とは直接関わりがないため、本稿では FTAs と呼ぶことにする。
4　これまでこの類の研究が行われてこなかった理由としては、詫びに関する一連の理論研究、発話行為やポライトネス研究の対象とする言語が定型表現の形式が固定化している英語であったことが考えられる。
5　『A Dictionary of Linguistics & Phonetics』（David Crystal,Fifth Edition）p192 の「function」の項目には、－ The role language plays in the context of society or the individual is also referred to by the term ‘function’（social function）.（中略）Several detailed classifications of the social functions of language have been made, especially in HALLIDAYAN linguistics, and in relation to PRAGMATICS and the theory of SPEECH ACTS.　The traditional classification of SENTENCE functions falls between grammatical and SPEECH ACT theory :sentences are said to ‘function’ as STATEMENTS,QUESTIONAS,COMMANDS,etc. とある。
6　Halliday,M.A.K.and Hasan（1985）Language,Context and Text,Geelong:Deakin University Press.｛筧壽雄訳 .1991.『機能文法のすすめ』東京・大修館書店 p26｝による。
7　その他の機能言語学からのアプローチとしては、Jakobson（1960）は、情動的（emotive）、動能的（conative）、関説的（referentical）、交話的（phatic）、メタ言語的（metalingual）、詩的（poetic）の 6 種類の機能を唱え、Hymes（1974）は、それらに状況的機能（contextual）を加えている。
8　話し手の意図に相手が気づかない場合もある。たとえば、電話で会話を終了させようと詫び表現を使った時に、相手が終了の合図と気づかずに、詫びが言及する話題について再び話を始めてしまうような場合である。会話は参加者同士の相互作用であり、会話が進むにつれて機能が話し手の当初のものと異なることもある。たとえ相手が誤解したことに気がついても相手の理解が正しいふりをするような配慮もあり、発話機能が断定し難い場合もある。
9　Searle（1969）では指示指導型（directives）に当たる。
10　日本語データの出所は以下の通り。
「ビューティフル・ライフ」（2000）北川悦吏子（脚本）、TBS テレビ
「やなとなでしこ」（2000）中園ミホ（脚本）、フジテレビ
「ハケンの品格」（2007）中園ミホ（脚本）、日本テレビ
「ハゲタカ」（2007）林宏司（脚本）、NHK
「今週、妻が浮気します」（2007）吉田智子（脚本）、フジテレビ
11　実際、本調査で扱ったテレビドラマ『ビューティフルライフ』の発話データとそのシナリオ（北川悦吏子（2000）『ビューティフルライフ　シナリオ』）の台詞を比べてみたところ、特にあいさつ表現や文末表現に異なりが多数見られた。
12　四捨五入したため、100 パーセントにはならなかった。
13　朝日（2008）の調査結果で示された「すいません」と「すみません」の使い分けは、本調査からは明らかにならなかった。
14　映画のタイトル、監督及び公開年度は以下の通り。

タイトル	監督
Sana Oula Nasb (2004)	Kamla Abu Zekry
Ma' Sabq El Esrar (2012)	Mohamed Samy
Ala Gosseti (2012)	Mohamed Bakir
1/8 Dastet Asrar (2006)	Rami Imam
Ehky Ya Shahrazad (2009)	Yousry Nasrallah
Bolbol Hayran (2010)	Khaled Marae
Firqat Naji Atallah (2012)	Ramy Imam
El Dada Dodi (2008)	Ali Idris
El Hob Keda (2007)	Akram Farid
Hekayat Banat (2012)	Hussein Shawkat

15　英語“sorry”からの借用語である。
16　Samarah（2010）には“maʕliʃʃ”は、いずれの階層でも使われるが、公的な場では比較的使用されず、誠実さが低い（-serious）と

いう説明がある。
17　アラビア語のロールプレイ・データのうち、“maˤliʃʃ”の一部は、谷口・榮谷（2012）で既出。
18　データの分析に関しては、複数のアラビア語エジプト方言のネィティブ・スピーカーとディスカッションを重ねることにより信頼性を高くした。
19　Taniguchi et al.（2013）では、日本語の「すいません」、アラビア語の“maˤliʃʃ”がそれぞれの文化社会において人間関係の維持や修復の際の潤滑油のような役割を果たしていることを指摘している。
20　機能の違いにより“maˤliʃʃ”のイントネーションに異なりが見られるという意見もあるが、今回の調査からでは明らかにならなかった。

Relationship between Various Types of Expressions of Apology and their Functions

– a Comparative Analysis of Japanese and Arabic for Japanese Language Education

Ryuko Taniguchi (Tokyo University of Foreign Studies)
Hanem Ahmad (Cairo University)
Haruko Sakaedani (Keio University)

Keywords : Expressions of Apology, Comparative Analysis of Japanese and Arabic, Pragmatic Functions

As a comparative analysis to be used for research on Japanese language education for Arabic native speakers, this paper examines expressions of apology included in Japanese and Arabic discourse transcribed from movies and TV dramas, and conversation data from role plays in Arabic, to investigate the relationship between linguistic structure and function. Expressions of apology in Japanese and Egyptian Arabic possess similar functions, besides the function of apology, such as request for action, acceptance or rejection of action, beginning or completion of discourse, and showing appreciation. In addition, the expression is used to repair and maintain mutual relationships even when an apology is not necessary. "Sumimasen" in Japanese and "maʕliʃʃ" in Arabic both possess numerous functions and are similar in that they are commonly used in FTAs such as appreciation, request for action, and acceptance or rejection of action. However, "sumimasen" has a function of beginning or completion of discourse which "maʕliʃʃ" does not. Types of expressions with contradictory conjunctions such as "sumimasenga," "warui kedo," or "moushiwake arimasenga" are used in acceptance or rejection of action or completion of discourse. On the other hand, almost all Arabic expressions of apology are used to express apology, except for "maʕliʃʃ" which is used to express other additional functions. "maʕliʃʃ" possesses multiple functions such as request, acceptance, rejection, maintenance of relationship.

In other words, expressions of apology in Egyptian Arabic are clearly separated into expressions with function of apology and expressions with other additional functions, but as "sumimasen" in Japanese possesses multiple functions, learners may learn "sumimasenga" as an allomorph of "sumimasen" with the same functions.

〈論文〉中国語と日本語の対照研究

主観量表現に関する中日対照研究

－大数量の場合を中心に－

彭広陸（北京大学）

キーワード：主観量　大数量　中日対照　複合動詞　とりたて助詞「も」

概要：

数量詞などによる数量表現は、客観的なもの（客観量）と主観的なもの（主観量）に分かれる。後者は数量を表すと同時に、話し手（・書き手）のその数量に対する評価も表している。往々にして有標の形を取る主観量の表現は、更に大数量と少数量に二分できる。話し手の期待値を上回る数値を表すのが大数量であり、その期待値を下回る数値が小数量である。本稿は、中国語と日本語における大数量の表現を考察の対象とするものであるが、大量の実例に基づいて大数量の表現手段を考察してみた。その結果、以下のようなことが明らかになった。中国語も日本語も大数量を表現するにあたって、多種多様な手段が利用されているが、中国語では、動詞または動詞句という語彙的な表現手段がより多く利用されているのに対し、日本語では、取立助辞「も」という文法的な手段が多用されている。

１．はじめに

≪数量≫というのは、物事（出来事も含む）の特徴の一つとして捉えることができる。それが言語化された場合は、数量のカテゴリー（語彙・文法的なカテゴリー）を形作ることになる。数量のカテゴリーについて、李宇明（2000：73 － 74）では、次のような体系が提示されている。

量
- 明量——使用数量词语
- 暗量——不用数量词语

量
- 实量
  - 确量
  - 约量
- 虚量

量
- 客观量
- 主观量
  - 大量
  - 小量

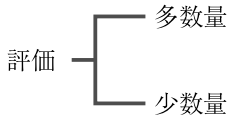
つまり、まず数量詞の使用の有無によって≪明量≫と≪暗量≫に分けることができるし、数量を明確に表現するかどうかに基づいて≪実量≫と≪虚量≫に二分することもできる。≪実量≫は、更に、精確に表現するか、大まかに表現するかによっても≪確量≫と≪約量≫に細分化することができる。一方、客観的に表現される数量が≪客観量≫、主観的（評価的）に表現される数量が≪主観量≫であるという分類も可能だとする。主観量は、更に話し手（・書き手）が多いと感じるか、少ないと感じるかによって、≪大量≫と≪小量≫に下位分類されている。

陳小荷（1994）は、主観量について次のように定義付けている。

> “主观量”是含有主观评价意义的量，与“客观量”相对立。主观量表达的是 说话人对量的大小的主观评价。（「主観量」とは、主観的・評価的な意味が含 まれる量であり、「客観量」と対立するものである。主観量は、量の度合いに 対する話し手の主観的な評価を表現するものである。［引用者訳］）

仁田（1997：95）は、下記のように、主観量のカテゴリーを≪評価≫というカテゴリーとして捉え、≪多数量≫と≪少数量≫の対立と見做している。

以上から、数量に対する系列的意義には≪評価≫といったカテゴリがあり、≪評価≫には、少なくとも「多数量」と「少数量」の二つの成員の存することが分かった。これを図式化すれば、次のようになろう。



蛇足ながら、≪評価≫ のあり方とその数量の絶対量とは関係がない。

具体的な例を見てみよう。

［1］　他吃了两个苹果。／彼はリンゴを二つ食べた。[1]

［2］　他**竟然**吃了两个苹果。／彼はリンゴを二つ**も**食べた。

［3］　他**只**吃了两个苹果。／彼はリンゴを二つ**しか**食べ**なかった**。

［4］　その結果、すぐに不安になる、うつ傾向がある、感情的になりやすいなどの神経過敏な女性はそうでない女性と比べ、生殖能力が12％**も**高かった。特に社会的地位の高い女性のグループでこの傾向が顕著だった。だが、神経過敏な女性の子供は痩せている傾向が強かった。一方、男性は女性と全く反対で、性格が明るく社交的な人の方がそうでない人と比べ、生殖能力が14％高いという結果となった。
(http://www.recordchina.co.jp/group.php?groupid=43140)

［5］　家族も高身長です。父が191cm **も**あります。ただ、兄は小さくて178cm **しかありません**。
（http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1266832957?fr=top_mantenna）

上の例に見られるように、数量詞による数量表現[2]は、話し手（・書き手）の主観的評価の有無によって、主観量の表現（例［2］［3］［5］及び［4］における「12％も」の場合）と客観量の表現（例［1］及び［4］における「14％」の場合）に分化してしまう。そして、例［1］［2］［3］いずれの表す数量も同じであるし、言語化された数量そのものも現実のそれと一致している。ただし、主観量表現の場合は、話し手の主観的な評価も同時に表現されているのである。その上、往々にして主観量は有標の形（例［2］［3］［4］［5］におけるゴシックの箇所）、客観量は無標の形で表現されることになっている。主観量表現のマーカーを消去してしまえば、そのまま客観量の表現になるのが普通である。話し手の主観的評価としての主観量の表現は、更に評価の仕方によって≪大数量≫と≪小数量≫[3]に二分されるが、具体的に言うと、話し手の期待値より大きい数量である場合（例［2］と［4］での「12％も」と［5］での「191cm も」）は大数量、その期待値より小さい数量である場合は小数量の表現（例［3］と［5］での「178cm しかありません」）を取ることになるのである。主観量（大数量と小数量）と客観量との関係は次のように図示することができるだろう。

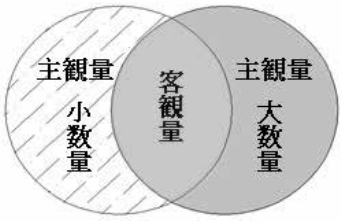


図１　主観量と客観量との関係

主観量の表現は正に主観性の現れではあるが、それについての研究も主観性の研究の一環として位置付けることが

できるだろう。中国語における数量のカテゴリー及び主観量の研究は、李宇明（2000）が代表的なものとしてよく知られているが、ほかには主観量の表現に使われる副詞は個別に扱われることが多い。一方、日本語の数量のカテゴリー及び主観量の研究は、包括的なものとして、仁田（1997）を挙げることができるが、それ以外はあまり見かけないようである。主観量表現の手段としてよく利用される取立助辞（助詞）の研究として、「も」「だけ」「しか」などがよく取り上げられている。主観量の中日対照研究としては、楊凱栄（2002）が注目に値する。他には、張麟声（2010）にも言及が見られる。しかし、主観量に関する体系的な中日対照研究は、管見の限りではまだないようである。

本稿は、中国語と日本語における主観量の表現を比較対照することを目的とするものであるが、枚数に制限があり、大数量の表現に焦点を絞り、その枠組みのスケッチに止めることとする。小数量の表現についての考察は、別稿に譲りたい。

2．大数量と小数量への見直し

楊凱栄（2002）は、大数量の表現と小数量の表現をそれぞれ図２と図３のように≪期待値≫と≪実現値≫との関係を通して説明している。

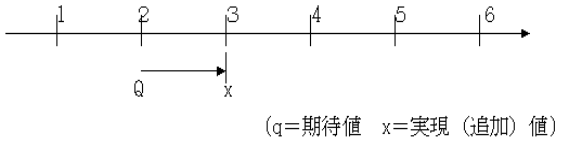


図２　期待値と実現値の関係（大数量の場合）

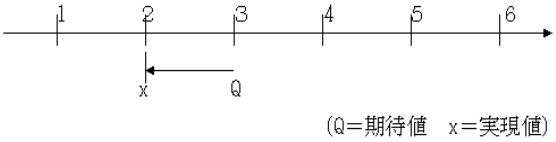


図３　期待値と実現値の関係（小数量の場合）

例［1］～［5］を見ている限りでは、このような見方も納得できるが、実際の主観量の表現は例［6］［7］によっても示されているように、より複雑なものであり、期待値と実現値との関係だけでは説明し切れないケースもあるように思われる。

［6］　２人の月の携帯電話代は合わせて15万を**超えた**。（朝日新聞 2010 年 9 月 22 日夕刊、近畿版）
［7］　我々の会見は、1時間**足らず**で終わった。（誰か Somebody）

例［6］は大数量の表現であり、例［7］は小数量の表現ではあるが、それぞれの例において言語化されている数量（数値）＝「15 万」「1 時間」というのは、現実として現れていた実現値ではない。例［6］の場合は「超えた」ということなので、実現値は 15 万より多いはずであるし、例［7］では「足らず」とあるので、実現値は 1 時間より少ないはずである。そこで、数量詞によって言語化された数値そのものは、実現値とは言えない場合もあることが分った。したがって、≪表現値≫と呼んでおいた方が精確な表現となるだろう。つまり、実際には、期待値（前提値）と表現値と実現値の三者の関係となるわけだが、期待値（前提値）が基本的に言語化されることはないのに対して、言語化された数量そのものは表現値であり、それは実現値と一致する場合（例［1］～［5］）もあれば一致しない場合（例［6］［7］）もあるということになる。

上述したことをまとめると、次の通りとなる。

主観量の表現をする場合に、大数量の表現を取るか、小数量の表現を取るかは、話し手の設定した期待値（前提）と実現値（現実）との関係によって決まる。つまり、実際の数量＝実現値が、前提となる話し手の期待していた数量＝期待値より大きい場合は、大数量の表現を選ぶことになるし、逆に、実現値が期待値より小さい場合は小数量の表現をするようになるわけである。ちなみに、実現値が期待値と一致する場合は、客観量の表現を取ることになる。一方では、必ず言語化され、前景化される表現値は、期待値・実現値との関係においては、大数量表現の場合は、必ず期待値を上回ることになるのだが、実現値とは一致する場合もあれば、それを上回ったり下回ったりすることもある。それに対して、小数量の場合は、必ず期待値を下回ることになるのだが、実現値とは一致することもあれば、それを下回ることもあるのである。両者の違いを図示化すると、下記のようになる。

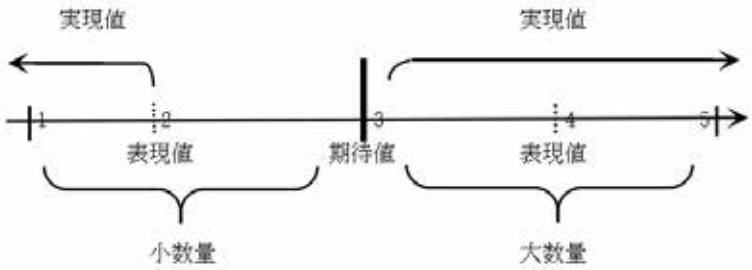


図４　大数量・小数量と期待値・表現値・実現値との関係

３．中国語における大数量表現

中国語における大数量の表現は、非常に発達しており、バラエティーに富んでいる。具体的に言うと、動詞・副詞など語彙的な手段が取られることが多いが、助動詞・助詞・文型などの文法的な手段が利用されることもある。大数量の表現は、意味的に、到達型・超過型・接近型・必要型・変化型・強調型・帰納型・多発型・描写型・実現型・虚量型・意外型、感嘆型などのタイプに分けることができる。

3-1．到達型

このタイプに使われる述語動詞（句）は、もともと移動動詞だったものがメタファーという方法で語彙的な意味が抽象化して数量詞の表す表現値（＝実現値）に達したことを表すようになった単純動詞・複合動詞及びそういう動詞によって作られた動詞句である。≪到達≫を表す単純動詞・複合動詞・動詞句が数量詞と組み合わさって、≪動目構造（述目構造）≫をつくることになり、文のフォーカスをなすことが特徴的である。

（１）単純動詞“达”の場合

［8］　李娜向玉树捐款已**达** 24 万（新京报 2010 年 5 月 13 日）

［9］　国内营养师需求**达** 400 万（新京报 2010 年 7 月 26 日）

［10］　基金公司总数**达** 70 家（北京青年报 2012 年 3 月 13 日）

（２）複合動詞“达到”の場合

［11］　2008 年，中国政府奖学金总人数**达到**了 13516 名，同比增长 33.15%。自费留学人员**达到**了近 21 万人，同比增长 13.29%。（新京报 2009 年 3 月 27 日）

［12］　而云南丽江 1997 年申遗成功，三年后旅游综合收入就**达到** 13.44 亿元。（新京报 2010 年 8 月 12 日）

［13］　项目总投资一期预算 10 个亿，后续投资将**达到** 25 亿。（最后的驻京办）

（３）単純動詞“上”の場合

［14］　“刚到的时候也就一千多块，现在每月我能拿五千以上，最高一月上了万。”（侯卫东官场笔记）

［15］　通常一支气压杆的售价在三四十元左右，甚至有**上**百元的，但最便宜的气压杆一支才卖四五元。（《北京晚报》2012 年 8 月 24 日）

［16］　北京仅各地驻京办的资产，据说就有**上**百亿之多，那么好的院子一直闲置着，听说有不少外国人想买，可是那时国有资产啊，怎么卖？（最后的驻京办）

（4）動詞句（形容詞＋単純動詞）“长达”の場合

［17］ 他和邝明达之间，有着**长达**十几年的亲密关系。（中国式秘书）

［18］ 事实证明，这只是这篇演讲中的一个片段，整个演讲**长达** 43 分钟。（新京报 2010 年 7 月 24 日）

［19］ 虎年大年初一，已经在湖北省江北监狱服刑近 8 年的孙成章，埋头写了**长达** 12 页的控诉状。（作家文摘 2010 年 6 月 18 日）

（5）動詞句（形容詞＋単純動詞）“多达”の場合

［20］ 美国总统奥巴马在他的“Twitter”微博上拥有**多达** 1880 万名粉丝，成为他宣传竞选口号、吸引选民支持的阵地。（新京报 2012 年 8 月 26 日）

［21］ 光是从地板下搜出来的金条**多达** 100 多块，……（组织部新来个年轻人）

［22］ 2007 年，此人便拥有**多达** 22 套房产。（北京晚报 2010 年 8 月 24 日）

（6）動詞句（形容詞＋単純動詞）“高达”の場合

［23］ 吴杰涛在林安县干了整整 8 年的县委书记，从他家搜出来源不明的现金和物品**高达** 2000 多万元人民币。（组织部新来个年轻人）

［24］ 金泉区政府设立不久，工业在这几年才刚刚起步，来追债的几十万人次，债款**高达**几十个亿！（公务员升迁记）

［25］ 阿扎伦卡称和小威最大的差距在发球，小威昨天发出了 13 个 ACE 球，一发得分率**高达** 77%，而阿扎伦卡只有 55%。（新京报 2012 年 9 月 11 日）

（7）複合動詞“不下”の場合

［26］ ……整个晚上给他打了**不下**五个电话……（婚姻门）

［27］ 从形状上看不是烟酒，而是现金，每份估计**不下**二十万元。（中国式秘书）

［28］ 记者发现，仅在家园公寓方圆几公里内，此类长租公寓便**不下**十处。（北京晚报 2010 年 8 月 6 日）

数量詞及び数量詞＋動詞（句）の表す大数量（表現値）は、≪確量≫が多いものの、“十几年”（例［17］）、“几十个亿”（例［24］）、“上百元”（例［15］）、“不下十处”（例［28］）とあるように≪約量≫のケースも少なくない。そして、このタイプの大数量表現による表現値は基本的に実現値とは同じではあるが、“近 21 万人”（例［11］）のように、異なる場合もある。一方、動詞（句）の方は、“达”、“到达”、“上”のようなシンプルな表現もあれば、“长达”“多达”“高达”というように、連用修飾語（中国語文法では“状语”という）となる“长”“多”“高”といった形容詞によって数量（数値）の大きいことが明示される表現もある。“不下”の場合は、「ある数量より少ないことはない」という意味で、否定の角度から大数量を表現しているので、とりあえず≪到達型≫に入れておいた。

3-2. 超過型

このタイプでは、実現値が表現値より大きいことが表現されている。超過型の大数量表現に使われる動詞は、もともと参照点となる一線を超えることを表す移動動詞が中心となっているが、メタファーによる意味拡張、更に言えば意味の抽象化の所産だと言ってよかろう。

（8）単純動詞“超”の場合

［29］《星际迷航》票房**超** 3600 万（新京报 2010 年 5 月 26 日）

［30］ 广汽将向吉奥注资**超** 25 亿（新京报 2010 年 8 月 23 日）

［31］ 黑停车场日入**超**两千（新京报 2013 年 11 月 2 日）

（9）単純動詞“过”の場合

［32］ “申董事长做得很成功，现在她的资产已经**过**亿了。”（乔省长和他的女儿们）

［33］ 其中，个人持股 6.1% 的牛根生一夜之间身家**过**亿。（新京报 2012 年 4 月 24 日）

［34］ 预计到 2015 年产能达到 200 万辆，销量 180 万辆，实现营业额**过**千亿，利润**过**百亿。（新京报 2010 年 8 月 23 日）

(10) 単純動詞“逾”の場合

[35] 预算比去年增长**逾** 22%（新京报 2012 年 4 月 24 日）

[36] 房补支出预算**逾** 15.4 亿元（新京报 2012 年 4 月 24 日）

[37] 生母愿为儿捐肾 爱心筹款已**逾**三万（新京报 2013 年 10 月 4 日 ）

(11) 単純動詞“破”の場合

[38] 购车摇号申请 首**破**百万（新京报 2012 年 8 月 26 日）

[39] 4 年增加逾 50% 美国公共债务**破** 16 万亿美元（北京青年报 2012 年 9 月 6 日）

[40] “黄金周”铁路运客**破** 7000 万（新京报 2013 年 10 月 7 日）

(12) 複合動詞“超过”の場合

[41] 目前，中马两国互派留学生总数**超过** 1.5 万人次。（新京报 2013 年 10 月 4 日）

[42] 根据美国财政部当天公布的数据，截止 4 日，美国公共债务总额已**超过** 16 万亿美元。（北京青年报 2012 年 9 月 6 日）

[43] 全国 31 个省区市鸡蛋价格均已涨至 4 元以上，其中贵州、海南、云南、广东、广西鸡蛋价格位居前列，均**超过** 5 元。（新京报 2010 年 8 月 23 日）

(13) 複合動詞“突破”の場合

[44] 9 月中下旬地铁压力更大，预测中秋和“十一”的前一天的客流都会**突破** 1000 万。（北京晚报 2013 年 9 月 22 日）

[45] 在刚刚过去的 8 月 1 日，陌陌软件上线一年，其用户**突破** 1000 万，日活跃用户 220 多万，每天发送的信息量超过 4000 万条。（北京晚报 2012 年 8 月 21 日）

[46] 电视剧版《杜拉拉升职记》在搜狐网视频单日播放量已**突破**一千万，上网十四天总播放量超过一亿次，创下网播上升速度最快的记录。（新京报 2010 年 8 月 5 日）

(14) 複合動詞“冲破”の場合

[47] 香港股市 15 日随美股上周五（12 日）升势大幅高开 122 点 , 并**冲破** 13900 点水平。（新华社 2004 年新闻稿）

[48] 52.80 比 1 开盘后 , 受日元对美元汇率升值的影响而迅速走高**冲破** 1150 比 1 的关口。（CCL 语料库）

[49] 至 2001 年增长开始加速，2002 年一举**冲破** 6000 元大关。（CCL 语料库）

(15) 複合動詞“不止”の場合[4]

[50] ……自己吃一顿早饭也**不止**两块，况且多半还会赏给招待一块钱小费……（代号）

[51] 临来北京前，我**不止**一次找过她，让她再考虑考虑，婚姻大事可不是儿戏。（CCL 语料库）

[52] 其实，昴星团中远**不止**七颗星，而是由数百颗恒星组成的，与地球相距约 420 光年。（CCL 语料库）

3-3. 接近型

接近型の大数量表現では、動詞または副詞が、実現値が数量詞による表現値に達してはいないものの、近い、あるいは近づいていることを表している。このタイプに使われる動詞も、ほとんどもともと目的地に近づくことを表す移動動詞であるが、派生的な用法と言えよう。副詞“快”は形容詞から転成したものであり、ある時期・時刻が近づいたことを表す時間副詞として機能しているが、更にメタファーによって、ある数値に近づいていることを表すようになっていると考えられる。そして、“快”は口語的な表現であり、それが使用されている時に、文末に助詞（“语气词”とも）“了”が共起していることが特徴となっている。

(16) 単純動詞“近”の場合

[53] 191 名矽肺病人获赔**近** 3000 万（新京报 2010 年 8 月 7 日）

[54] **近** 1 个小时的阅兵太震撼了！（新京报 2009 年 4 月 24 日）

[55] 八公司“自我”增持**近** 13 亿（新京报 2010 年 5 月 12 日）

(17) 複合動詞“接近”の場合

[56] “……一座桥下来，造价**接近**一个亿哩。”（中国式秘书）

［57］ 黄一平就这么忽然病了，发烧到接**近**四十度，说胡话，做噩梦，出冷汗，嘴上燎起蚕豆大的泡。（中国式秘书）

［58］ 这样一来，侯卫东户头上数字已经**接近**一百五十多万，……（侯卫东官场笔记）

（18）複合動詞“逼近”の場合

［59］ 广岛核爆死难者**逼近** 27 万（新京报 2010 年 8 月 7 日）

［60］（港澳台）《投资中国》杂志调查显示，台商在大陆投资**逼近** 800 亿美元。（CCL 语料库）

［61］ 香港楼市持续升温，楼价上升超过 15%；股市由 8000 多点**逼近** 14000 点，在 2 月底达到近 3 年来的新高。（CCL 语料库）

（19）動詞“将近”5 の場合

［62］ 年处长毕竟在省委组织部工作了**将近**二十年，主政部里最重要的市县干部处也有五六年，……（中国式秘书）

［63］ 到现在我已经在部队当兵**将近** 26 年了。（北京晚报 2010 年 7 月 31 日）

［64］ ……走了**将近**一个小时，终于来到货场。（代号）

（20）副詞“快”の場合

［65］ 他问儿子，都**快** 30 了，要找了对象结婚，房子怎么办？（最后的驻京办）

［66］ 她看了一下时间，天，**快**两点了！她这么飞飞停停的，竟然搞了两个多小时。（欲）

［67］ 我一看表，**快**四点钟了，再拖下去，各部队攻击开始，与敌胶着更不好办。（CCL 语料库）

3-4. 必要型

必要型の大数量表現では、数量詞が表現値を表し、≪必要≫という意味を有する動詞または助動詞が、ある目的を達成するために、その数量（表現値）が必要であることを表している。

（21）動詞“要”の場合

［68］ 黄河心想，冬虫夏草每斤**要**几万元，也太破费了。（公务员升迁记）

［69］ “不贵，就三十几万块。”周圆圆淡淡地说道。“哦，**要**三十几万呀。你们当老板的就是不一样。”（公务员升迁记）

［70］ 设计一架大型飞机，单是飞机本体的设计图纸，就**要**十几万张标准图，设计绘图工作量是相当惊人的。（CCL 语料库）

（22） 助動詞“得 (dei)”の場合

［71］ 玫瑰说：“**得** 50 多万吧。”（杜拉拉升职记）

［72］ 骆驼祥子拉那个玩艺儿那是坐洋车，去到西城你至少说你**得**一个钟头吧，一个钟头，那时候路也不方便。（CCL 语料库）

［73］ 我父母啊，我母亲早就死了，都，他们那时，到现在也**得**七八十了。（CCL 语料库）

3-5. 变化型

動作の完了や変化の発生を表す時間副詞“已经”が文中で動詞を修飾するのが普通であるが、数量詞と共起する場合は、意味的に数量詞に係り、ある大きい数量（表現値＝実現値）に達したことを表すようになる。このタイプの表現は、文末（節の末尾も含む）に変化を表す助詞“了”が現れることが特徴的である。

（23）副詞“已经”の場合

［74］ “咱哥儿俩誰和谁啊，你大哥我**已经**喝了 5 瓶啤酒了，早就憋急了。……”（组织部新来个年轻人）

［75］ “……那家公司负债累累，**已经**被法院查封三次了。……”（乔省长和他的女儿们）

［76］ “提醒你一下，这句话你**已经**说了三遍了。……”（乔省长和他的女儿们）

（24）助詞“了”の場合

文末に使われる助詞“了”（いわゆる“了$_2$”）は新しい事態の発生（変化）を表すが、その直前に数量詞が共起している場合には、意味的に数量詞に係るようになり、大きい数値（表現値＝実現値）に達したという意味を表して

いる。

［77］ 真搞笑，除了奶奶之外，今年居然只有他记得我的生日，七年**了**，难为他。（告别天堂）

［78］ 我们在这儿二十多年**了**。（CCL 语料库）

［79］ 曾志民看着他，劝道：“于哥，悠着点。您喝六罐**了**。”（乔省长和他的女儿们）

3-6. 強調型

強調型の大数量は、主に強調の機能を持つ副詞などによって表現されている。“整整”“足足”などの副詞はもともとそれぞれ「端数のない数」「十分であるさま」という意味を表してきたのだが、数量詞と共起する時には、派生的な意味が生まれてきており , 数量詞による数量（表現値＝実現値）が大数量であることを表すマーカーとして機能するようになっているのである。一方、“都”が大数量を表す時には、文末に助詞の“了”が共起していることが特徴的である。

（25）副詞“整整”の場合

［80］ 我已经等了**整整**七年。（告别天堂）

［81］ 论年龄，叶百川比刘梅要**整整**大 20 岁。（最后的驻京办）

［82］ 王伟又是**整整**半个月没有见到拉拉了，……（杜拉拉升职记）

（26）副詞“足足”の場合

［83］ 这部小说，我写了**足足**十个月零两周。（东霓）

［84］ 三个人无一例外赢了，高阳的手气最好，**足足**赢了五六万元。（裸官）

［85］ 包厢里**足足**有二三十人，都是在京的湖东老乡。（最后的驻京办）

（27）動詞句“足足＋有”の場合

［86］ 匆匆整理了一下，**足足有**三十多个人来应聘，……（公务员升迁记）

［87］ 王静对着龚微看了**足足有**一分钟，……（婚姻门）

［88］ 刘莉家是三室一厅，客厅还兼饭厅的功能，**足足有**三十个平方。（侯卫东官场笔记）

（28）動詞句“足＋有”の場合

［89］ 杨副秘书长家是跃式错层，**足有**两百平米。（中国式秘书）

［90］ 跑了**足有**十来天，征订杂志的事终于完成了，……（公务员的温水生活）

［91］ 王仕鹏和记者们在混合区聊了**足有** 15 分钟。（北京青年报 2010 年 9 月 2 日）

（29）副詞“都”の場合

（92）“部长我**都** 29 了，周岁是 28。”（组织部新来个年轻人）

（93）于天青道：“你们来了**都**两个月了，这个案子不大好办吧？”（心机）

（94）拉拉说：“你看我干吗？去洗澡呀，**都**过 11 点了。”（杜拉拉升职记）

3-7. 帰納型

このタイプの大数量表現は、文章語によく見られるが、先行する数量詞の後ろに文語の構造助詞“之”がくっついて、更にそれに形容詞か形態素の“多、久、巨”がくっつく形となっている。この構造における“多、久、巨”などは先行の表現値（＝実現値）が大数量であることを明示する機能を持っている。

（30）“数量詞＋之多”の場合

［95］ 整台演唱会舞美设备令人咋舌，光灯光就有 1500 盏**之多**，总重量更是达到 350 吨。（中国北漂艺人生存实录）

［96］ 据群众反映，金显贵夫妻利用职权之便，近年来大肆攫取钱财，数额巨大，恐有数百万元，甚至上千万元**之多**。（心机）

［97］ 至于省委常委、常务副省长洪日昌，他曾经帮他儿子经商提供了不少方便，为其谋取利益达一两百万元**之多**。（心机）

（31）“数量詞＋之久”の場合

［98］ 她脑子里乱成一团，想不到酝酿了一个月**之久**的表白居然这样草草收场。（乔省长和他的女儿们）

［99］ 这是两个月前的事，他们相识已有五年**之久**了，但婚嫁的事情似乎是在一夜之间完成的，……（风语）

［100］一个作案8年**之久**、流窜多个城市、背负10条人命的公安部A级通缉犯被街头击毙的真实故事，……（北京晚报2012年8月21日）

（32）“数量詞＋之巨”の場合

［101］按照我们自己的标准，贫困人口也有数千万**之巨**。（科技文摘报2011年7月7日）

［102］全球股市大崩溃，市场盛传王培新亏蚀在股票买卖上头的金额达三亿**之巨**。（九重恩怨）

［103］连同中国青少年发展基金会拨下的基金在内已愈百万元**之巨**。（1994年报刊精选）

3-8. 多発型

頻度が高いことを表す“动辄”が数量詞と共起すると、大数量の表現へと移行してしまい、数量詞による数値（表現値＝実現値）が大きいことを強調するようになる。

（33）副詞“动辄”の場合

［104］而每个项目单是前期的规划编制、研讨论证、国际咨询、公共活动等**动辄**就要花费成百上千万元。（新京报2010年8月23日）

［105］现在很多地方**动辄**一两百元的门票相对于普通老百姓的收入比例太高，不免有敛财之嫌。”（新京报2010年8月23日）

［106］公众形象如此之差的阿娇，其艳门照丑闻曝光之后的首度代言费，就**动辄**以百万人民币计，这才是阿娇不懈复出的动力。（北京晚报2009年3月27日）

3-9. 描写型

このタイプの場合は、形容詞または副詞が表現値（＝実現値）に達した物事を具体的に描写するか、動作の仕方を生き生きと描写する形で、大数量を表現している。こういった修飾語が使われていると、必ずと言ってよいほど、大数量を表す数量詞が後続しており、それを際立たせることになるところに特色がある。更に動詞の場合は、形態素として“长”が含まれたり、“长”“苦”などの形容詞によって修飾されたりしながら、数量詞と共起していると、大数量の表現をなすことになる。

（34）形容詞“洋洋”の場合

［107］**洋洋**二十五万字，冯市长定了思路与提纲，内容全部由黄一平操刀，却只给了两个多月的写作时间。（中国式秘书）

［108］1500万字、**洋洋**30大卷的《曾国藩全集》陆续出版，震动了海内外。（1994年报刊精选）

（35）形容詞“满满”の場合

［109］……这一封信他整整写了一个小时，**满满**十二页。（侯卫东官场笔记）

［110］老邢跑遍六大城市，考察了25家丝毯品销售公司，笔记做了**满满**三大本。（1994年报刊精选）

（36）副詞“一下子”“一下”の場合

［111］这次，**一下子**就死了十几个人，恐怕更严重。（组织部新来个年轻人）

［112］可是穴头这时才发现我们的“十佳名模”**一下子**跑掉了4个，据说有一位“名模”是被一位唱歌的拐走了。（中国北漂艺人生存实录）

［113］她在国内没发表过多少论文，在美国却**一下**就发了两篇，看来美国的科研也不难做。（欲）

（37）副詞“一口气”“一气”の場合

［114］黄一平头脑清醒着，心里也明白自己已经喝醉了，尤其是刚才掌握了秦众 学术腐败的证据，他又**一口气**和粽子连干了好几大杯。（中国式秘书）

［115］……他取过稿纸，**一口气**写了五页纸，把相思之苦全部写在了纸上。（侯卫东官场笔记）

［116］**一气**站了两个小时，拉拉少不得两脚轮流倒班支撑身体重心，因为缺乏锻炼，到后来竟累得脸都涨红了。（杜拉拉升职记）

(38) 副詞“一连”の場合

[117] 拉拉这一走，王伟**一连**三个月没有见到她。(杜拉拉升职记)

[118]“拉拉，咱们都**一连**三个多月没见面了。你这是为啥呢？”(杜拉拉升职记)

[119] 不过，冯九思却感觉到，**一连**几个小时与杨炳新关在一起也有好处，这让他们有了交流各自掌握的情报的机会。(代号)

(39) 複合動詞“长考”の場合

[120] 马拉霍夫在**长考**了 30 分钟之后 , 在第 13 步棋以象换马 , 局势变得扑朔迷离。(CCL 语料库)

[121] 第 17 回合 , 叶江川**长考** 20 多分钟 , 挺起中心兵 , 将局面打开。(CCL 语料库)

(40) 動詞句（形容詞 + 単純動詞）“长吻”の場合

[122] 男司仪激情高扬，举起话筒，大声说：“下面，请新郎新娘来个一分钟**长吻！**让我们一起共同见证这天长地久的婚礼。”(公务员升迁记)

[123] 是李慧明过于热情，咬伤了他的唇？还是两人长达 4 分钟的**长吻**太过激烈，连嘴唇都磨破受伤？(http://yule.sohu.com/90/96/earticle164249690.shtml)

(41) 動詞句（形容詞 + 単純動詞）“苦 + 等”の場合

[124] 老杨**苦等**柳月两年没有回报，……(出牌)

[125] 6 月 26 日中午，笔者在天通北苑一区北门等候 933 路公交车前往顺义，在**苦等**了 50 分钟后，姗姗来迟的 933 路公交车竟已人满为患，……(新京报 2011 年 6 月 28 日)

3-10. 実現型

動詞（基本的に一音節の単純動詞）が“上”と結合した上で数量詞と共起すると、大数量の表現となる。このタイプに現れる数量詞は時間の長さを名付けるものがほとんどであり、動作の継続時間が長いことが表現されている。

(42) 動詞 + “上”の場合

[126] 现在，黄西积攒了 90 个笑话，足够他一连**说上** 45 分钟。(北京青年报 2009 年 6 月 5 日)

[127] 对我们倒是件好事，那里足够安静，我们要一壶柠檬茶就能**坐上**三四个小时，那里的情侣桌刚好放得下我们俩的一堆书本。(告别天堂)

[128] 我的梦想是能在同一个地方**住上**六个月，并过上一阵子不变的生活。(我的世界我的梦)

3-11. 虚量型

(43)“好 + 几”の場合

不定を表す数詞“好几”が助数詞（中国語では“量词”）か数量詞と結合すると、約量の大数量の表現となる。

[129] 但大家等了**好**几个钟头，直到十一点左右，才看到他们的身影。(心机)

[130] 您在北京住了**好**几代了吧？(CCL 语料库)

[131] 孟红波病了**好**几年了，为什么在这个时候还要开刀？(上班奴)

3-12. 意外型

意外性を表す陳述副詞が数量詞と共起すると、その数量（表現値 = 実現値）を取り立ててそれが大数量であることを表現するようになる。その場合は、意外性も含意されるところに特色がある。

(44) 副詞“竟”の場合

[132] 好不容易开完了会，华家明第一个离开会议室，一看手机，才发现这会**竟**开了两个多小时，……(公务员的温水生活)

[133] 华家明过来一看，里面都是大额人民币，他过细一数，**竟**有二十扎，也就是二十万，……(公务员的温水生活)

(45) 副詞“竟然”の場合

[134] 第二天，黄一平到银行查了才知道，那卡上**竟然**是五万元。(中国式秘书)

［135］她看了一下时间，天，快两点了！她这么飞飞停停的，**竟然**搞了两个多小时。（欲）

（46）副詞“居然”の場合

［136］叶美兰向来不知道自己的丈夫**居然**拥有百万资产……（杜拉拉２华年似水）

［137］数天来，想着账上的属于自己的净利润**居然**有十二万，侯卫东就一种不真实的感觉。（侯卫东官场笔记）

3-13．感嘆型

助詞“呢”（“语气词”とも）が数量詞のすぐ後ろに連なる場合は、驚きの気持ちでその数量詞による表現値（＝実現値）が大数量であることを強調するようになる。時には誇張のニュアンスを帯びてくることもある。

（47）助詞“呢”の場合

［138］叶茂正躺着舒服呢，看到老婆从牛皮纸袋里掏出不薄的一沓钱，他眼睛一亮，欠起身来问道：“美兰给的？”他老婆点点头高兴地说：“四千**呢！**”（杜拉拉２华年似水）

［139］半小时后，小云从高兴的卧室里出来，轻轻地说：“睡着了。现在高兴越来越难缠了，刚才讲了三个故事**呢！**”（婚姻门）

［140］我的手艺还没学好，还要再学三年**呢**。（現代中国語文法総覧（上））

4．日本語における主観量表現

日本語の大数量は基本的に取立助辞「も」及びいくつかの動詞によって表現されている。

4-1．取立型

（48）取立助辞「も」の場合

日本語の取立助辞たる「も」には、いろいろな意味用法が見られるが、そのいちばん基本的な意味はやはり≪同類≫である。つまり「も」によって取り立てられた物事は、他にあるもう一つの物事と同じ性質・特徴を持っていることを表す用法である。例えば、下記のような場合である。

［141］太郎は日本人です。

［142］花子も日本人です。

これを下記のように図示化することができるだろう。

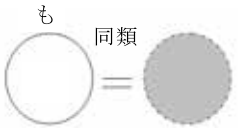


図５　「も」の同類の用法

一方では、「も」には、数量詞に後接して大数量を表す用法もある。次の例がそうである。

［143］妹と私は13**も**年が離れていた。（いま、会いにゆきます）

［144］「3時間**も**長電話しちゃったんですよ。（後略）」（誰かSomebody）

［145］「そう。1ヵ月**も**一緒にいると、わかっちゃうんだよね」（幸福な食卓）

つまり、同じ数値が二つと存在しないため、「も」がある数値（表現値＝実現値）を表す数量詞にくっついてその数値を取り立てることによって、それが大数量であることを表すようになるのである。それを図示すると、次の通りとなる。

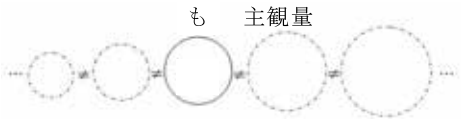


図６　「も」の大数量の用法

「数量詞＋も」が連用修飾語として用言を修飾するのみならず、名詞を修飾することもできる。その場合は、「もの」の形を取る用法と、そのまま「も」の形を取る用法がある。

［146］「30年**も**前のことですものねえ」と、文子さんがフォローしてくれた。（誰かSomebody）

［147］いわば、お国のために29頭**もの**牛、豚が殺されました。（朝日新聞2010年9月23日、近畿版）

［148］調査の結果、米国の約30％**もの**夫婦が、このような「長続きカップル」に該当することがわかったのだ。
（http://xbrand.yahoo.co.jp/category/lifestyle/5210/3.html）

このように、日本語の場合は、何よりも取立助辞の「も」が主観量表現のマーカーとして積極的に機能しているわけである。

（49）複合助辞「にまで」の場合

格助辞「に」と取立助辞「まで」との結合によってできた複合助辞「にまで」は表現値（＝実現値）を表す数量詞に後接すると、それが大数量であることを表現するようになる。大数量とは、話し手（・書き手）にとっては、好ましい場合（例［150］）もあれば、好ましくない場合（例［151］）もある。別に、大数量が好ましい、小数量が好ましくない、というわけではない。そして、好ましいかどうかは、語用論的に決まることになっている。

［149］しかし携帯電話とPHSが普及すると、96年の1080万台をピークに普及台数も減少カーブに入り、今年9月末現在873万台**にまで**落ち込んだ。（毎日新聞1997年12月）

［150］大学を出て入社後の1987年には最高3130円**にまで**上がった株なのに、19日には一時額面ぎりぎりの58円まで下落。（毎日新聞1997年11月）

［151］昨年は経済成長率がマイナス11％近く**にまで**落ち込み、大きな困難に直面している。（毎日新聞1997年11月）

4-2. 到達型

このタイプの大数量表現では、≪移動≫という意味特徴を持った動詞がメタファーという方法によって意味拡張を実現し、数量詞による表現値（＝実現値）が大数量であることを表している。

（50）動詞「上る」の場合

［152］数年間にわたって冷害が続き、餓死者は数10万人に**のぼった**。（朝日新聞 天声人語1993）

［153］売り上げは年間一千万円に**上っている**。（毎日新聞1995年5月）

［154］今年は45本で、3倍近くに**上る**。（毎日新聞1997年6月）

（51）動詞「達する」の場合

［155］変造PCによる被害は、ピークだった95年度の1年間で550億円に**達した**。（毎日新聞1997年11月）

［156］2020年にはその数は200万人に**達する**といわれる。（毎日新聞1997年4月）

［157］今年の累計は一万七千八百四十七人に**達している**。（毎日新聞1992年3月）

（52）動詞「及ぶ」の場合

［158］仲麻呂は唐にあること実に54年に**およんだ**。（朝日新聞2010年9月16日）

［159］その数は40曲に**及ぶ**。（毎日新聞1997年4月）

［160］フルタイムの求職者では65.2％に**及んでいる**。（毎日新聞1994年8月）

（53）動詞「下らない」の場合

［161］救急隊の話では負傷者も数十人は**下らない**。（毎日新聞1991年10月）

［162］安く見積もっても時価三百億円は**下らない**。（毎日新聞 1995 年 6 月）

［163］全国で使われる官官接待費は、年間三百億円は**下らない**といわれる。（毎日新聞 1995 年 8 月）

4-3. 超過型

このタイプを実現する動詞は、ある一線を超えるという意味から派生して、実現値が表現値より大きいことを表すようになったものと考えられる。接尾辞「- 超え」は、大数量表現のマーカーとしてはむしろ例外的である。

（54）動詞「超える」の場合

［164］2 人の月の携帯電話代は合わせて 15 万を**超えた**。（朝日新聞 2010 年 9 月 22 日夕刊、近畿版）

［165］HUS にかかった児童は 100 人を**超え**、元気な今も腎臓検査を続けている。（毎日新聞 1997 年 12 月）

［166］4 大証券で退任した役員は 40 人を**超える**。（毎日新聞 1997 年 10 月）

（55）動詞「突破する」の場合

［167］中央競馬　年間総売上額が 4 兆円を**突破**（毎日新聞 1997 年 12 月）

［168］特に 11 月はすさまじく、ひと月で 3 兆円を**突破してしまった**。（毎日新聞 1997 年 12 月）

［169］宮崎駿監督の「もののけ姫」＝写真＜下＞＝は配給収入 100 億円を**突破**。（毎日新聞 1997 年 12 月）

（56）動詞「超す」の場合

［170］上野駅の構内の総面積は、二十万平方メートルを**超す**。（西村京太郎「上野駅殺人事件」）

［171］クモのグループは、サソリやダニを含め、三万種を**超す**大世帯だ。（タコはいかにしてタコになったか）

［172］桜も大きくなったが、山岡鉄工所も従業員百十人を**超す**ほどになった。（勇者は語らず）

（57）接尾辞「 - 超え」の場合

［173］大会記録を 2 メートル 56 上回り、6 年前にやりの規格が変わってから初の 70 メートル**超え**の快記録だ。（毎日新聞 1992 年 8 月）

［174］◇空前、80 万本**超え**も　家庭用ゲーム機のソフトに異変がおきている。（毎日新聞 1994 年 9 月）

［175］羽生結弦、史上初 100 点**超え**の“衝撃”羽生自身もジャンプが決まるたびにガッツポーズを繰り返し、キス＆クライでも再び拳を握りしめた。得点は 101.45 点。国際大会では世界歴代最高のスコアだ。（http://sochi.sports.yahoo.co.jp/column/Detail/201402140004-spnavi）

例［175］の場合は、実現値（101.45 点）も文脈の中に提示されているが、実現値が表現値（100 点）を上回っていることを示す好例である。表現値の設定は話し手（・書き手）によって決まるのだから、主観的であることは間違いない。その際は、「10」「100」「1000」「10000」…というふうに、一般に大台となる数が人間に認知されやすいため、よく表現値に選ばれることになっているようである。

4-4. 接近型

このタイプに使われる動詞、または形容詞は、空間的にある場所・対象物に近づいていることを表す用法から、実現値が表現値に近づいていることを表す用法が派生してきて、大数量表現のマーカーとして機能している。

（58）動詞「迫る」の場合

［176］北海道拓殖銀行の破たん以降、日本銀行は延べ 4 兆円に**迫る**「日銀特融」を実施した。（毎日新聞 1997 年 12 月）

［177］余勢を駆った 71 年の大統領選では朴正熙大統領（当時）に 95 万票に**迫る**大激戦を展開。（毎日新聞 1997 年 11 月）

［178］覚せい剤の検挙は、前年同期比 1％増の 1 万 8494 人で、2 万人に**迫る**勢い。（毎日新聞 1997 年 12 月）

（59）形容詞「近い」の場合

［179］続いて 35 センチ**近い**大アジ。（毎日新聞 1997 年 8 月）

［180］捕虜の死者は 300 人**近い**といわれる。（毎日新聞 1997 年 8 月）

［181］2 年**近い**ブランクがありながら、カムバックしてからは 5 戦 4 勝。（毎日新聞 1997 年 8 月）

4-5. 変化型

このタイプを実現する動詞としては「膨らむ」しか見られないが、小さい形から大きい形への変化を捉える用法から、大数量たる表現値（＝実現値）が変化の結果であることを表す派生的な用法が生まれたものである。

(60) 動詞「膨らむ」の場合

［182］――その結果、金利負担が増え、国民負担は20兆円以上に**膨らんだ**。（毎日新聞 1997 年 11 月）

［183］交付税特別会計の借入金などを加えた地方の借入金残高は来年度末は約156兆円に**膨らむ**。（毎日新聞 1997 年 12 月）

［184］法人税関係の実質減税額は3300億円に**膨らみ**、税制改正全体の減税総額は7500億円（国税分）に達する。（毎日新聞 1997 年 12 月）

4-6. 範囲型

もともと範囲を表す後置詞が大数量表現のマーカーとして機能するケースもある。

(61) 後置詞「わたって／わたり／わたる」の場合

後置詞「わたって／わたり／わたる」が二格の数量詞に後接して、その数量詞の名づける数値（表現値＝実現値）が大数量であるを表す用法である。例［187］と［188］は同じ出来事に関する報道ではあるが、異なる表現形式によって大数量を表しているのだが、後置詞の場合も取立助辞「も」と同様に大数量表現となることがあることを立証している。

［185］7年に**わたる**景気拡大で、上昇余力は限られてきたようだ。（毎日新聞 1997 年 12 月）

［186］石器時代から鉄器時代初期まで1万年以上に**わたり**文明の流れをシミュレートするゲーム。（毎日新聞 1997 年 12 月）

［187］神戸大は19日、大学院受験を希望する他大学の女子学生と8時間に**わたって**飲食をともにし、中傷したとして、同大大学院人文学研究科の40代の男性准教授を停職1カ月の懲戒処分にしたと発表した。
（http://campus.milkcafe.net/test/read.cgi/koube/1245454223/150）

［188］女子学生と8時間**も**飲食し、中傷　神戸大准教授に懲戒処分（産経新聞 2009.6.19）

4-7. 虚量型

(62)「数量疑問詞＋も」の場合

「何（なん）」によって作られた数量疑問詞が「も」（連体の場合は「もの」）を従えていると、疑問の機能をやめて、大数量を表す機能を獲得するようになる。

［189］呼び出し音は何度**も**鳴った。（誰か Somebody）

［190］私のところにも、相談に来ている自民党国会議員が何人**も**いる。（『朝日新聞』2010 年 9 月 23 日、近畿版）

［191］もっともこの頃は、1日に何十回**も**そう思っていたのだけれど。（いま、会いにゆきます）

［192］「車の事故で、毎日何十人**もの**人が死んでいるんだ。」（いま、会いにゆきます）

4-8. 感嘆型

感嘆詞「なんと」6は、数量詞と共起している場合、意味的に数量詞に係り、数量詞による数値（表現値＝実現値）が大きいことへの驚きを表すようになり、大数量の表現となる。

(63) 感嘆詞「なんと」の場合

［193］北浜は22歳だから、年齢差**なんと**45！（毎日新聞 1997 年 10 月）

［194］この1年だけで2時間7分台が**なんと**8人、8分台も18人がマークしている。（毎日新聞 1997 年 12 月）

［195］今年は**なんと**50本、ワインを一人であけました。（毎日新聞 1997 年 12 月）

5. むすび

以上、典型的な中日両語における大数量の表現形式を考察してきたが、両者の違いを簡単にまとめると、次の通りとなる。

日本語に比べて、中国語の大数量の表現は、動詞、副詞、形容詞、助詞、助動詞などがよく利用され、多種多様であるが、動詞及び動詞句が主な表現手段となっている。日本語の場合も表現手段が助辞、動詞、形容詞、後置詞、感嘆詞のようにバラエティーに富んでいるが、量的には中国語に及ばないし、むしろ「も」が中心的な役割を果たしているようである（計量的な調査をしたわけではないが、どうもそのような印象を受けてしまう）。そして、中国語も日本語も大数量表現に利用される動詞は、移動動詞の派生的な用法によるものが多い。

一方、場面や文脈の助けを借りて無標の形で大数量を表現したりすることもあるのは中日両語に共通することである。枚数の関係で、触れることができなかった。更に次の例のように、音声言語では、数量詞の部分はストレスをおいて発音されるが、文字言語では「！」で表現されることもあるのである。

［196］“哪只一个亿，如果全部解决，几十个亿！”王晶晶严肃地说。（公务员升迁记）

［197］料理本 20 万部！ 小倉優子「カリスマ主婦」で復活の舞台裏

（http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20140203-00000001-nkgendai-ent）

更に、二つ、あるいは二つ以上の大数量のマーカーが同じ文に併用するケースも少なくないが、それについても言及できなかった。今後の研究に俟ちたい。

参考文献

郭雲輝 2011「关于“整”和“整整”的考察」『お茶の水女子大学中国文学会報』30 巻

郭雲輝 2013「关于“足”和“足足”的考察—以表主观量的用法为主—」『言語文化』15-2･3

張麟声 2010「「同類」の「も」と対応する中国語の諸形式との対照研究」,『中国語話者のための日本語教育研究』創刊号

仁田義雄 1997『日本語文法研究序説』くろしお出版彭広陸 1990「中国語の副詞への一考察—評価を表す場合—」（第 206 回 MBK で口頭発表）

楊凱栄 2002「「も」と“也”—数量強調における相異を中心に」（『シリーズ言語科学 4　対照言語学』、東京大学出版会常虹 2007《现代汉语主观量表达研究》吉林大学硕士学位论文陈小荷 1994《主观量问题初探——兼谈副词“就”、“才”、“都”》《世界汉语教学》第 4 期

李善熙 2003《汉语“主观量”的表达研究》《中国社会科学院研究生院博士学位论文》

李宇明 2000《汉语量范畴研究》华中师范大学出版社

注

1　本稿に使用した例文は、出典を示していないものが、筆者による作例であり、出典を明記したものは、筆者が新聞や小説から収集したもの以外に、コーパス SIC と CCL（北京大学中国語言学研究中心）やサイトから検索したものである。用例を挙げる際、数量詞は下線、主観量のマーカーはゴシックで記した。

2　本稿で「数量表現」という時には、数量詞そのものだけを指す場合もあれば、数量詞の他に主観量を表すためのマーカーを含めて指す場合もあるが、「主観量（の）表現」「大数量（の）表現」「小数量（の）表現」という時には、数量詞と主観量のマーカーを含めて指すことにしている。

3　「大数量」「小数量」という用語は、楊凱栄（2002）によるものであり、それぞれ、李宇明（2000）における「大量」「小量」、仁田（1997）の「多数量」「少数量」に相当する。

4　“不止”の品詞については、《现代汉语词典》（第 6 版、商務印書館）では≪副詞≫とされているが、《应用汉语词典》（第 1 版、商務印書館）や『東方中国語辞典』（初版、東方書店）などでは≪動詞≫とされている。ここでは、後者に従うことにする。

5　“将近”の場合も、《现代汉语词典》では副詞として扱われているが、ここでは、《应用汉语词典》や『東方中国語辞典』などに準拠して、それを≪動詞≫と見ることとする。

6　大数量を表す「なんと」の品詞については、国語辞典における扱い方が≪感嘆詞≫説と≪副詞≫説というふうに分れているようである。ここでは、中国語との比較の便宜を図って、感嘆詞とした。

Comparative Studies on "Subjective Quantity Expression" in Chinese and Japanese: the Case Study Analysis on "Large Subjective Quantity Expressions"

PENG Guanglu (Peking University)

Keywords: Subjective Quantity, Subjective Large Quantity, Comparative Studies in Chinese and Japanese, Compound Verb, "*mo*" (*Toritate Joshi*; Modal Focus Particle)

Numeral Expressions are subcategorized to "Objective Quantity Expression" and "Subjective Quantity Expression". The latter implicates speaker's evaluation to the quantity and has a marked form. "Subjective Quantity Expression" is subcategorized to "Subjective Large Quantity" and "Subjective Small Quantity".

This paper aims to focus on "Subjective Large Quantity Expressions" in Chinese and Japanese in terms of comparative viewpoints. The conclusion is that Verb Phrase or "Verb+Complement" type Compound Verb expressions are prominent as "Subjective Large Quantity Expressions" in Chinese, while "Noun/ Noun Phrase+ *mo* (*Toritate Joshi*; Modal Focus Particle in Japanese)" expressions are prominent in Japanese, i.e. to represent "Subjective Large Quantity", the lexical strategy, VP expressions are prominent in Chinese, while the functional strategy, "*mo*" (*Toritate Joshi*; Modal Focus Particle) plays an important role in Japanese.

〈報告〉日本語と英語・中国語の対照研究

オンライン日本語誤用辞典の構築と展望

小柳　昇（拓殖大学）
望月　圭子（東京外国語大学）

キーワード：オンライン　日本語誤用辞典　グローバル COE　コーパス

1．はじめに

東京外国語大学では、2007 年度～ 2011 年度にグローバル COE プログラム「コーパスに基づく言語学教育研究拠点[1]」において、リーズ大学（イギリス）、キエフ国立言語大学（ウクライナ）、銘傳大学（台湾）、淡江大学（台湾）の協力を得て、日本語学習者言コーパスを構築し、公開した[2]。またそこから抽出された誤用データをデータベース化し作成したオンライン日本語誤用辞典を公開した[3]。その後この辞典の構築プロジェクトは国際日本研究センターに引き継がれ、データを追加しながら日本語教育および誤用分析への応用可能性を探ってきた。

本稿はこのオンライン日本語誤用辞典（Online Dictionary of Misused Japanese：以下 ODMJ と略す）の構築と展望についてまとめたものである。2 節ではプロジェクトの流れを 3 つの段階に区切り、現在どの段階にあるのかを示す。次に 3 節では第一段階を概観し、4 節では第二段階である 2013 年度の構築作業に焦点を当てて具体的に述べ、5 節で今後の展望をまとめておく。

2．ODMJ 構築の３つの段階

ODMJ は次に示したように３つの段階で構築されていく予定であり、現在は第二段階にある。

第一段階	2009 年～ 2013 年 3 月　オンライン誤用辞典の可能性を探る： 誤用データをどのようにデータベース化し活用できるかを検討する
第二段階	2013 年 4 月～（現在）　誤用辞典の可能性を検証し改善する： 修正した方針に沿って、実用に堪えうる辞典を作成する
第三段階	誤用辞典のポータルサイト化を目指す： 第二段階の成果を踏まえ、広く学習者の作文データの受け入れ、情報を共有できるようにすると同時に正用コーパス、用例辞典などと相互リンクし、利便性を高める

3．第一段階（2009 年～ 2012 年３月）

リーズ大学、キエフ国立言語大学、銘傳大学、そして淡江大学から提供された作文を電子化し、学習者情報を付けたものが、「日本語学習者言語コーパス」として 2009 年 4 月にウェブ上に公開された。その後 2011 年の最終更新時までに 1756 作文のデータが公開され、検索・閲覧できるようになっている。

ODMJ 構築のプロジェクトはこの作文データのうち最初の３つの大学のデータを利用する形で、2009 年に本格的に始まった。オンライン誤用辞典の可能性を探る段階として、次の目的と方法を採用し設計された。

・対象者・目的

1. 非日本語母語話者の日本語教師

　・・・どのような誤用がどのように訂正されるのかを示す。

2. 日本語学習者のため

・・・（同上）

3. 誤用分析のため

・・・母語話者別の誤用の傾向および共通した誤用の傾向を知る。

・誤用データの抽出と分類

1. 誤用データをエクセルに一文単位で書き込んでデータベース化する。
2. 誤用の分類

「文法」と「語彙」に分け、文法はその意味・機能によって3階層で分類。

誤用のタイプによる分類の導入[4]

（誤選択・誤不足・誤付加・誤形態・誤位置・誤文体）

・検索インターフェース

文字列の入力および分類に基づいた簡易なインターフェース

初期の段階ではまず非日本語母語話者の日本語教師のニーズに応えることを主たる目的とし、実際の誤用データをどの程度の細かさで分類するのが適当かを模索しながら辞典のひな形を作成し、2010年10月に日本語教育学会にてデモンストレーションをした[5]。そこで得られた意見を踏まえ、2011年4月にver.1.0をウェブ上に公開した。同年8月の日本語教育世界大会でその成果を発表し[6]、2011年3月に誤用の分類を一部見直し、データを追加したver.1.1を公開した。

・2011年4月 ver.1.0 公開　作文数：30、総文数：478、抽出誤用例：778

・2012年3月 ver.1.1 更新　作文数：40、総文数：654、抽出誤用例：1057

2012年度はデータをさらに増やし、第三の目的である「誤用分析」に焦点を移し、どのような分析ができるかその可能性を探った。その成果は2012年8月の日本語教育世界大会[7]および2013年3月の国際日本研究センター主催の国際シンポジウムで発表した。分析に利用されたデータはウェブ上の辞典には反映されていないが、次のとおりである。

・2012年6月 ver.1.2（CD版のみ）

作文数：52、総文数：839、抽出誤用例：1339

・2013年3月 ver.1.3（非公開分析用）

作文数：61、総文数：1026、抽出誤用例：1683

4. 第二段階（2013年4月～現在）

4-1　浮き彫りになった問題点

第一段階での構築作業でいくつかの問題点が明らかとなった。第二段階ではそれらの問題点を解決し、第三段階へとつなげていくことを目標としている。改善すべき問題点としては次の4点が挙げられた。

①誤用の分類

・誤用の分類は適切なのか？

②誤用データのタグ付の方法

・データの汎用性（共有と拡張）のために適切な方法は何か？

③誤用分析のためのデータの信頼性

・母語話者別のデータの比較分析にたえるデータを提供できるか？

④検索のインターフェース

・目的に合致した利用しやすいインターフェースはどんなものか？

誤用を抽出するにあたっては、第一段階として作文の添削作業がある。この添削は人間が行うものであり、当然主観が入る。共同作業においてはできるだけ誤用の判定にぶれが出ないような体制を整えることはもちろんだが、もっ

とも作業者を悩ませるのは、①の誤用の分類である。第一段階の構築作業では、より網羅的な分類を目指したが、細かくすればするほど分類作業が煩雑になり、かつ分類そのものに主観が入り込み、誤用分析には適さなくなる。かといって、分類が大雑把であれば、目的の誤用例を検索することにも、誤用の傾向を知ることにもあまり役立たなくなる。誤用データをどのように分類しどのような誤用タグをつけるかは、この誤用辞典をどのようなものにするのかによる。したがって、改めて何を主たる目的とするかが問われた。

②については、初期の段階で予測できたことであり、最終的に第三段階につなげていくためには、データの処理方法に汎用性をもたせる必要があった。また、作文という一つのまとまった談話情報を扱いながら、誤用データ抽出のために文単位で細切れにされ、処理および表示されるという点も問題になった。

③については、提供された作文データの学習者データが必ずしも統一したものではなかったため、比較分析するのに不適切であったこと、またデータそのものが３つの大学に限定されていたことに起因するものである。

④については、初期のデータベース構築の環境に制約があったことに起因するもので、第二段階では見直された目的と設計に従って、新たなインターフェースを作成することが期待された。

4-2　問題解決に向けての作業

4-2-1 方針の修正

ODMJ はその構築の第二段階に入るに当たり、第三段階の到達目標を見据え、目的と設計方針を次のように修正した。

1. 対象者・目的についての方針
   - ・非日本語母語話者の日本語教師に対して教育上有益な情報を提供することを第一の目的とする。
   - ・日本語学習者に対しては、当面は上の目的と連動するが、第三段階で他の学習ツール（正用辞典・用例辞典など）と連携できるように考慮する。
   - ・第三段階において、必要最低限の基準に従って多様な誤用データが広く収集されることを優先し、専門的な誤用分析に堪えうるデータベースを構築することを第一の目的とはしない。
2. データの収集と誤用の分類についての方針
   - ・現在は英語と中国語母語話者のデータが中心となるが、今後は様々な国と地域の誤用データを取集し、国・地域・母語・学習歴および日本語力などの学習者情報を付けてデータベース化する。
   - ・誤用データの分析は利用者（分析者）に任せることにし、本辞典はそのための基本的なデータを提供（ダウンロードも含む）できるようにする。
   - ・誤用の分類はコアとなる必要最低限の項目にとどめ、今後の拡張が可能な様式で設計しておく。

4-2-2　参考にした学習者コーパス

上述の修正方針を具体化するに当たり、現在ウェブ上で公開されている学習者コーパスの設計とウェブサイト（検索用ソフト）のインターフェースを参考にした。参考にしたコーパスは次の二つである。以下にこのコーパスの特徴を簡単に紹介し、参考にした点をまとめておく。

A：日本語学習者作文コーパス[8]（「自然言語処理の技術を利用したタグ付き学習者作文コーパスの開発」科研グループ）
B：学習者コーパス「なたね」[9]（東京工業大学）

Aのコーパスは、中国語と韓国語母語話者の作文データ（304 件）の誤用を、形態素解析することによって形態素単位（品詞情報）によって検索できるようになっている。正用部分の情報も検索して抽出することを可能にするため、正用と誤用を比べるような使い方ができる点が特徴である。

しかし、実際に利用してみると、利用者が知りたい誤用例を検索することがなかなか難しいことがわかる。これは形態素で検索できるようにしていることが、逆に目的の誤用例を探しにくくしていると考えられる。例えば、「こと」に関する誤用例を探そうとしても、（実際「文法」の誤用として登録されているが）形態素で検索しようとしても、

ヒットしない。また、誤用の分類から目的の誤用例を限定しようとしても、タイプとして３つ（文字・文法・文体）、そして統語情報としては形態素解析によって登録された基本的な品詞分類（13 種類）しかない。形態素による検索とは別に文字列を入力して検索できるが、これでは誤用例だけを抽出することができない。つまり、形態素解析したデータは非常に有益な情報を提供し得るが、登録情報がそれに限定されてしまったり、誤用の分類が適切になされていなかったりすると、目的の誤用例に到達することが困難であることを示している。

その一方で、きめ細かな学習情報で絞り込み検索できる点、元データ（添削データを含む）だけでなく、検索した結果のデータをダウンロードできるようになっていることは評価されるべき点である。

Ｂのコーパスは、中国語母語話者を中心に複数の言語を母語とする作文データ（285 件）の誤用（6776 件）が検索できるようになっている。誤用例は基本的な文字列による検索のほか、学習者情報および誤用の種別で絞ることができるようになっている。このコーパスの大きな特徴の一つは文字列による検索を「誤用箇所」と「訂正例」を区別できる点である。これによって利用者は知りたい情報に的確にアクセスできるようになる。第二の特徴として、誤用の分類項目が「誤用の対象」（語の品詞情報）、「誤用の内容」（いわゆる誤用タイプを含む）、そして「誤用の要因・範囲」と、多岐にわたっており、利用者のニーズに合わせて条件を絞ることができる点である。しかし、多岐にわたっている分、それが整理されておらず、どのグループから何を選ぶとどのようなことができるのかが分かりにくい。特に「誤用の内容」を見ると、そこには誤用タイプ（脱落・付加・誤形成・混同・位置など）と統語的範疇（ヴォイス、ポラリティ・テンス・アスペクト・モダリティ）、誤用の環境（共起、統語的呼応）、さらには表記の誤りの分類がすべて含まれており、グループ分けされていない。同一のレベルで誤用タグ付けがされるべきものでないものがこのように提示されているのは使いにくいという印象を与える。Ａのコーパスと違って、利用者が目的の誤用例を検索しやすい設計になってはいるが、誤用の分類がある基準に従って整理されて提示されていないと混乱してしまうおそれがあることを示している。また、学習者情報によって条件を絞って検索することが、母語情報だけに限定されている。学習者の日本語のレベルなど複数の要因と誤用の傾向を調べたいというニーズには応えられない。

その一方で、作文の元データ表示で添削情報の全体が見られる点は評価されるべき点である。誤用例を日本語教育に役立てる場合、第一に「何がどのように訂正されたか」の部分に注目されるべきだが、該当する箇所（文）だけでは不十分であり、それが作文全体の中で、つまりどのような環境で生じているのかを見る必要があるからである。

4-3　第二段階の ODMJ の設計

4-3-1　全体図

4.2 で示した修正された方針と参考とすべき既存のコーパスのメリットとデメリットを踏まえて、次のような設計で構築することにした。

1）誤用データの抽出・登録と分類

1. 作文の元文に XML を用いて誤用タグを付与（マークアップ）する。
2. 誤用の分類・・・どのようなタグを付与するか？
   分類の基準を明確にし、コーパス構築作業者と利用者の双方にとって使いやすいものにする。利用者が目的の誤用情報に的確にアクセスできること、教育上有益な情報を提供することを第一に考えて分類する。

2）検索インターフェース

1. 「訂正前」と「訂正後」を区別して文字列を入力することを基本とする。
2. 学習者情報および誤用のタイプ、誤用の分類によって条件検索ができるようにする。
3. 活用する用言については検索システム内部で「活用展開」を行い、辞書の形を入力するだけで、すべての活用形の文字列の誤用例を検索できるようにする[10]。
4. 検索結果には添削情報が表示され、表示オプションによって作文全体が表示できるようにする。（表示例は巻末資料の図２を参照）
5. 誤用の解説を表示できるようにすると同時に解説中のキーワードからも検索できるようにする。
6. 誤用箇所と関連する情報として「呼応・共起」関係を設定し、誤用箇所そのものの情報だけでなく、誤用が起きやすい＜環境＞を調べられるようにする。

図１　ODMJ の検索画面のイメージ図

4-3-2　誤用の分類の見直し作業

2013 年 3 月の ver.1.3 までの誤用の分類はまず大きく文法、語彙、句・文全体に分け、それをさらに中分類、小分類の三層で分類するという方法をとった。（全体の分類は巻末資料の表 1 を参照）この分類は基本的に誤用例を一つの分類項目に対応させるために作られた網羅的な分類であり、どのような誤用が存在するのかを明らかにするのには一定の効果があったが、誤用コーパスを構築する作業としては限界があり、分類そのものが作業の中心になるという事態に陥った。そのため、第二段階の構築期では、誤用の分類をどうするかが最重要課題となった。

そこで、まず品詞情報以外に誤用を特徴付けるものでかつ有益な情報には何があるのかが検討された。そして日本語の膠着言語としての特徴に注目して文の構成要素に基づいた分類が提案された[11]。この分類は＜述語＞と＜補語＞を中心に＜修飾語＞＜述語の拡張＞＜文の接続要素＞のように拡張していく文の構成要素を取り出して誤用例を対応させたものである。このような誤用の分類は品詞分類と異なり、より客観的に分類が可能になるというメリットがある一方で、その誤用情報がどのような利用価値があるのかが評価しにくいという欠点が指摘された。

そこで、第二段階の構築作業では、このような構成要素についてはもっとも基本的な情報のみに限定し誤用タグを付与し、今後必要に応じて拡張していけるようにすることとし、メインには品詞情報と文法範疇を設定することにした。

4-3-3　誤用タグの種類

2014 年 1 月現在構築中の誤用タグの種類は次のとおりである。まず、大きく「誤用のタイプ」「誤用の分類」「誤用の解説」の 3 つに分けられる。（分類の全体は巻末資料の表 2 を参照）

<u>誤用のタイプ（type）</u>

元文のどの文字列がどのように添削されたかを示す。これまで使用してきたタイプ名は学習者の産出する側からの名称であったが、今後は添削する側からの視点から「置換」「挿入」「削除」の 3 つを設定する[12]。

・置換　○○→●●　（以前の「誤選択」に相当）

<error type=” replace” revised=” ●●” > ○○ </error>

・挿入　ϕ→●●　（以前の「誤不足」に相当）

<error type=” add” revised=” ●●” ></error>

・削除　●●→ϕ　（以前の「誤付加」に相当）

<error type=”delete”revised=””>〇〇</error>

※移動　××〇〇××　→　××××〇〇　（以前の「誤位置」に相当）

削除と挿入を組み合わせ

誤用の分類（category）

誤用の分類はその誤用が生じている語・辞を特徴づけるものとして指定しておくカテゴリーである。カテゴリーは4つのグループから構成される。グループ1は必ず1つ付与される。グループ2は必ず1つ（以上）付与される。・ループ3、4は誤用の内容によって1つ以上付与される。誤用の分類には＜グループ＞の設置はあるが、＜階層＞は設定されていない。これは今回利用する添削・タグ付けツールの仕様によるものだが[13]、階層になっていなくてもxmlの記述によって同様の処理が可能である。この表にある「上位」とは便宜的につけた上位グループの名称であり、実際に誤用タグ内の値には「誤用タグの値」の項目名である。

（例）誤用箇所〇〇はグループ1～4において値1～4によって特徴づけられる

<error category=”誤1_値1,誤2_値2,誤3_値3,誤4_値4”>〇〇</error>

・グループ1：どこに？　誤用が生じている文の構成部分（3種類）

・グループ2：どんな語？　誤用と判定された語または辞の分類（27種類）[14]

・グループ3：どんな形？　語の形［いわゆる活用と述語の形］（6種類）

・グループ4：どんな文法？　文法範疇（13種類）

誤用の解説（comment）

誤用の解説はその誤用がなぜ誤用だと判定されたかを解説したものである。グループ5はどの誤用にも必ず一つ付与され、グループ6は誤用の内容によって一つ以上付与される。

（例）…。わたしは親が→に(replace)注意されて反省した。…

<error comment=”誤5_一文単位,誤6_呼応・共起：｛受身｝が使われているので助詞は「に」を使う”>が</error>

・グループ5：誤用判定の基本

「一文単位」：誤用箇所のある文だけで誤用だと判定される

「文脈依存」：一文では問題ないが、文脈によって誤用だと判定される

・グループ6：誤用判定の詳細

「呼応・共起」：ある語句の存在によって、それと呼応・共起する制約によって誤用だと判定される

「文体統一」：語のレジスターや語の形が文体的に統一されていないことによって誤用だと判定される

誤用の参照（ref）

上述の誤用のタイプ、分類、解説とは別に「誤用の参照」タグを設定する。これはグループ6で「呼応・共起」の値が付与された場合に、その相手側をマークアップするタグである。この属性の値には、グループ2～4と同じ項目が入る。

（例）…。わたしは親が→に（replace）注意されて反省した。…

わたしは親<error comment=”誤5_一文単位,

誤6_呼応・共起：｛受身｝が使われているので助詞は「に」を使う”>が</error>

<error ref=”受身”>注意されて</error>反省した。

4-3-4　データの公開とダウンロード

ODMJ は次の作業工程を経て構築される。①作文（原文）の電子化→②添削→③タグ付与→④ XML 化→⑤ウェブ上アプリケーションへの実装。①で作成される原文のテキストデータ（txt）、②で作成される添削情報付与ファイル（doc）は基本的に公開し、ダウンロードできるようにする予定である。それとは別に検索結果画面より、該当する作文のデータを個別に表示およびダウンロードできるようにする予定である。具体的な動作についてはすでに同様の仕様で公開されている「オンライン英作文学習者コーパス・誤用辞典」のウェブサイトを参照されたい[15]。

5. 今後の展望

ODMJ は、プロジェクトの第二段階に入り、現在新しいインターフェースでオンライン辞典が公開できるようにタグ付作業が進められている。2014 年夏までに専用のウェブサイトに「オンライン日本語誤用辞典 ver.2.0」を公開する予定である。公開後もデータの追加作業を継続し、諸方面からご意見とご批判をいただき、第三段階へ進むべく改善をしていきたいと考えている。

資料：表 1

大分類		中分類		小分類					
1	文法	1-1	取り立て助詞	1-1-1	は	1-8-1	V-(よ)う/まい	1-14-0	接続の基本
		1-2	格助詞	1-1-2	も	1-8-2	V-たい	1-14-1	テ形接続・中止
		1-3	終助詞	1-1-3	だけ・しか	1-8-3	つもり	1-14-2	列挙・継起
		1-4	複合辞	1-1-4	（その他）	1-8-4	V-てほしい/ください	1-14-3	例示
		1-5	ヴォイス	1-2-1	が	1-8-5	なければならない	1-14-4	累加
		1-6	テンス・アスペクト	1-2-2	を	1-8-6	ほうがいい	1-14-5	選択
		1-7	基本文型	1-2-3	に	1-8-7	だろう（か）/かな	1-14-6	様態・付帯状況
		1-8	表現文型・接辞	1-2-4	で	1-8-8	かもしれない	1-14-7	理由・原因
		1-9	待遇表現	1-2-5	から・まで	1-8-9	はず	1-14-8	条件・場合
		1-10	形式名詞	1-2-6	へ	1-8-10	にちがいない	1-14-9	逆接・対比・譲歩
		1-11	指示詞	1-2-7	と	1-8-11	そう（様態）	1-14-10	目的
		1-12	疑問詞	1-2-8	より	1-8-12	よう/みたい	1-14-11	時
		1-13	2語の接続	1-3-1	か	1-8-13	らしい	1-14-12	程度
		1-14	2文の接続	1-3-2	ね・よ	1-8-14	そう（伝聞）	1-14-13	引用
		1-15	修飾	1-3-3	（その他）	1-8-15	べき	1-14-14	前置き
2	語彙	2-1	動詞（和語）	1-5-1	基本文	1-8-16	のだ/んだ	1-14-15	（その他）
		2-2	動詞（漢語）	1-5-2	自動詞・他動詞	1-8-17	わけ	1-15-1	連体修飾
		2-3	動詞（その他）	1-5-3	使役	1-8-18	イ形容詞-くなる/す	1-15-2	連用修飾
		2-4	複合動詞	1-5-4	受身・使役受身	1-8-19	名詞・ナ形容詞-になる/する		
		2-5	イ形容詞	1-5-5	可能・自発				
		2-6	ナ形容詞（和語）	1-5-6	授受・受益表現	1-8-20	V-ようになる/する		
		2-7	ナ形容詞（漢語）	1-6-1	ル形（非過去形）	1-8-21	V-ことになる/する		
		2-8	ナ形容詞（外来語）	1-6-2	タ形（過去形）	1-8-22	比較・最上級		
		2-9	名詞	1-6-3	V-ている	1-8-23	（その他）		
		2-10	人称代名詞	1-6-4	V-てある	1-10-1	の		
		2-11	副詞	1-6-5	V-ておく	1-10-2	こと・もの		
		2-12	連体詞（+名詞）	1-6-6	V-てしまう	1-10-3	ところ		
		2-13	助数詞・数量詞	1-6-7	V-ていく/くる	1-13-1	列挙		
		2-14	接辞	1-6-8	V-てみる	1-13-2	例示		
		2-15	句・連語	1-6-9	V-始める/続ける/終わる/出す	1-13-3	累加		
		2-16	（その他）			1-13-4	選択		
3	句・文全体			1-7-1	肯定文・否定文	1-13-5	（その他）		
				1-7-2	名詞・形容詞・動詞				

資料：図２　XSLT ファイルを使って誤用表示した結果

> きのう本屋に行った。*それから*→*そして* (replace) 本*が*→*を* (replace) *買う*→*買った* (replace)。*その* (add) 本を*持った*→*持って*学校へ行った。

佐野洋「XML データを使った誤用コーパス試作」2013 年 9 月　日本語・英語・中国語誤用コーパス構築研究会用資料より

資料：表２

分類/グループ		誤用タグの値
誤用のタイプ		type
	置き換え	replace
	削除	delete
	挿入	add
	※移動	
誤用の分類		category
誤用が生じている文の構成部分		
誤1	単文	単文節
	複文	主節
		接続節
語と辞の分類		
誤2 正2	助詞	格助詞
		接続助詞
		終助詞
		取り立て助詞
	動詞	一般動詞
		スル動詞
		語彙的複合動詞
		統語的複合動詞
		補助動詞
	助動詞	助動詞
	判定詞	コピュラ
	形容詞	い形容詞
		な形容詞
	名詞	一般名詞
		スル名詞
		形式名詞
		人称代名詞
		数量名詞
	副詞	副詞
	接続詞	接続詞
	指示詞	指示詞
	連体詞	連体詞
	感動詞	感動詞
	接辞	接頭辞
		接尾辞
	慣用句	慣用句
	全体	文・節全体

分類/グループ		誤用タグの値
誤用の分類　category　（つづき）		
語の形（活用）		
誤3 正3		終わる形
		意志の形
		命令の形
		続く形（肯定形）
		続く形（否定形）
		連体修飾の形
文法範疇		
誤4 正4	ヴォイス	基本態
		受身
		可能・自発
		使役
		使役受身
		授受・受益
		自動詞構文
		他動詞構文
	テンス	ル形
		タ形
	アスペクト	アスペクト
	モダリティ	モダリティ
	敬語	敬語
誤用の解説		comment
誤用判定の基本		
誤5		一文単位
		文脈依存
誤用の解説		comment
語用判定の詳細		
誤6		呼応・共起
		文体統一（語）
		文体統一（形）
誤用の参照		ref
呼応・共起の相手側		
		グループ2～4と同じ

注

1 http://cblle.tufs.ac.jp/
2 http://cblle.tufs.ac.jp/llc/ja/search.php?menulang=ja
3 http://cblle.tufs.ac.jp/llc/ja_wrong/
4 誤用のタイプについては主に、市川保子（1997）『誤用日本語例文小辞典』凡人社、市川保子編著（2010）『日本語誤用辞典』スリーエーネットワークを参考にした。
5 小柳昇・テレンスシャア「オンライン日本語学習者作文コーパス・誤用コーパスの作成と日本語教育への活用」2010 年度日本語教育学会秋季大会（神戸）
6 小柳昇・テレンスシャア・望月圭子「オンライン日本語誤用辞典の作成と日本語教育への活用の可能性」2011 年日本語教育世界大会（中国天津）
7 小柳昇・市川淳太・望月圭子「日本語学習者コーパスに基づく 2 文の接続に関する誤用の類型―中国語母語話者と英語母語話者の場合―」2012 年日本語教育国際研究大会（名古屋）、
8 http://sakubun.jpn.org/
9 http://hinoki.ryu.titech.ac.jp/natane
10 例えば文字列入力欄に「行く」と入力して活用展開を ON にすれば「行か / 行き / 行っ / 行け / 行こ」を含む誤用例を検索するように設計される。ODMJ は現段階では形態素解析されないが、文字列に活用形をすべて入れて検索する手間がはぶけるようにする。
11 小柳昇・福田翔・片山晴一・市川淳太「東京外国語大学日本語学習者コーパスとオンライ日本語誤用辞典構築の展望」国際ワークショップ「母語をふまえた外国語教育：日本語・英語・中国語の対照研究と e-learning 教材開発」2013 年 8 月　東京外国語大学
12 「ϕ（ファイ）」はゼロ（該当する要素がない）ことを意味している
13 関西学院大学の于康研究室の協力を得て、添削とタグ付け、xml 出力ができるツール（于康・田中良『日本語誤用コーパスタグ付与ソフト』）の提供を受け、2013 年 11 月より利用することになった。
14 品詞の分類および接辞の分類は、益岡隆志・田窪行則（1992）『基礎日本語文法　改訂版』（くろしお出版）の分類に依拠しているが、一部日本語教育上の配慮から独自に設定、あるいは名称を変更したものがある。
15 http://sano.tufs.ac.jp/lcshare/　※このオンライン辞典も構築途中であり、最終的なサービスの提供形態は今後変わる部分もある。

Comparative Studies on Japanese, English and Chinese; Exploring the Construction of TUFS Online Dictionary of Misused Japanese

OYANAGI Noboru (Takushoku University)
MOCHIZUKI Keiko (Tokyo University of Foreign Studies)

Keywords : Online Dictionary of Misused Japanese, Learners Corpora of Japanese, Error Analysis, Interlangauge

This paper explores how to construct the Online Dictionary of Misused Japanese based on the TUFS GCOE learners corpora of Japanese, which consists of essays written by native speakers of English, Chinese, Russian and Ukrainian.

This paper propose the revised classification of error types for a pedagogical purpose, a new efficient software for revising and annotation and a new interface and search engine.

〈論文〉日本語とフランス語の対照研究

フランス語と日本語の従属節についての一考察

－フランス人日本語学習者の「シ」節使用を例に－

秋廣　尚恵（東京外国語大学）
谷口　龍子（東京外国語大学）

キーワード：　フランス人日本語学習者　　従属節　「シ」節

1．はじめに

日本語の「シ節」文は、初級レベルで導入される表現であるが、フランス語を母語とする日本語学習者には次のような誤用が見られる。

例 1）＊私の猫は可愛いし、親切ではありません。
例 2）＊スポーツをするし、ダイエットをするし、やせるのにがんばります。

いずれも動詞の活用や形態は正しいのだが、従属節と主節のつながりが不適切である。これらの誤用の原因には、日本語とフランス語の従属節と主節の関わりの相違が大きく影響している可能性がある。

そこで、本稿では、フランス語の母語とする日本語学習者に向けた複文指導のための基礎的研究として、まず、フランス語と日本語の従属節に関する先行研究を概観する。その後に日本語の「シ節」文とフランス語との対応、フランス語を母語とする日本語学習者の「シ節」使用の困難点について考察する。

2．フランス語文法における「複文構造」及び「従属節」の記述

2-1 『フランス語の体系的文法　第４版（Grammaire Méthodique du français，4e édition　以下 GMF)』における記述

フランス語の文法はポール・ロワイヤル文法の制定以後、国家の言語政策が文法の規範性に大きく関わっており、日本語の文法研究の比ではないと言える。ここでは、フランス語の複文構造および従属節の研究について概観しつつ、フランス人が文法書などから得て、一般的に持っている従属節の概念が、実際の慣用から離れた、規範的文法の影響を強く受けたものであるということを明らかにしたい。

そのための手がかりとして、GMF の「複文構造（phrase complexe）」及び「従属節（propositions subordonnées）」の記述を見てみよう。数ある文法書の中から、とりわけ GMF を選んだ理由は、この文法書が CAPES[1] や Agrégation[2] といった初中高等教育員資格試験の準備に欠かせない推薦書として挙げられ、Grevisse の「Bon usage（正しい慣用）」と並んで、権威ある規範文法書として、文学系の大学生や教師の間で最も頻繁に参照されており、フランス人学生や教師の文法に対する知識のいわばスタンダードとして考えられているためである。

「複文構造とは何か」という点について、GMF では、「それ自体が全体として、一つの文のタイプ[3]に属し、そのタイプに対応した音声的特徴を有する単位を構成していること、さらに、陳述的なひとまとまりをなす構造として解釈され、一つの完結した発話をなしており（GMF p.780）」、「その中で、それ自体が文構造（P → GN + GV[4]）を持つ要素が、別な文構造を持つ要素と依存関係や連結関係に置かれているもの（GMF p.781）」と定義している。

さらに、この複文構造は「節同士の取り持つ関係のタイプに応じて、伝統的に４つの部類に分けられる（GMF p.780）」として、以下の例をあげている。「並列」、「等位」、「従属」の例を見ても分かるように、意味的な観点から見て全く同じ情報を伝えている文を３つの異なる文法的な特徴（２つの文の併置、等位接続詞による接続、従属接続詞による接続）によって構成することが可能である。

(1) 並列 Juxtaposition：文が併置されている。

例 3) Les chiens aboient, la caravane passe.

ART PL　犬　吠える　PRES 3PL ART SG F　キャラバン　通る　PL 3 SG[5]

(訳)「犬はほえる。キャラバンは通る。」

(2) 等位 Coordination：併置された文を等位接続詞が結び付けている。

例 4) Les chiens aboient, mais la caravane passe.

ART PL　犬　吠える　PRES 3PL,　CONG　ART S F　キャラバン　通る　PRES 3SG

(訳)「犬はほえるが、キャラバンは通る。」

(3) 従属 Subordination：主節に対し何らかの依存関係を持っている。

例 5) Bien que les chiens aboient, la caravane passe.

CONG　ART PL　犬　ほえる　PRES 3PL　ART SG F　キャラバン　通る　PRES3SG

(訳)「犬がほえているにもかかわらず、キャラバンは通る」

(4) 挿入 Insertion：文の途中に挿入される節[6]

例 6) L'été, je le crains, sera chaud.

ART　夏 , SUBJ 1 PRON SG N 3PRON　恐れる　PRES 1SG, be FUT 3SG, 暑い

(訳)「夏は、暑いんじゃないかと思う。」

構成要素をなす節の統語的特徴			文の構成タイプ
接続詞により２つの節の関係を明示するか否か	一つの文として独立したステータスを持つか否か	主節に対して依存関係にあるかどうか	
−	+	−	並列
+	+	−	等位
+	−	+	従属
−	+	+	挿入

表：GMF. p.782

さらに「従属節」について詳しく見てみると、節が主節の中で果たす機能[7]に応じて、「関係節（relatives)」、「補足節（complétives)」、「状況補足節（circonstancielles)」の３つに下位分類されている（GMF p.790)。

(1) 関係節

例 7)　La personne <u>que j'ai rencontrée hier</u>

ART SG F　人　RPRO OBJ　SUBJ 1 PRON SG　have PRES 1 SG　会う　PP F　昨日

(訳)「昨日私が会った人」

(2) 補足節

例 8)　J'attends <u>que la caravane passe</u>.

SUBJ 1PRON SG　待つ PRES 1 SG　CONJ ART F SG　キャラバン通る　PRES 3SG

(訳)「私はキャラバンが通るのを待っている。」

(3) 状況補足節

例 9)　Tu viendras <u>quand tu veux.</u>

SUBJ 2PRON SG　来る PRES 2SG CONJ 時 SUBJ 2PRON SG　欲する PRES 2SG

(訳)「君が来たいときに来るといい」

また、GMF では、「並列」と「等位」をいずれも「並列な要素連鎖（enchaînement parataxique)」である[8]と定義し、「従属的要素連鎖（enchaînement hypotaxique)」である「従属節」に対立するものとして考えている（GMF p.783)。

さらに、統辞的な依存関係という観点から見て、従属節で問題になるのは、主節に対する依存関係においてどのような役割を果たしているかという文内文法レベルの問題だけであって、従属節が文を越える単位の構成にどのように寄与しているかという談話レベルの問題には一切触れられていない。

2-2　コーパスを用いた２つのアプローチによる文法記述

以上にまとめたのは、従来の規範文法書における見解であるが、フランス語の現状を記述する新たな文法書を作成しようとする計画がフランスにおいても目下、積極的に進められている。

2012 年に出版された『フランス語　176 号（Française 176)』で取り上げられたテーマは「フランス語の文法をどのように書くべきか（Comment écrire une grammaire du français ?)」であった。様々な理論的アプローチを背景に書かれたこれまでの文法書の問題点を再検討しつつ、新たな文法書の方向性を探るというのが本雑誌号の趣旨である。編者 Teddy Arnavielle と Gilles Siouffi が述べているように、「フランス語学における文法史はここ数十年のうちに大きな展開を遂げ、文法の分野においても記述的方法が大いに取られるようになった（T.Arnavielle et Gilles Siouffi (2012) p. 3）」。その決定的な要因は 1980 年以降のコーパスを使用した言語学の発展にあったと考えられる。

さらに、Heni-José Deulofeu, Jeanne-Marie Débaisieux が同誌に述べているように、現在、フランスにおいて、新しい記述的文法書を作成しようというプロジェクトには大別して２つの流れがある。この２つの考え方は、コーパス言語学の２つの異なったアプローチにそれぞれ対応している。一つは、「コーパスを補助とする記述（description assistée par le corpus)」であり、もう一つは、「コーパスから出発して行われる記述（description établie à partir du corpus)」である（H.J. Deulofeu & J-M. Débaisieux (2012) p. 28)。

前者は、2004 年から始まった Anne Abeillé を中心とする言語学者 50 人による共著『フランス大文法書（Grande Grammaire du français)』を作成するためのプロジェクトである。大規模な書き言葉、及び話し言葉コーパスに基づき、規範的な用法に留まらず、非規範的慣用も含めて、現在のフランス語に見られる全ての文法現象を網羅的に、百科事典的に説明することを目指している（A. Abeillé, D. Godard (2012) p.47)。

一方、後者は Heni-José Deulofeu, Jeanne-Marie Débaisieux を中心とする「ORFEO[9]（オルフェオ）プロジェクト」として進行中だ。このプロジェクトでは、これまで各機関が個別に所有していた話し言葉コーパスを一箇所に集め、ジャンルごとにきちんと分類し、電子化されたデータベースを作り上げつつ、ジャンルごとのデータの違いから見た多角的なフランス語文法の新しい記述を行う。前者の試みと大きく異なり、フランス語文法を網羅的に説明することを目指すのではなく、コーパスの中に現れる現象から出発して、フランス語の実態を時代、地域、話者や発話状況の違いを考慮しつつ立体的に把握することを目指す。前者が「コーパス基盤型（corpus based)」なのに対し、後者は、コーパスに現われない現象は一切扱わないという徹底した「コーパス主導型（corpus driven)」の研究であるという点で大きな違いがある（H.J. Deulofeu& J-M. Débaisieux (2012) p. 27)。

既にこの雑誌号で繰り返し、様々な執筆者によって、述べられているように、この２つのアプローチは理論的に補完的なものであり、どちらかがより優れているということはない。その証拠に２つのプロジェクトに兼任で参加している研究者も多い。

2-3　フランス語話し言葉における新たな従属節研究

興味深いことに、後者のコーパス主導型研究の中から、フランス語話し言葉コーパスにおける「挿入節」や「従属節」の概念の新たな見直しが始まっている。「従属節」がフランス語の話し言葉ではあまり多く現れないという事実は、GMF でも既に指摘されている（GMF　p. 792）[10]。これには、フランス語独特の語順の問題[11]も絡んでいる。フランス語の話し言葉では、従属節を使うよりは、併置文で述べてしまうか、等位接続文によって表現する傾向がある。さらに、Jeanne-Marie Débaisieux, Henri-José Deulofeu, Philippe Martin (2008) の研究を見ても分かるように、フランス語にも、実際には、日本語に見られるような「言いさし表現」や「従属節の倒置」に相当する例が観察される。さらに、話者の転換に伴って主節から従属節が切り離される例[12]も存在する。こうした話し言葉に特有の従属節の用法を取り上げ、文内文法と談話文法の相関関係を取り持つ独自のステータスを従属節が持ちうることを彼らの研究は明らかにしようとしている。

例 10)（柔道の練習で、先生が生徒たちに技を見本としてゆっくりやって見せる。あまりにゆっくりなので、生徒たちがあまり効果的な技ではないだろうと疑いの目で見ているので、先生が言う）

“Parce que là c’est à l’entraînement mais normalement ça se

CONJ（理由） そこ　PRON　be PREPà ART　練習　CONJ, 通常　PRON

fait beaucoup plus vite

なされる　たくさん　もっと　速く

（訳）「これは練習だから。でも、普通はもっとずっとすばやくやるんだ。」

J-M. Débaisieux, H-J. Delofeu, P. Martin（2008）p.225

この例で、理由を表している parce que 節は、言語化された主節を持たない代わりに、非言語的なコンテクスト（ゆっくりやってみせたこと）に結びついていると考えられる。また、独立した文の特徴である下がり調子のイントネーションによって発音され、また「正当化（justification)」の発話行為を担う単位[13]として談話文法的にも独立した機能を果たしていると分析されている。

現在、企画段階にある新たな文法書の中には、こうした従属節の問題についての新しい研究成果も盛り込まれるであろうし、新しい文法書の普及によって、フランス人学生や教員の文法に対する知識や見方も、次第に変わって行く可能性があることは確かだろう。

しかし、それはまだまだ遠い将来の話である。現在のところ、大学生や教師の多くが、従来の規範文法書の記述をスタンダードとして学び、その枠組みの中で、もっぱら従属節を考えていることを忘れてはならない。

3. 日本語の従属節と「シ」節の用法

3.1　日本語の従属節研究

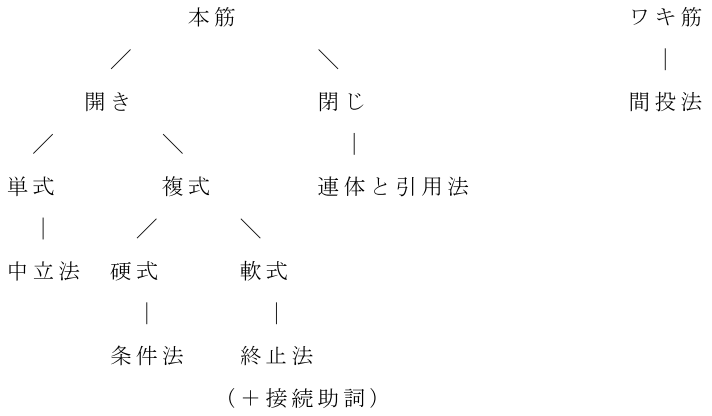
日本語の従属節研究については、三上章（1953, 2002)、南不二男（1974)、仁田義雄（1993)、益岡隆志（1997)、野田尚志（2002)、高橋太郎（2005)、村木（2007）等が挙げられる[14]。三上章（1953, 2002）は、文中の要素間の依存関係に着目し、次のような基準をもとに、「開き」と「閉じ」に 2 分類した。

1　連用補語を食い止めるかどうか

2　連体として収まるかどうか

3　普通体を丁寧体に変更することがふさわしいかどうか

1 は名詞の格成分が述語を食い止められるかどうかをテストするものであり、動詞中止連用形（「シ」「シテ」の形式）は、連用補語を食い止められない単式で、条件形（「シタ」「スレバ」など）は連用補語を食い止められる複式となる。2 は、連体修飾句に収まるかどうかを問うものであり、例えば「ノデ」「カラ」を比べた場合、三上によると、「ノデ」は連体に収まるが、（例：（雨ガ降ルノデ遠足ヲヤメタ連中）ガ)、「カラ」は収まらないとする（例：雨ガ降ルカラ遠（遠足ヲヤメタ連中）ガ)。三上の分類は以下のように図式される。



三上（2002）による

南（1974）は、日本語の文の構造は階層的であるとし、従属節[15]の述語と述語以外の共起する要素の種類により、従属節を四つ（A「描述」B「判断」C「提出」D「表出」に段階を分けている。A「描述」段階は、「～ナガラ」（継続）「～ツツ」などで、ヴォイスの形式は現れるが、否定、アスペクト、テンスやムードの形式などと共起できない（＊飲まないナガラ、＊飲んだナガラ、＊飲もうナガラ）。B「判断」段階は、「～タラ」「～ト」「～ナラ」「～ノデ」「～ノニ」「～バ」などの形式で、A「描述」段階に現れる形式に加えて、アスペクト、否定、テンスの形式は現れるが、推量などムードの形式は現れない。本稿の考察対象である「～シ」は、C「提出」段階（「～ガ」「～カラ」「～ケレド（モ）」）にあたり、時や場所の修飾語、副詞などの述語的部分以外の要素との共起も制限される従属句をとし，テンスやアスペクトとの共起制限もなく、最も自由なふるまいができるとしている。ちなみに、D「表出」段階は、聞き手に対する働きかけ、感情・感覚の直接的表現で、従属句の内部構成要素には現れない。仁田（1993）は、従属節（従節）を副詞節、中止・条件節、接続節、時間関係節、連体規定節などに分け、副詞節、中止・条件節、接続節は、それぞれ南（1974）の A,B,C 類に対応するものと考えられる。益岡（1997）は、従属節を「名詞節」「連体（修飾）節」「連用（修飾）節」「並列節」の 4 つに分けている。野田（2002）は、節と単語は連続するもので、その区別は絶対的なものではないとしながらも主文に対する機能から「連用節」「名詞節」「連体節」に分類している。村木（2007）は、自立的な名詞に接続する真性連体節と、非自律的な名詞や名詞に準ずる形式に接続する疑似連体節に分けている。疑似連体節は、さらに名詞相当節（「～コト」「～ノ」など）、形容詞化指標（「～ヨウ」「～ソウ」「～ミタイ」など）副詞相当節（「～カタワラ」「～アマリ」「～ワリニ」など）に分かれる。

以上述べてきた国語学における従属節研究は、従属節の内部構造を中心に分析されたものである。従属節と主節の関係や、コーパス等による話し言葉についての体系的な研究は管見の限りではほとんど行われていないようである。

3-2 「シ」節の意味・用法

小林（1993）は、「シ」節を含む文構造と文章構造とが相関関係を持つことを以下のように例証している。

① 文単位での「シ」節の用法

・付加：ex. この公園は広いし、きれいだ。[16]

・対比：ex. この公園は桜がきれだし、秋は紅葉がすばらしい。

・反対：ex. 宝くじに当たればうれしいし、当たらなくてもどうということはない。

・理由：ex. この公園は広いし、きれだし、いつも大勢の人でにぎわっている。

・補足説明：ex. この公園は入園料はとらないし、すべて国の費用でまかなわれている。

・例示：ex. さくらだけでも 10 種類はあるし、この公園は木の種類が多い。

② 文と文との関わりにおける「シ」節の用法

・並列的な関係

・付加：ex. この公園は都心に近い。中も広いし、きれいだ。

・対比：ex. この公園は春はさくらがきれいだ。秋は秋で紅葉がすばらしいし、眺めも最高だ。

・反対：ex. 宝くじに当たればうれしい。当たらなくてもだめもとだし、どうということはない。

・「判断」と「提示」の関係

・理由：ex. この公園が人気があるのは当然だ。広いし、きれいだし、都心にも近い。

・補足説明：ex. この公園はいつでもオープンしているわけではない。夕方 6 時になれば閉まる氏、月曜は定休日だし、冬の間は休みとなる。

・例示：ex. この公園は木の種類が多い。さくらだけでも 10 種類はあるし、松も 5，6 種類はある。

ここで、1 章で挙げたフランス人学習者の誤用例を見てみよう。例 1 ）＊「私の猫は可愛いし、親切ではありません。」は、「シ」節の用法のうち、対比（ex.「この公園は、春はさくらがきれいだし、秋は紅葉がすばらしい」）あるいは反対（ex.「宝くじに当たればうれしいし、当たらなくてもどうということはない。」）の理解が不十分であったことから生まれた可能性がある。もう一つの誤用例＊「スポーツをするし、ダイエットをするし、やせるのにがんばります。」の場合、「がんばります」が意志形であることから、不適切となり、主節の部分を「彼女はやせるのにがん

ばっています。」とすれば、話者による提示と判断となり、適切な文となる。

小林（1993）は、「シ」節が日本語学習者にとって難しい理由として、さらに、「シ」節が「文脈の意識が不可欠で、文の見込み、省略も多々行われ、表現は暗示的となる」（1993：25 ～ 26）、「シ」によって並びたてる事柄も客観的に共存する事実だけでなく、話者の主観によって困ることから、論説文などには使われる、ジャンルにもしばりがある点も指摘している。

また、寺村（1992）は、「彼は、ピアノもギターも琴も弾けるし、フルートやトランペットも吹けるし、歌も得意だし、作曲、編曲もできる」という例を挙げ、これら複数の節を統括するのは、「彼は才能に恵まれている」という統括命題であり、「シ」節は統括命題をつなぐ役割を果たしていることを指摘している。

3-3 「シ」節の分類

寺村（1992）、小林（1993）をふまえ、さらに分析を進めたのが、白川（2001）である。白川（2001）は、寺村（1992）のいう統括命題を持たない構文（＜併存用法＞ＰシＱシＲ型構文：Ex. けんかっ早いし、けんかに強い。）と、統括命題を持つ構文（＜列挙用法＞ＰシＱシＸ型構文：Ex.「泣かれて、愚痴を聞かされて、まいったよ。」）に分け、さらに、以下のような言いさしのバリエーションも提示している。

① 「X。 ＰシＱシ。」型：並列関係にあるのはシ節同士のみで、先行文はシ節の文内容と「統括命題－個別事象」の関係に解釈される。

例）「いや、ここでもあまり約に立たなくて（笑）。故障はするし、大会は勝てないし。」白川（2001：832）

②「ＰシＱシ。ø。」型：「シ」節の統括命題が言語化されず、言外に暗示されたもの

例）「お姉ちゃんは、あんたのことが好きなのよ、そんなこともわからないの？どうして待てないのよ！こういう時にこそ支えるのが男でしょ？」「そうだけど・・・純子さんにはいつもこの人がついているし、僕の前からさらってっちゃうし・・・。」白川（2001：832）

寺村（1992）、小林（1993）、白川（2001）からは、「シ」節の使用の難しさが従属節と主節の意味的関わりや心的態度にあることが示唆されているのだが、「シ」節に関して、談話文法や語用面における研究があまり進んでいないと言えよう。

4.「シ節」のフランス語訳について

フランス人がどのように「シ」節を解釈しているかを知るために、「シ」節のいろいろな用法がフランス語でどのように訳されるかを見てみよう[17]。

第一に、初級文法の授業で真っ先に導入されるものが、理由や根拠を列挙する用法である。このような用法は、理由を表す従属節の列挙（Comme...et que...）の形式によってフランス語でもほぼ直訳的に翻訳することが可能だ。

例 11）「仕事はアルバイトだし、恋人もいないし、ぜんぜんだめです。」

Comme je ne fais qu'un petit boulot et
CONJ 理由 SUBJ 1PRON SG　Neg　する　DET　アルバイト　CONJ

que je n'ai pas de petite amie,
CONJ 繰り返し　SUBJ 1PRON SG　Neg　have Neg　PREP　恋人

ma vie ne va pas bien du tout
POSS 1SG　生活　Neg　行く　Neg　ADV よく　全然

また、フランス語には、alors...que... あるいは tandis...que...のように「対比」を表す従属節が形式として存在する。一部の「対比」を表す「シ」節の例は、これらのフランス語の構文によって翻訳が可能だ。ただし、フランス語

のこれら２つの構文では、二つの節が完全に矛盾した内容であることが要件である。例えば、以下の例を alors que で訳した場合、「仕事がきついのだから給料は良くて当然なのだが、それに反して、給料は実は安い」という意味でもっぱら解釈される。

例 12)「仕事はきついし、給料は安い。」

Le travail est dur alors que le salaire est médiocre.

ART　M　SG　仕事　be PL　3 SG　きつい　従属 CONJ　ART　M　SG　給料　be PL3SG　乏しい

前述した例 1) ＊「私の猫は可愛いし、親切ではありません」の誤用は、alors que からの内省により生まれた可能性がある。

ところで、後に見るように、「シ」節によって表現される対比には、ただ矛盾した内容だけでなく、対比された個々の事象をまとめる統括的な命題が存在したり、あるいは、ひとつの事象について２つの異なる両面が存在することを表現することが多い。このような「シ」節独自の対比の表現は alors que や tandis que による訳が難しく、等位接続によって訳さざるを得ない。

例 13)「人生には、いいときもあるし、悪いときもある。」

ans la vie, il y a de bons et de mauvais moments.

PREP 中に　ART F SG　人生 ,VERB ある ART いい CONJ　悪い　とき

例 14)「書かなくてもいいし、書いてもいい。」

Ce n'est pas la peine d'écrire,

PRON　Neg　be Neg　ART F SG　苦労　PREP　書く 不定形 ,

mais tu peux le faire, (si tu veux) .

CONJ　SUBJ 2PRON SG　できる PL2 SG　NPRON　する 不定形 , (CONJ SJNCT　SUBJ 2SG　欲する PL 2SG)

また、いわゆる並列的な「シ」節の用法なども、従属節で訳すよりは、等位接続によって訳す。

例 15)「彼はピアノが上手だし、歌もうまい。」

Il joue bien du piano et il chante aussi bien.

SUBJ 3MSG　弾く　上手に　PREP ART MSG　ピアノ　CONJ　SUBJ 3MSG　歌う　同じように　上手に

さらに、若者言葉のくだけた会話によく現れる終助詞的な用法と言われる独特なモダリティの価値を持った用法は、従属節にしろ等位接続にしろ、フランス語に訳すことが非常に困難である。以下の例はドラマ『最高の人生の終わり方』から抜粋した会話の例を仏訳したものである。L1、L2 は会話の話者２人をそれぞれ表す。

例 16) (L1 が庭のイチゴを差し出し , L2 はそれを食べてみるが、そのすっぱさに顔をしかめる)

L1：「あまいぞー！」

Elles doivent être sucrées !

SUBJ 3F PL　must 3PL　be 不定形　甘い PL !

L2：「すっぱいし！」

C'est (pourtant) acide ![10]

PRON　be 3SG PL　すっぱい !

前述した例 2) ＊「スポーツをするし、ダイエットをするし、やせるのにがんばります。」の誤用は、「シ」節を等

位接続と単純に理解し、主節との関係に考慮しなかったことから生まれたものであると予想される。

以上のように、日本語の「シ」節をフランス語に訳す場合は、逆接表現 “alors que”や“tandis que”が使われることもあれば、等位接続“et”が使われることもあることから、フランス語を母語とする日本語学習者にとって習得が難しいことが予想される。

5. 日本語教育における「シ」節の導入について

4章で見たように、「シ」節はフランス語では従属節を取らないケースの方がむしろ多いことが分かる。そして、翻訳の難易度は実は習得の難易度にも関係しているようである。

また、初級の文法講座で用いられている文法説明やいわゆる日仏翻訳の練習問題を見ると、「シ」節に関しては、状況補足をなす従属節として比較的説明がつき易い用法である「理由の列挙（énumération de causes)」だけが、例文や練習問題としてあげられ、教えられているだけで、「シ」節の持つ多様な用法を全体的に概観できるような説明はされていない。

さらに、フランスの大学における日本語教育では、フランス人学生は中級以降、かなり難しい日本語のテキストの読解を始める場合が多い。また、普段自宅でドラマや映画などを見ている学生もかなりいる。こうした生教材の中で新たな「シ」節の用法に出会う機会は頻繁にある。しかし、フランス語で書かれた中級レベル以降の日本語の教科書が皆無であり、かつ、読解の授業自体が、日本語教育の専門家ではなく、各分野のフランス人研究者によって、主に、フランス語での訳文作成もしくは大意要約をするという形で行われ、日本語の学習というよりは、むしろ専門的な文献を読ませる目的で進められているために、中級レベル以降、再度導入しなおさなくてはならないような「シ」節の様々な用法を、外国語教育と言う観点から導入し、十分に練習させていないのが現状である。

5-1 フランス語母語者の誤用

(1) データについて

筆者は、2012年9月から2013年1月までエクス・マルセイユ大学の日本語学科で学部3年生から修士2年の学生の例文を集めた。特に「シ」節の使用を促すようなテスト形式を用いず、作文、会話のクラスにおける自然な発話、作文の中に現われた例を抜粋する方法によって27例収集した。そのうち「シ」節の誤用例と判断されたものは8例、全体の29.6％を占める。学生のレベルとしては、3年生は初中級レベル（JLPTでN4、N3)、修士1、2年生は中級レベル（JLPTでN2）である。学生の書いた27例の中で最も学生が頻繁に使用しているのは、主節に対する理由や根拠を列挙する場合であり、全部で17例であった。次いで、命題を並列する用法が7例、対比する用法が3例見つかった。学生の使用例の中で言い差しなど使用は見られなかった。話し手が変わることによって、主節から統語的に切り離され、独立した発話行為を行う「シ」節の例は従属節という枠組みからは確かに外れた言い回しであるので、その用法を把握することが難しく、つい使用を回避してしまうのであろうと思われる。コミュニケーションストラテジーとしてのモデル会話の導入やこうしたストラテジーを要するコンテクストを用いた会話練習をさせることにより、意識的にこれらの用法を教える必要があると思われる。

6. 結論

フランス語の場合は、もともと従属節が主節と構造的に独立しており、接続詞などを使うことにより両者の関係が明確にされる。しかし、近年のコーパス研究により、話し言葉においては、言い差しなど、命題の省略や倒置など語順の入れ替わりが日本語と同様にみられることがわかった。日本語のこれまでの従属節の研究は、力点が内部構造の分析におかれており、従属節と主節の関係や言語運用など、談話文法や語用レベルでの研究は緒に就いたばかりであることがわかった。

また、フランス語では、「シ」節は、対位接続としても等位接続としても翻訳され、接続の自由度も高いことから（南（1974）など)、フランス語母語話者にとって容易なものと考えられ、十分に習得されないうちに気楽に使用されることによって誤用が生まれるのではないかと思われる。

さらに、「シ」節の習得が十分になされない理由として、教え方も一つの要因であると考えられる。フランス国内

の日本語教育の現場では、フランス人教師が、文法訳読法の時間に全ての文法をフランス語によって説明しながら導入し、その後で 別な授業、つまり会話の時間、筆記の時間で実際の運用面の練習をネイティブがドリル式に行う、という教育方式が取られることが多い。したがって、フランス人の日本語教員は、フランス語で翻訳しやすいものから教えることが予想される。対比の構文、とりわけ語用論的な要素が入ったり、聞き手にとって談話レベルや語用レベルでの理解が必要な言いさしなど、翻訳のしにくいものは教員もなかなかうまくフランス語で説明できないことから指導しない可能性もある。対策の一つとして、フランスでの日本語教育で慣習となっている対訳重視から直接法に移行させることも考えられるであろう。

今後は、日本語における「シ」節と主節の意味関係や「シ」節が含まれる言い差しの語用論的機能についての分析、さらにフランス語との対訳に関する考察が、フランス語母語話者に対する日本語教育に役立つと考えるので、進めていきたい。

参考文献

ARNAVIELLE, T. ; SIOUFFI, G.（dir.）（2012）*Comment écrire une grammaire du français? Langue Française 176,* Paris ; Larousse.

DÉBAISIEUX, J.-M. ; DEULOFEU H.-J. ; MARTIN, P.（2008）Pour une syntaxe sans ellipse, in : PITAVY, J.C. ; BIGOT, M.（dir.）*Ellipse et effacement* Publications de l'Université de Saint-Etienne, Saint-Etienne.

DEULOFEU, J. ; DÉBAISIEUX, J.- M.（2012）. Une tâche à accomplir pour la linguistique française du XXIe siècle : élaborer une grammaire des usages du français, in : ARNAVIELLE, T ; SIOUFFI, G.（2012）. *Comment écrire une grammaire du français? Langue Française 176* : 27-46.

グループ・ジャマシイ編著（1998）『日本語文型辞典』くろしお出版

小林幸江（1994）「接続助詞「し」の文論的考察」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』20

国立国語研究所（1984）『現代語の助詞・助動詞－用法と実例－』国立国語研究所

前田直子（2005）「現代日本語における接続助詞「し」の意味・用法－並列と理由の関係を中心に－」『人文』4、学習院大学

益岡隆志（1997）『複文』くろしお出版

三上章（1953）『現代語法序説－シンタクスの試み－』刀江書院（くろしお書店）

――――――（2002）『複文の研究』くろしお出版

南不二男（1974）『現代日本語の構造』大修館書店

――――――（1993）『現代日本語文法の輪郭』大修館書店

村木新次郎（2007）「日本語の節の類型」『同志社女子大学　学術研究年報』第 58 巻

野田尚史（2002）「単文・複文とテキスト」『日本語の文法 4 複文と談話』岩波書店

RIEGEL, M ; PELLAT, J.-C. ; RIOUL, R. (2009) *Grammaire Méthodique du français*[19], *4e édition*. Paris, PUF.

白川博之（2001）「接続助詞「シ」の機能」『意味と形のインターフェイス中右実教授還暦記念論文集下巻』くろしお出版

角田三枝（2007）「テ形接続と接続表現のシ：「節連接とモダリティの階層」との関係」『成城文藝』199 号、成城大学

高橋太郎他（2005）『日本語の文法』ひつじ書房

寺村秀夫（1992）『寺村秀夫論文集Ⅰ－日本語文法編－』くろしお出版

注

1　略語：Le certificat d'aptitude au professorat de l'enseignement du second degré 訳：初中高等教育普通教員適性証

2　訳：中高等教育一級教員資格

3　ここでの「タイプ」とは「平叙文」「疑問文」「否定文」という文のタイプを指す。それに対応した音声的特徴とは、それぞれの文がどのようなイントネーションによって発音されるかということである。

4　P : 文 GN：名詞句 GV：動詞句

5　略語は次の通り。ADV: 副詞、ART: 冠詞、CONJ: 接続詞、DET: 限定語、F: 女性、FUT: 未来形、M: 男性、N: 中性、OBJ: 目的語、POSS: 所有格、PP: 過去分詞、PREP: 前置詞、PRES: 現在形、PL：複数、PRON: 代名詞、RPRO: 関係代名詞、SG: 単数、SJNCT: 仮定形、SUBJ: 主語、NEG: 否定辞

6　本稿ではこの挿入節については全く触れない。

7　連体修飾的機能、補足節的機能、そして状況補足節的機能の３つの機能。
8　両者の違いは、等位 CONJ が入るかどうかと言う違いだけである。
9　Outil et Recherche sur le Français Ecrit et Oral：「フランス語書き言葉と話し言葉に関するツールと研究」
10　一般的傾向として指摘されているが、それについての詳しい説明はない。
11　通常、フランス語の従属節の位置は主節の後である。
12　日常会話の例ではある話者が言及したことに対して、対話者がそれに対するコメントを従属節のを付け加える形で行う。例：「話者 A : 新宿まで出ようか。　話者 B：でも、逆方向だし。」
13　「接続詞 Parce que によって導入される節はモダリティの観点から見て自立した Unité de communicative：コミュニケーションの単位をなしている（J-M. Débaisieux, H-J. Delofeu, P. Martin（2009）p.233）
14　国語学における日本語の従属節の先行研究は村木（2007）に詳細な解説がある。
15　南（1974）は「従属句」としている。
16　例文はすべて小林（1993）からの転用。
17　訳の作成にあたっては、筆者が出来るだけ日本語の原文に近い意味で直訳したものをネイティブスピーカーに見せ、不自然な点を直し、指摘してもらった。原文にはないが、フランス語として不自然にならないように補ってもらった部分は括弧内に入れてある（例 2 の si tu veux など）。尚、訳文のチェックを担当してくれたのは、エクスマルセイユ大学言語学学科博士課程、及び日本語学科修士課程で、日本語を専攻している学生である。
18　筆者が質問したフランス人ネーティブ２名から、フランス語ではこの「シ」節の翻訳は非常に困難であるが、このドラマのシーンを見る限り、「話し相手に対する反論」という談話的役割で捉えられるので、 pourtant（でも）という副詞を訳文に補えるのではないかというコメントであった。
19　訳：『フランス語の体系的文法　第４版』（文法書の翻訳書は出版されていない）

French and Japanese Subordinate Clauses

- “shi-clause” usage of French Learners of Japanese

Hisae Akihiro (Tokyo University of Foreign Studies)
Ryuko Taniguchi (Tokyo University of Foreign Studies)

Keywords : French Learners of Japanese, “shi-clause”

As an initial step in Japanese language educational research on teaching complex sentences to French native speakers, this paper will first introduce prior research on French and Japanese subordinate clauses, then investigate Japanese “shi-clause” and the corresponding French clauses, and finally analyze the characteristics of “shi-clauses” used by native French Japanese learners.

French subordinate clauses are structurally independent from the main clauses, and the relationship between them is made clear through the use of conjunctions. On the other hand, Japanese subordinate and main clauses are mutually dependent on each other, and in particular, the “shi-clause” possesses numerous functions in discourse grammar. The omission of the controlling proposition in the main clause in sentence-final ellipses is considered to be problematic for French Japanese learners.

〈論文〉日本語とタイ語の対照研究

中～上級専門日本語における語彙知識の精緻化を目指した練習の導入

－タイ語母語話者を対象にした「通訳入門」科目の一環として－[1]

鈴木　美加（東京外国語大学）
タサニー・メーターピスィット（タマサート大学）

キーワード：語彙知識の精緻化 「処理短」 コロケーション　中上級専門日本語 「通訳入門」

１．はじめに

日本語の中級～上級レベルの教育は、学習者間のレベル差への対応が必要であることが多い。タマサート大学においても、高校までの日本語学習歴や日本留学経験の有無などによって、「通訳入門クラス」受講時の学習者の日本語レベルは、日本語能力試験Ｎ１合格～Ｎ３合格程度までの学習者がおり、それぞれの持つ言語知識や技能、経験等は大きく異なる。授業では、活動タスクを目的及び内容に応じ、個人またはグループで遂行し、個々の学習者の力を活用できるように工夫している。その中で、学習者の言語知識の習得をどのように支援していくかが課題となっている。Ｎ３取得の学生は社会一般にかかわる語彙を多く習得する必要がある。またＮ１取得学習者についても、語彙量を増やすことと並び、中～上級の語彙をより深く理解し、語の意味を早く想起できるようにすることは、スキルの円滑化に求められるといえる。

本稿では、まず、タマサート大学の「通訳入門クラス」における技能養成のためのタスクを紹介するとともに、語彙の知識の精緻化とそれを意図した学習の実践について述べる。さらに学習に使用した練習教材の回答から、個々の学習者の語の知識の傾向を分析する。同時に、今回の学習内容・方法に対する学習者の評価をもとに教材の有用性についても検討を加える。

２．専門日本語「通訳入門クラス」

中級後半から上級の日本語学習者に対する専門スキル教育の一環として、海外の大学等の機関において通訳・翻訳技能養成の教育が行われることがある。タイのタマサート大学日本語プログラムでは、2003 年より学部４年次科目として、日本語とタイ語の通訳入門の科目が導入され、現在「通訳入門クラス」として「将来の職場に応用できるよう通訳のテクニックを身につけること」を目的とした授業を行っている。授業では、タイ語－日本語の逐次通訳と、日本語－タイ語の同時通訳の活動タスクに加え、言語的知識及び技能の向上を図るタスクも行っている（メーターピスィット　2012）。

以下、通訳入門クラスで学生に課したタスクを紹介する。

2-1　グループワーク「タイ文化紹介の日本語ビデオ作成」

通訳の実践を通してタイ文化を日本人に紹介するという企画でビデオプロジェクトを実施した。テーマを決め、タイ文化の専門家に話を聞き、それを日本語に逐次通訳する活動を行った。活動の手順は、①グループ分けとテーマ決定、②専門家（タイ語母語話者）への取材の依頼、③タイ語で取材した内容をすぐ日本語に通訳し、ビデオに録画、④録画映像の発話（タイ語と対訳日本語）の文字起こし、⑤クラスで成果発表、⑥インターネット上で自己評価及びピア評価の共有である。学習者は取材前の準備として、あらかじめストーリーを考え、必要な語彙リストを作成した。その場で通訳をすることを求めるが、万が一対応できない場合、ビデオ編集の時、字幕や解説などの工夫をしてもよいこととした。⑤の発表では、実施のプロセスでの問題発生とその対応、活動からの学びをクラスで共有した。

2-2　個人タスク「デジタル教材のタイ語吹替版作成」

日本内外の環境問題や日本の文化・地域などを紹介するNHKの学校向け教育番組[2]から、各学生が１つを選び、番組の中の日本語をタイ語に吹き替えるタスクである。このタスクでは、①テーマと使用番組の決定、②動画とスクリプトのダウンロード、③グロッサリー・リスト及びタイ語スクリプトの作成、④ビデオクリップの音声作成（録音）、⑤CD-Rでの提出、の順に学生が作業を個人ベースで行った。

2-3　防災に関する講演（タイ語）の要約作成と翻訳・音声作成

防災の専門家によるタイ語の講演「防災への備え」（1時間）を聞いた後で、各学生は割り当てられた講演の一部分（約５分）の日本語要旨を作成した。講演は災害全般の紹介や、災害から身を守るための日本やタイの取り組み、常日頃の心構えなどの内容であった。各学生は担当部分の講演の要約をタイ語で行った後に日本語訳を作成し、提出した。教師添削後、最終版日本語要旨の音声ファイルを作成（録音）し、提出した。日本語要旨提出の際、日本語ネイティブによる要旨の評価及び理解困難箇所の指摘、担当教員によるタイ語・日本語要旨の照合がなされた。各学生は評価結果を受け取り、要旨修正後に再提出した。

３．語の知識とその学習

3-1　語の「深い」知識とコロケーション

語の知識は言語技能のもとであり、必須である。「語の知識がある」という場合、その語の定義が言える、その語の反意語や類似語、連想語など関連する語が多く出せる、語を使った文が作れる、など複数のレベルが存在する。Stahl and Fairbanks（1986）は、外国語学習における（読解）技能と語彙知識の関係について、語の定義を習う学習は文章理解には効果が限定的であるとし、「語の知識がある」という状態を明確に定義する必要があると述べている。卯城（2009）はDaller他（2007）を紹介し、語彙知識には、何語語彙を学習するか、知っているかという語彙知識の「広さ（量）」に加え、ある語について様々な観点の知識を持っているという語彙知識の「深さ（質）」と、知識を使う際の「流暢さ」が重要であるとし、語を関連する語とネットワークを作り、それを知識として持つことが技能遂行に役立つという（卯城2009；p.21）。この語彙知識の「深さ」は、長期記憶の中の語が、その使用により関連する複数の語（概念）との多くの結びつきができ、その関連度合いにより結びつきが強くなる状態、つまり精緻化された状態になることととらえることができる。語の知識が精緻化した場合、それを「読む、書く、聞く、話す」の技能でその語を活用できる可能性が高くなる。技能に活用できる語の数は多ければ多いほうがよく、語の知識を精緻化させる効果的な学習方法を明らかにすることが望まれる。

その方法の１つに、対象語に関連する語・要素の結びつき（コロケーション）の学習が挙げられる。最近その重要性が指摘され、教材作成や実践もなされるようになってきたが、日本語教育では、まだそのような学習の効果に関する研究は数が限られている（鈴木2006、金森他2012、寺嶋他2009など）。日本語の語彙に関しては、最近のコーパス研究・開発により、対象語と共起しやすい語や出現する文構造などの情報が得られるようになり（筑波大学他2013など）、それらの情報の活用が可能になった。田野村（2010）はコロケーションを「慣用的な複数語との共起現象」と広く規定し、語の多様な側面に注目することの重要性を指摘している[3]。田野村は、文法的な要素に関わるコロケーションはコリゲーション(colligation)と呼ばれることに触れ、受身形あるいは過去形、状態性の「ている」で現れることの多い動詞等の検討を行っている（田野村2010；p.11）。田野村の指摘のとおり、１つの語はその意味を有するだけでなく、よく共起する語や表現、文構造があり、「コロケーション」を広く捉える場合、共起する語や表現、文構造の情報などを含めて捉えることが適切であろう。それにより、語彙の学習を、語だけでなくその語を含む文の理解や、技能遂行における語の知識の活用を可能にするものとして位置づけることができよう。

3-2　語彙学習教材「処理短」

中上級レベルの語の意味を的確に理解し、関連語との結びつきを促すための語彙学習教材「処理短」が2001年に東京外国語大学留学生日本語教育センターで開発され（鈴木2002）、現在も活用されている。本教材は、中上級の学習対象語を共起しやすい言語要素（語、表現）あるいは意味的につながりのある言語要素と結びつけ、技能を円滑化

することを意図し、練習問題形式で、338 語を学習対象語としている。学習者は、問題文（１文）を読み、対象語と結びつく語・表現を３肢から１つ選択する。語のつながりのタイプは、大きく以下の４つに分けられる。

１）意味的関連要素 同時活性化（Meaning association）

例・（けんか　感謝　あいさつ）の時、握手をする。

・魚の解剖をして、（体の中　皮膚　顔）をよく調べた。

・実験の結果を（明白に　詳しく　確かに）分析する。[4]

・弟は意志が（大きく　強く　長く）、決めたことは必ず守る。

2）名詞 - 動詞ペア同時活性化（Noun-Verb pair）

例・富士山で撮影した（絵　写真　おみやげ）はとてもいい思い出だ。

・成人した時、その人に対して儀式を（行う　開く　する）文化もある。

3) 助詞 - 述部ペア同時活性化（Particle-Verb pair）

例　勉強（に　を　で）集中していたので、ご飯の時間を忘れていた。

4) 文法知識活性化（Grammatical association）[5]

例「早く勉強しろ。いつまでも遊んで（いてね　いろ　いるな）」と子供の時、父に言われた。

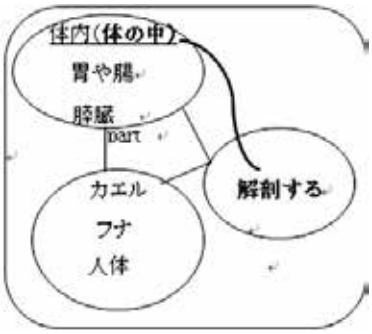


図１「解剖する」イメージ化の例

「処理短」では、例のように学習対象語は選択肢にせずに、文中に下線を引き、意識のベースが対象語に据えられるようにし、選択肢に関連語あるいはダミーを入れて適切なものを選び、対象語と選択する関連語を意識内で結びつけられるようにする。学習者が対象語の基本となる意味をイメージしやすくするため、問題文は可能な限り、語の出現しやすい文脈を提示しており、円滑なイメージ化のため、できるだけ学習対象語を先に提示、関連語が後に現れるようにし、処理がスムーズになるように配慮している。「意味的関連要素同時活性化」のつながりでは、語同士の意味に重複がある場合もあるがその場合にはそれゆえ、連想されやすい語や表現とのセット提示で、対象語が有する意味概念をより深く理解できるように意図した[6]。2012 年に「処理短」が e-Learning システム JPLANG[7] に試行的に組み入れた際、学習対象語が意味グループごとにまとめられ、自学自習にも活用しやすくなった。各ユニットは 10 ～ 20 問を１～２画面で提示する。解答終了後、結果情報が示され、対象語についての解説もクリック操作により示される。

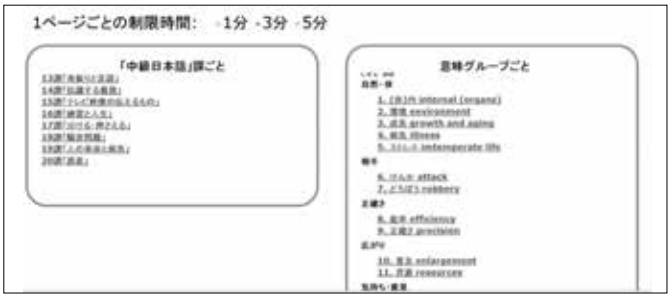


図２　JPLANG「処理短」メニュー画面（一部）

本研究では、２で示した「通訳入門」において、「処理短」の活用により、語彙知識の量及び質に差のある学習者の各々の知識を広げ、かつ深めることができるのではないかと考え、導入することとした。

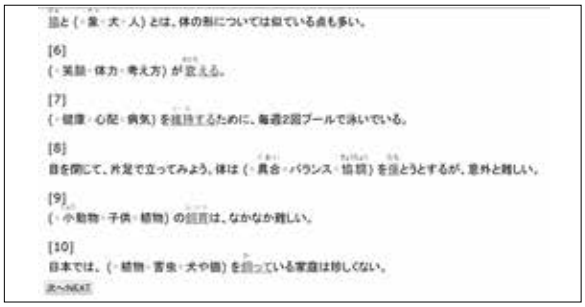


図３　JPLANG「処理短」練習画面例（一部）

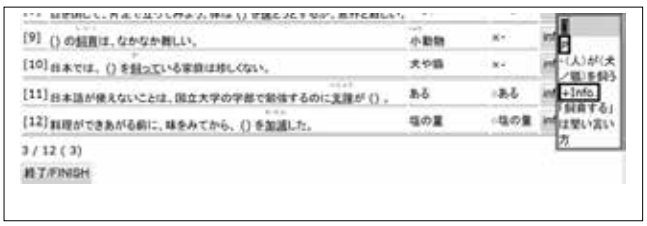


図４　JPLANG「処理短」結果画面例（一部）

3-3 「テーラーメイド処理短」の可能性

上述した「処理短」は中上級学習者一般が対象としているが、特定のニーズに合わせたテーラーメイドな「処理

短」により、語の知識の精緻化を図ることも可能である。例えばゲストスピーカーによる講演や、作文を書き、それを発表する活動など、クラス内で行うタスクや経験は、受講学習者間で共通の文脈を構成する。その文脈を生かしながら学習者の弱点を補強するために、「処理短」の形式で作成された練習教材により、学習を行うのである。そのような学習により、学習者自身の内容的知識やエピソードとつながる語彙知識の広がりと深さを獲得することができると考える。今回、上記 2-3 の防災に関する講演の要約作成と関連づけた「処理短」を作成し、語彙の精緻化を目指す学習を行うこととした。

4.「通訳入門」科目における「処理短」の活用

4-1　個人ベースでの「処理短」（e-Learning 利用）

ここでは「処理短」実施の概要を示す。

1）実施時期：グループ１　2012 年前期（8 月）
　　グループ２　2012 年後期（12 月）

2）対象者：タマサート大学「日タイ通訳入門」履修学生　38 名
　　表１，２に、開講学期ごとの履修学生の学年と大学入学時点での日本語学習歴の有無を示す。

3）課題内容：両グループ９～ 10 ユニット分
　　各グループの学生に課した「処理短」ユニット、学習対象語・関連語のセットの一部を表３に記す。

表１　グループ１（2012 年 8 月実施）

	既習者[8]	未習者
5 年生 （留学経験有り[9]）	2 名	0 名
4 年生	9 名	3 名
合計	14 名	

表２　グループ２（2012 年 12 月実施）

	既習者	未習者
5 年生 （留学経験有り）	6 名	10 名
4 年生	5 名	3 名
合計	24 名	

表３　各グループの「処理短」課題ユニット

対象者	使用した「処理短」ユニット
グループ１ （10 ユニット）	体内（14 問）、環境（14 問）、成長（12 問）、病気（10 問）、ストレス（9 問）、けんか（11 問）、どろぼう（8 問）、能率（9 問）、正確さ（13 問）、普及（13 問）
	学習対象語と関連語（抜粋）：含む - 水、**解剖 - 体の中**、脳 - 考えること、内臓 - 調子、効果 - ある、呼吸 - 困難、酵素 - 栄養、酸素 -CO2、有益 - 成分、細胞 - 体、肌 - 乾く、血液 - 回る、被害 - 受ける、日照り - 乾く、排気ガス - 自動車、保障 - 権利、煙 - 工場、**正確 - 測る**、**免疫力 - 高める**、**順序 - 守る**
グループ２ （9 ユニット）	能率（9 問）、正確さ（13 問）、普及（13 問）、資源（8 問）、感じ（12 問）、判断（13 問）、状態（12 問）、調べる（8 問）、変化（16 問）
	学習対象語と関連語（抜粋）：能率 - 仕事、**電源 - 入る**、故障 - ロボット、誤差 - 出る、**正確に - 測る**、はみ出す - 線、及ぶ - に、**施設 - そろう**、資源 - 豊か、処理する - 情報、処分する - 要らない、利己的 - 考え、興味 - ある、好意 - 抱いて、気がする - なんとなく、どんなに -（欲しく）ても、微妙な - 状態

4）実施方法：

①教師が学生に e-Learning システム JPLANG の「処理短」を紹介し、各自自分の好きな時間にアクセスし、一週間以内に課されたユニットの練習をするよう伝える。

②学生が「処理短」の練習をする。練習中は、辞書を引かずに行い、時間を意識して解く。

③各ユニットの解答結果一覧を確認する。結果一覧画面をスクリーンショットでコピーし、ワード文書に貼りつけて、教師に提出する。

表３に、受講学生の半数以上が不正解だった学習対象語と関連語を太字で示した。なお、２グループで共通した課題となったユニットの誤答の割合はほぼ共通していた。

4.2　授業内での「処理短」利用

上記活動が終わってから、グループ２の 24 名に対して、授業内で４ユニット分の練習を課し、その解答の傾向を調べた。授業内の「処理短」はプリント形式で行った。課した「処理短」ユニットの概要を表４に、解答の結果を表５に示す。

表５の結果から学習者間で得点の開きが大きいことがわかる。不正解の項目及び授業での学習項目から、誤答が選択された原因として、①対象語の意味を理解していない：「統一」（「影響力」ユニット）、②つながりを知らない：「迫力がある」（「視覚情報」ユニット）、③選択肢の表現を知らない：「何百という（人）」（「言う」ユニット）、④選択肢にある動詞形をあまり学習していなかった：「入れよ、入(い)れろ、入(はい)れ」（「示す」ユニット）、ということが考えられる。

対象語は必ずしもすべてが難しいとされる語ではなく、旧日本語能力試験の１級や級外の語だけでなく、２級の語も含まれる。使用教科書等での学習経験の有無の影響もあろうと思われる。

表４　授業内利用による「処理短」ユニット

対象者	実施内容
グループ２ （4 ユニット）	視覚情報（8 問）、影響力（14 問）、言う（10 問）、示す（11 問）
	学習対象語と関連語（抜粋）： 編集 - 雑誌、中継 - される、映像 - わかる、光景 - 出会う、構成 - スピーチ、映る - 姿、権力 - 利用する、承認 - 親、実施する - 卒業式、**統一する - 一つに**、派遣する - に、説く - 聞かせた、叫ぶ - 大声で、騒音 - 眠れなかった、**演説する - 何百という（人）**、**空欄 - 入れよ**、報告する - 結果、告白する - 緊張、提案する - 計画、支持する - を

表５　授業内利用による「処理短」の得点（24 名）

ユニット	視覚情報 /8	影響力 /14	言う /10	示す /11	総得点 /43	/100%
最高得点	8	13	9	10	39	90.70
最低得点	4	6	5	5	25	58.14
平均点	6.58	10.50	7.26	7.62	32.04	74.52
標準偏差	1.06	1.80	1.18	1.67	3.85	8.95

4-3 「処理短」に関する学習者評価

学習者にとっての「処理短」の有用性について検討するため、「処理短」実施後、グループ１及び２の学生に、以下の表に示す 12 の質問項目に回答してもらい、「大変そう思う」４、「そう思う」３、「あまりそう思わない」２、「そう思わない」１の４段階評価をしてもらった。その結果を表６と表７に示す。回答の結果から、「処理短」は、①全体として練習しやすい教材であると９割の者が評価したが、問題が難しすぎたと感じたり、多すぎたと感じたりした者が２割程度いる（質問項目１～７）、②練習により語の知識を増やし、かつ深く知ることができ、文を早く読めるようになった（質問項目８～ 11）と９割の学習者が考えている、ということがわかった。

また、今回の e-Learning システムの画面上の情報の提示の量及び出し方については４分の３の学習者が問題ないと考えているが、学習対象語のヒント情報や正答提示画面の解説情報の出し方にはまだ改善の余地がある（質問項目１～２、４～７）。また、問題が難しすぎると学習する意欲が持てない可能性もあり、全体で８割の学習者は難しすぎることはなかったと回答したが、グループ２では３分の１の学生が難し過ぎたと答えた。対象ユニットの正答率は各々６～８割であり、概ね今回の学習者のレベルに合っていたと考えるが、N3 レベルの学習者には未習の語が多い問題文もあったかもしれない。学習対象語にはカーソルを近づけるとその語の簡単な説明が提示されるが、選択肢や文中の語の説明は提示していないことが影響していると推測される。

表６「処理短」のアンケート結果（グループ１　14 名）

質問項目	4	3	2	1	Yes	Yes(%)	No	No(%)
1　問題のやり方はわかりやすかった	6	7	0	1	13	92.9	1	7.1
2　問題文の文字は見やすかった	9	4	1	0	13	92.9	1	7.1
3　問題は難しすぎた	0	2	9	3	2	14.3	12	85.7
4　問題文の下線の言葉の説明（単語をクリックすると出てくる情報）はわかりやすかった	3	9	2	0	12	85.7	2	14.3
5　１つのセクションの問題の数は多すぎた	0	2	8	4	2	14.3	12	85.7
6　問題の後の結果のページはわかりやすかった	2	10	1	1	12	85.7	2	14.3
7　問題の後の結果のページの情報は適切だった	2	8	3	1	10	71.4	4	28.6
8　この練習によって、自分の言葉の知識が増えた	8	5	1	0	13	92.9	1	7.1
9　この練習で、練習した言葉を深く知ることができた	4	10	0	0	14	100.0	0	0.0
10　この練習は、言葉を覚えるのに役に立った	5	9	0	0	14	100.0	0	0.0
11　この練習で、文を早く読むことができるようになった	6	8	0	0	14	100.0	0	0.0
12　この練習の後で、習った言葉が入っている文章が読みたいと思った	3	7	4	0	10	71.4	4	28.6

表７「処理短」のアンケート結果（グループ２　24 名）

質問項目	4	3	2	1	Yes	Yes(%)	No	No(%)
1　問題のやり方はわかりやすかった	10	12	2	0	22	91.7	2	8.3
2　問題文の文字は見やすかった	7	15	2	0	22	91.7	2	8.3
3　問題は難しすぎた	4	4	15	1	8	33.3	16	66.7
4　問題文の下線の言葉の説明（単語をクリックすると出てくる情報）はわかりやすかった	5	13	6	0	18	75.0	6	25.0
5　１つのセクションの問題の数は多すぎた	1	5	11	7	6	25.0	18	75.0
6　問題の後の結果のページはわかりやすかった	8	14	2	0	22	91.7	2	8.3
7　問題の後の結果のページの情報は適切だった	11	12	1	0	23	95.8	1	4.2
8　この練習によって、自分の言葉の知識が増えた	11	11	1	1	22	91.7	2	8.3
9　この練習で、練習した言葉を深く知ることができた	10	12	1	1	22	91.7	2	8.3
10　この練習は、言葉を覚えるのに役に立った	6	14	3	1	20	83.3	4	16.7
11　この練習で、文を早く読むことができるようになった	6	15	2	1	21	87.5	3	12.5
12　この練習の後で、習った言葉が入っている文章が読みたいと思った	10	10	3	1	20	83.3	4	16.7

練習の成果として自由記述欄に、「語彙の増強にいいと思います。文脈で推測でき、理解が深まりました。」「文章と語彙を一緒に覚えればよく覚えられて実際に使えるようになります。」「楽しくて夢中になった時もあった。次の問題が気になる。」等といったコメントがあり、文脈とセットにした語の練習が好意的に受け止められていることがわかった。一方で、目安として設けている時間制限について「時間が限られ、集中しにくい時があった」という意見、練習後の結果画面で答に関する情報説明が得られるが、「解答と例文のボックスが少し小さく、見にくい」「解答についての説明を詳しくして欲しい」という情報提示に関するリクエストも得た。JPLANG はデスクトップ型・ノート型 PC に限らず、携帯電話などの携帯端末によっても操作可能であるが、端末のバージョンなどにより、ルビが漢字の上ではなく、文中の漢字の後に括弧つきで提示される場合があり、見やすさに影響する。そのほか、「問題数がもっとあってもっと難しかったらいい」「能力試験に出る言葉の練習も作って欲しい」というコメントもあり、さらなる教材の提供も望まれていることがわかった。今回、全体として「処理短」は有用だというコメントを得たが、改善点も指摘され、より使いやすいシステムにすることが望まれていることがわかった。

「処理短」練習については、対象とする語と「通訳入門」科目のタスクとが直接結びつく形ととっていないため、「処理短」の対象語がどの程度タスクの遂行に役立ったかは明示することができない。しかしながら、「処理短」の範

囲である中上級（N2 ～ N1）の語は、本科目受講学習者には十分運用できるようになっていることが必要であり、学習者がそのような意識を持って練習に取り組んだことがコメントにも表れているといえる。

５.「テーラーメイド処理短（処理短Ⅱ）」：授業タスクと関連づけた語彙練習

先に 2-3 で触れたように、学習者の作文等での誤用とその箇所で表現したい内容の確認を行った上で、クラスの学習者がイメージしやすい文脈を使った「処理短」を作成し、対象語の理解、つながりに関する気づきを促すことも可能である。ここでは、2-3 で示した「防災に関する講演」タスクとして提出された学習者作成の日本語要旨をもとに、学習者の有する語や文法の知識の傾向を推測し、コロケーションをはじめ、語や文法の理解と運用を適切に行うことができることを目的とした「テーラーメイド処理短（以下、処理短Ⅱ）」を作成した。以下、「処理短Ⅱ」教材の概要とその活用、学習者の回答状況をもとに教材の有用性の検討を行う。

5-1 「テーラーメイド処理短（処理短Ⅱ）」の概要

学生の講演要旨に見られた語や構文の使用における不自然な箇所を集め、伝えたい内容を確認したのちに、それらをタイプ別に分類した。複数の学習者によって共通する誤用が見られた場合に、「処理短Ⅱ」候補箇所とし、作成を試みた。誤用の原因は複数推測され、①使うべき語を知らないために辞書などで調べ、適切な文脈、コロケーションを使用できなかった、②語の知識はあるが、その語の使い方や似た表現との使い分けのし方を十分理解できておらず、文が適切に作れない（例　動詞の自他、助詞と動詞の適切な組み合わせ、動詞のテンス・アスペクト、接続詞）、③構文（文型）の複数組み合わせによる混同や誤解、④母語と学習言語の間にある語の存在の有無や意味・語用における異なり、などが見受けられた。分類した候補箇所について、講義内容を文脈として活用しながら「処理短Ⅱ」問題文を作成し、１ページ７～ 10 問、全８ページの教材とした。

以下に学習者の作成した日本語要旨の一部抜粋と教材例を示す。各例の初めに挙げた要旨の中の太字は「処理短Ⅱ」作成にあたり、主に着目した箇所である。例１の「収集する」と例２の「設定する」は上記の誤用の原因①に対応し、例３「進学する」は原因②、例４は原因③、例５は原因④に対応すると考えた。要旨文の下の矢印に続き、「処理短Ⅱ」として作成した練習問題を示し、括弧にユニット番号と問い番号を載せた。

例１　月々に**行なう**可能性が高い災害を**収集して**、災害に対処するための方法も集めました。

→各月に（行う　生じる　存在する）可能性が高い災害をリストアップする。（ユニット５、問２）

例２　身の周りの物を工夫することの例もあります、例えば、机にエンジン**を設定して**、船を作ることとか、バナナの木で筏を作ることとか、**高速道路構造物を変わって**被害者の仮住まいに**なる**ことなどです。

→身の周りの物を工夫することの例もあります、例えば、机にエンジンを（設置　設定　設立）して、船を作ることとか、バナナの木で筏を作ることとか、高速道路を支える構造物を被害者の仮設住宅に（なる　する）ことなどです。（ユニット５、問３）

例３　小さいころからアーキテクトになりたくて、大学を卒業してからロードアイランドデザイン学校でインテリアデザイン**を進学しました**。

→大学の教育学部で、美術教育（で　に　を）専攻しました。

→小さいころから建築家になりたくて、大学を卒業してから A 学院インテリアデザイン科（について　を　に）進学しました。その後、ハーバード大学（で　に　の）建築学を勉強しに行きました。（ユニット１、問１・２）

例４　人間は自分の行動とか生理的欲求とか意識を**抑えられば、いつか**災害が起こる**かどうか**心配する**ことが必要がありません**。

→人間は自分の行動や感情をうまく（抑えられる　コントロールできる　示せる）のなら、災害がいつ起こるか（を　どうか）心配する必要はありません。（ユニット４、問８）

例５　帰国してから、**災害のこと**がとても身に**近いこと**だと感じて、AIT で災害管理を勉強しました。

→タイに帰国してみて、自然災害はとても（身に近くて　身近で　手近で）恐ろしい（こと　もの）だと気づいた。（ユニット４、問２）

なお、講演は防災に関するテーマで、防災工学を専門とする聞き手を対象としたものではないため、使用語彙は一般的な語彙が多いが、被災時に必要な物や設備、取るべき行動などについて言及する際、自分の担当するパート以外で使う日本語の語彙には知らない語彙も多く含まれる可能性がある。「処理短 II」作成の際は文脈となる問い前後の部分はできるだけわかりやすい言葉の使用を心がけた。

5-2 「処理短Ⅱ」による練習実施

「処理短 II」の実施概要は以下の通りである。

1）実施時期：2012 年度後期（2013 年 1 月中旬）

2）対象者：タマサート大学「日タイ通訳入門」履修学生　24 名

（日本語能力試験のレベル：N1 が 5 名、N2 が 15 名、N3 が 4 名[10]）

3）課題内容：「防災への備え」についての「処理短 II」８ユニット（表８参照）

4）実施方法：①日本語要旨提出後に、クラス内で紙のテストとして実施する[11]

②辞書を引かずに行い、終了時間を学習者自身が記録し、解答用紙を提出する

③個々の回答の正誤の結果を返却し、クラスで解説する

表８ 「処理短 II」課題ユニット一覧と問題数（全 113 箇所）

ユニット番号	ユニット内容	問題数
1	助詞 + 動詞 1	15
2	動詞の形、名詞・副詞 + 動詞	16
3	助詞 + 動詞 2	17
4	言葉の意味・使い方 1	14
5	言葉の意味・使い方 2	15
6	文構造 1	10
7	文構造 2、言葉の意味・使い方 3	11
8	言葉の意味・使い方 4	15

5-3 「処理短Ⅱ」使用の結果

学習者 24 名の「処理短 II」の解答結果をもとに、各問いの正答率を算出し、正答率が５割未満の項目をリストアップし、各項目を分類した。表９に解答所要時間、各ユニットの最高点と最低点、平均点、正答率が５割未満の項目番号を示す。

表９では得点平均が６割未満のユニットを太字で示した。表からわかるように、各ユニット得点平均は６割前後であるが、ユニット８のみ４割である。ユニットにより、最高得点は 100％のものもある一方で、最低得点は２割に満たないユニットもあり、学習者による差が大きい。

表９ 「処理短 II」の結果[12]

	1	2	3	4	5	6	7	8
	助詞 + 動詞 1	動詞の形、名詞・副詞 + 動詞	助詞 + 動詞 2	言葉の意味・使い方 1	言葉の意味・使い方 2	文構造 1	文構造 2	言葉の意味・使い方 4
得点平均（％）	66.9	64.1	55.4	58.6	62.5	68.9	62.5	40.8
標準偏差（SD)	16.7	12.8	17.2	14.7	17.9	22.3	17.5	10.3
最高得点（％）	93.3	87.5	88.2	85.7	100	100	92.3	60
最低得点（％）	40	43.8	17.6	28.6	33.3	30	21.3	26.7
平均所要時間：秒（カッコ内は 1 問平均）	164 (10.9)	224 (14.0)	222 (13.0)	216 (15.4)	252 (16.8)	183 (18.3)	213 (19.4)	210 (14.0)
正答率 50％以下の問題番号	2b, 3a4, 5ab, a	2a, 2c, 3b, 5a, 6	1, 2, 3, 6a, 7a, 9abc	4ab,6b	1ab, 4ac	5, 9	4b, 6ab	4b, 5, 7b 以外すべて

正答率が低い項目をみてみると、学習者にとって難しい項目には語句のレベルと文レベルのものがある。語句のレベルでは、助詞、動詞、名詞、副詞の使い方があり、文レベルにおいては、テンス・アスペクト、自他表現、数字に関する表現、接続表現が挙げられる。以下に各項目の例を示す[13]。

表 10　正答率の低い問題項目の分類

単位	項目	例（以下の「U」はユニットを示す）
語句	助詞、動詞、名詞、副詞	助詞：U1 の 4,5a 動詞：U2 の 2c,U8 の 3b 名詞：U4 の 4b,　U5 の 4a 副詞：U2 の 2a, U8 の 1
文	テンス・アスペクト、自他表現、数値に関する表現、連語・接続に関わる表現	テンスアスペクト：U1 の 2b,U2 の 3b,6 自他表現：U7 の 6b,U8 の 2b 数値に関する表現：U3 の 1,2 接続表現：U2 の 5a,U8 の 7a,U3 の 6a

助詞：

U1	2b	その後、ハーバード大学（で　に の）建築学を勉強しに行きました。	0.54	助詞
U1	3a	勉強している（**間　間に　間で**）、非常勤講師としてここ（に　で）教えていました。	0.46	表現
U1	4	お寺の建築には火災防災システム（を　が　に）組み込まれています。	0.54	助詞

動詞：

U2	2c	避難所が（設立　設定　設置）されました。	0.29	動詞
U8	3b	生活するのは無理だろう」という疑問が（わいて　出して　生んで）きました。	0.33	動詞

名詞：

U4	4b	災害の恐ろしさと（対応　対処）の方法を知らせる活動をしています。	0.29	名詞
U5	4a	この展覧会では、大洪水が生じた際に生き続けるための、救命具や道具の設計コンテストで選ばれた作品が出品されている。1 つの例として、使う人の（**視線 視力 視覚**）に合うように（調節 設計 修正）できるメガネがある。	0.33	名詞

副詞：

U2	2a	バンコクで（**急速に　急に　急激に**）激しい洪水が（起きる　起きた　起きている）　時のために、	0.50	副詞
U8	1	（**近く　近い　近くで**）見ると、ここの土が波とともに流れて少なくなっていることがわかる。	0.17	副詞（動詞修飾句）

テンス・アスペクト：

U2	3b	家は、木や竹（から　で）（**建てられる　建てられた　建てられている**）ので、強い波で流されてしまいます。	0.04	テンス・アスペクト
U2	6	災害が（起きる　起きている　起きた）時、生き抜くために自分の周りの物を工夫して使うべきです。	0.50	テンス・アスペクト

自他表現：

U7	6b	［～できるような］社会に（して　なって　させて）いきたいです。	0.33	自他
U8	2b	例えば、顔を拭くことや、浄水器の代わりに水をきれいに（なれる　なる　する）ことなどです。	0.50	自他

数値に関する表現：

U3	1	研究者によると、海面の水位が（５メートル　５メートルまで　５メートルに）上がったら、地図の赤い部分は全部海に沈んでしまうそうです。	0.04	数値
U3	2	フェスティバルの際、芸術家は（26 人　26 人を　26 人に）招待しました。	0.29	数値

連語 / 接続表現：

U2	5a	最近、研究者の（**中で　間で　うちで**）注目（している　されている　させている）のは、地震の強さとダムの強度との関係である。	0.13	表現
U3	6a	何事を（しても　するにも　したら）、心を込めて行うことが重要です。	0.21	表現
U8	7a	このような展覧会は大学や美術館で（**一般的に開かれた　開かれるのが一般的だ　普段開かれていた**）が、今回ホアランポーン駅のような便利な場所で（行われて　行われれば　行われても）、･･･	0.21	表現

これらを見るとわかるように、新出の語のみでなく、すでに学習済みで短文レベルで特にその表現・文型で典型的な文であれば理解・産出に問題がない要素・表現でも複文や異なる文脈においては混同しやすいものも多い。段階を追って、レベルに応じ、継続的に学習を進めることにより、より精緻な語に関する知識をつけていくことが可能になるだろう。

ここで正答率の低い項目をユニット順に表 11 に挙げておく。上で示した点に加え、条件節（例 U5 の 4c）などの項目で間違いが複数箇所見られた。

表 11　正答率の低い問題項目一覧

ユニット No. 及び 問題番号		処理短Ⅱ問題文	正答割合	分類
U1	2b[14]	小さいころから建築家になりたくて、大学を卒業してから A 学院インテリアデザイン科（について　を　に）進学しました。その後、ハーバード大学（で に の）建築学を勉強しに行きました。	0.54	助詞
U1	3a	勉強している（**間　間に　間で**）、非常勤講師としてここ（に　で）教えていました。	0.46	表現
U1	4	お寺の建築には火災防災システム（を　が　に）組み込まれています。	0.54	助詞
U1	5a	もしバンコクが災害（と　に　が）遭ったら、	0.54	助詞
U1	5b	１千万の人々が影響を（与えます　受けます もらいます）。	0.42	表現
U1	7a	自分が大波で死んでしまった夢を見たこと（**が　を　に**）きっかけ（が　を　に）災害に関係する仕事をするようになりました。	0.42	助詞
U2	2a	バンコクで（**急速に　急に　急激に**）激しい洪水が（起きる　起きた　起きている）　時のために、	0.50	副詞
U2	2c	避難所が（設立　設定　設置）されました。	0.29	動詞
U2	3b	家は、木や竹（から　で）（**建てられる　建てられた　建てられている**）ので、強い波で流されてしまいます。	0.04	テンス・アスペクト
U2	5a	最近、研究者の（**中で　間で　うちで**）注目（している　されている　させている）のは、地震の強さとダムの強度との関係である。	0.13	表現
U2	6	災害が（起きる　起きている　起きた）時、生き抜くために自分の周りの物を工夫して使うべきです。	0.50	テンス・アスペクト
U3	1	研究者によると、海面の水位が（５メートル　５メートルまで　５メートルに）上がったら、地図の赤い部分は全部海に沈んでしまうそうです。	0.04	数値
U3	2	フェスティバルの際、芸術家は（26 人　26 人を　26 人に）招待しました。	0.29	数値
U3	3b	（いる　ある）芸術家は燃えた椅子（を　から）タイの国旗を取り付けたテーブルと椅子（に　まで）作り変えました。	0.42	助詞
U3	6a	何事を（しても　するにも　したら）、心を込めて行うことが重要です。	0.21	表現

U3	7a	都心部から（**1時間　1時間で　1時間ごろ**）運転（して　したら　するなら）、海の中に立つ電柱が見られる。	0.50	数値
U3	9a	これはインターネットの情報なので、（間違う　間違った　間違っている）かもしれませんが、	0.45	テンス・アスペクト
U3	9b	地震の起こる時期やその時の状況はわからないため、ダムが決壊する（ことか）は、	0.42	表現
U3	9c	研究者の間（にも　でも）意見が異なるようです。	0.38	助詞
U4	4a	このプロジェクトでは、人々に災害が身近であるという意識を（持つ　持たれる　持ってもらう）ことができるよう、	0.33	表現
U4	4b	災害の恐(おそ)ろしさと（対応　対処）の方法を知らせる活動をしています。	0.29	名詞
U4	6b	以前、ここに部落があり、400 ～ 500 世帯が（住みました　住んでいます　住んでいました）が、木造住宅ばかりでしたから、そのせいで、クンサムッジーンというお寺以外、建物はすべて（**壊されて　流されて　倒されて**）しまいました。[津波の話に基づく]	0.21	動詞
U5	1a	屋上に公園を作り、洪水が（**起きる　起きた**）時、この公園を（活用　採用　改造）して、	0.50	テンス・アスペクト
U5	1b	農園や避難所など（を　に　で）作り替えるアイデアも出されています。	0.38	助詞
U5	4a	この展覧会では、大洪水が生じた際に生き続けるための、救命具や道具の設計コンテストで選ばれた作品が出品されている。1つの例として、使う人の（**視線　視力　視覚**）に合うように（調節　設計　修正）できるメガネがある。	0.33	名詞
U5	4c	災害でメガネが壊れた場合、何も（見えられない　見えない　見られない）が、このメガネが（**あって　あれば　あっても**）ボタンを回すだけでいいのだ。	0.42	表現
U6	5	このイベントの始まりは、世界の変化のスライドをメンバーに見せて、自分たちができることは何だろうかと（話し合いました　話し合うことからでした　話し合ったからです）。	0.46	表現
U6	9b	一人（だけは　だけでは　だけには）スーパーマンに（**ならず　なれず　なれなく**）、皆が認めなければならないのだ。	0.50	表現
U7	4b	地下水を（大量に　豊富に　数多く）くみ上げる（の　こと）は、地盤沈下(ジバンチンカ)の大きな原因です。	0.46	表現
U7	6a	人々が4つの基本的欲求【食欲、服装、住居、薬】をできるだけ自ら（**持てる　満たせる　果たせる**）ような	0.50	動詞
U7	6b	社会に（して　なって　させて）いきたいです。	0.33	自他
U8	1	（近く　近い　近くで）見ると、ここの土が波とともに流れて少なくなっていることがわかる。	0.17	副詞
U8	2a	タイ語に翻訳された日本人のアイディアもあります。そのアイディアは一枚の布（が　で）色々な目的　　に使えるというものです。	0.33	助詞
U8	2b	例えば、顔を拭くことや、浄水器の代わりに水をきれいに（なれる　なる　する）ことなどです。	0.50	自他
U8	3a	「私達はどうしたらいいのだろうか？このことを（無視して　考えないで　気にならないで）、	0.21	動詞
U8	3b	生活するのは無理だろう」という疑問が（わいて　出して　生んで）きました。	0.33	動詞
U8	4a	「地図のこの部分を見てください。ここは昔、村（**だった　があった　にあった**）のですが、海に（沈んで　おぼれて　落ちて）しまいました。	0.46	表現
U8	6	洪水などの自然災害が深刻さを（増(ま)す　増える　増やす）。	0.13	動詞
U8	7a	このような展覧会は大学や美術館で（**一般的に開かれた　開かれるのが一般的だ　普段開かれていた**）が、今回ホアランポーン駅のような便利な場所で（行われて 行われれば　行われても）、	0.21	表現
U8	7c	参加者の人数を（もっと　さらに）増やせると考えた。	0.46	副詞
U8	8a	洪水でこの街が浸水(しんすい)する（状態　事態(じたい)　事故）が起こったら、	0.29	名詞
U8	8b	1千万人に影響が（与えられる　受ける　及ぶ）ことになる。	0.42	動詞
U8	9	自分が持っているデザイン関係の知識が災害時に役に（立つ　立てる　なる）のではないかと考えました。	0.50	表現

5-4 「処理短Ⅱ」の有用性の検討

5-4-1　学習者評価

「処理短 II」を実施した後、５段階評価（5 ＝大変良かった、1 ＝よくなかった）を用いて学習者の「処理短 II」に対する満足度を尋ねたところ、平均 4.23 という高い評価を得た。また、学習者の自由記述には、「このような実践を通して、自分の実力を気づかせてもらえた」「語彙力を高めるには、繰り返して学習することを習慣づけることが大切であることが分かった」というコメントがあった。「処理短 II」は今回の学習者にとって役に立つ教材であると判断されたと言えよう。

5-4-2　対象者の学習歴との対応

処理短の成績を対象者の日本語学習歴、日本語力、日本留学経験に照合してみると、得点は日本語学習歴、日本語力、日本語能力試験のレベルに対応していることがわかる。表 12 をみると、対象者は大きく４つのグループに分けて捉えることが可能である。上から、①日本語主専攻で、大学入学時に日本語を既に学習しており（「既習」）、留学経験があり、能力試験 N1 を持っている者、②日本語主専攻で既習、留学経験あり、N2 取得の者、③日本語主専攻、日本語未習、留学経験あり、N2 取得の者、④日本語主専攻、日本語未習、留学経験なし、N3 取得レベルの者、である。今回の「処理短 II」の各学習者の得点は、このような学習者の特性を非常によく反映した結果となった。なお、今回統計的な分析は行っていない。

表 12　処理短 II を受けた対象者の学習歴と成績

No.	主専攻 / 副専攻	既習者 / 未習者	JLPT	留学経験	処理短の成績
23	主専攻	既習者	N1	１年	78.4
21	主専攻	既習者	N1	１年	77.7
22	主専攻	既習者	N1	２年	75.1
1	副専攻	既習者	N1	２年	74.9
13	主専攻	既習者	N1	１年	74.4
4	主専攻	未習者	N2	１年	66.1
7	主専攻	未習者	N2	１年	65.6
12	主専攻	既習者	N2	１年	65.4
14	主専攻	既習者	N2	１年	62.8
15	主専攻	既習者	N2	１年	62.8
2	主専攻	未習者	N2	１年	62.4
8	主専攻	未習者	N2	１年	62.4
20	副専攻	既習者	N2	なし	60.3
11	主専攻	既習者	N2	１年	58.7
24	主専攻	既習者	N2	なし	56.1
9	主専攻	未習者	N2	１年	52.7
16	主専攻	未習者	N2	１年	51.6
10	主専攻	未習者	N2	１年	50.5
5	主専攻	未習者	N3	１年	50.1
6	主専攻	未習者	N2	１年	48.6
17	主専攻	未習者	N3X	なし	49.6
3	主専攻	未習者	N2	１年	47.9
19	副専攻	未習者	N3	なし	47.5
18	主専攻	未習者	N3	なし	38.2

今回の研究では開始前と実施後のテストを行うことはしなかったため、「処理短 II」の使用による直接的な学習効果を示すことはできない。今後学習者の特性との関連からも教材使用の効果について明らかにしたいと考える。

６.「処理短」・「処理短Ⅱ」の使用結果のまとめと課題

今回の２種の語彙学習教材の使用により、以下のことが言える。

「処理短」について

・学習者ペースの e-Learning システムにより自学自習が可能である。

・学習者評価から全体として、語の知識を増やすことができ、言葉を覚えたり深く理解するのに役に立つ教材であると判断されたといえる。提示画面情報には改善すべき箇所もある（例　正答画面の情報追加）。

・対象学習者の中には問題が難しすぎると感じた学習者もおり、これは学習者による語彙知識の量の違いに由来している可能性がある。語彙知識の少ない学習者へのサポートも検討する必要がある。

「処理短Ⅱ」について

・「処理短 II」実施後の学習者評価の結果、全体として教材に対する満足度が高いことがわかった。

・使用結果から新出の語のみでなく既習と思われる語・文型を使った問いでも正答率が５割を切る問題があったが、これは初出の時とは異なる形式（複文等）、文脈での問題文であった場合に文の理解ができず、正答を選べなかった可能性が推測される

・各学習者の得点は個々の持つ学習歴 (留学経験の有無、日本語能力試験の合格レベル、入学時の日本語学習の有無) との対応が認められる。

さらに上記各教材による学習者の知識・技能の変化に関する分析も課題であると考える。

７．おわりに

「処理短」「処理短 II」の作成時には、①対象語の核となる意味の確認、②対象語と共起しやすい要素や連想されやすい関連語・表現の候補から、学習者の理解や誤用の傾向を踏まえて決める、③イメージしやすい文脈を決め、問題文作成、④フィードバック時の正答・誤答に関する説明情報を作成する、という作業を行っている。「処理短」は中級教科書からの対象語選定、「処理短 II」は中～上級学習者の産出した文章からの語の選定であり、言ってみれば、前者は「トップダウン」、後者は「ボトムアップ」の形式での対象語決定であった。「処理短 II」の問題は、「処理短」より文法関連のものが多い。これは学習者の誤用をもとに教材を作成したということに加え、日本語教育で新出文型の導入時は短文あるいは比較的シンプルな複文や文脈を利用していることと関係しているであろう。中上級レベルの学習者の接する文章には構造が複雑なものも多く含まれるため、理解はできても産出には誤用が生じやすい。段階を追って語や文型、それらの関連を確認、補足していくような学習ができれば学習者が納得しながら言語要素を自信を持って正しく産出できるようになると思われる。「処理短 II」はそれをサポートする教材の１つになると言えそうである。語の学習には「トップダウン」「ボトムアップ」型双方の教材作成が必要であろう。

近年、日本語コーパスの研究の隆盛とともに、語のコロケーションや出現する構文の情報が入手しやすくなってきた。それらの情報を駆使し、学習者の誤用の傾向に関する知見を踏まえ、各種辞書及び教材作成者の語に対する洞察をもとに、語の知識を「深め」、技能での活用が可能になる教材開発及びその効果に関する研究が今後もさらに求められると言えよう。

参考文献

坂井美恵子他（2012）「日本語学習者のためのコロケーション習得教材 i アプリの開発」2012PC Conference、<http://gakkai.univcoop.or.jp/pcc/2012/papers/pdf/pcc069.pdf>（2014 年 1 月 16 日閲覧）

鈴木美加（2007）「日本語学習者はどのように語を把握しているか～語彙の結びつけ練習の回答の傾向からわかること～」、『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』33、pp.129-137.

鈴木美加（2006）「言語要素をまとまりで処理する読解の基礎練習：語の核となる意味の理解と読解における自動化に向けて」、『東京外国語大学 留学生日本語教育センター論集』32、pp.109-122.

鈴木美加（2002）「読解における語彙の知識の自動化に向けた教材の作成―読解に利用できる知識を早く処理するために―」、『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』28、pp.133-138.

タサニー・メーターピスイット（2012）「中上級日本語学習者を対象としたマルチメディアの活用に関する実践的研究」、東京外国語大学国際日本語教育部門第四回ワークショップ「タイ語母語話者への日本語教育」配布資料
田野村忠温（2012）「日本語のコロケーション」、堀正弘編『これからのコロケーション研究』、ひつじ書房、pp.193-226.
田野村忠温（2010）「日本語コーパスとコロケーション―辞書記述への応用の可能性―」『言語研究』138、pp.1–23.
卯城祐司（2009）『英語リーディングの科学－読めたつもりの謎を解く』研究社
寺嶋弘道・小林潔子（2009）「コロケーション情報を用いた漢字語彙学習の試み」『ポリグロシア』、17、pp.139-149.
筑波大学、国立国語研究所、Lago 言語研究所（2013）『NINJAL-LWP for TWC』（http://corpus.tsukuba.ac.jp）
Krashen, S.（1982）*Principles and practice in second language acquisition*. Oxford: Pergamon.
Stahl, S., & Fairbanks, M.（1986）The effects of vocabulary instruction: A model-based meta-analysis. *Review of Educational Research*, 56, pp.72–110.
Swain, M.（1995）Three functions of output in second language learning. In G.Cook & B.Seidlhoffer (Eds.), *Principles & practice in applied linguistics: Studies in honor of H.G.Widdowson*, pp.125-144. Oxford: Oxford University Press.

注

1　本稿で使用しているデータは、国際日本研究センター国際日本語教育部門 主催国際シンポジウム「理解・産出における母語の影響への取り組み」における口頭発表「学習者の語彙の知識と語彙学習教材の活用について －タイ人中上級日本語学習者を対象に－」（2013 年 3 月 16 日）と同じであるが、本稿は語彙の知識に関する箇所を中心に大幅に加筆、修正したものである。
2　2012 年に課題対象番組としたのは以下の番組である。「ど～する？ 地球のあした！」<http://www.nhk.or.jp/dosuru/>、「日本とことん見聞録」<http://www.nhk.or.jp/syakai5/>、「見えるぞニッポン」http://www.nhk.or.jp/mieruzo/。選択の際、「NHK　for School 利用ガイド」www.nhk.or.jp/school を参考にした。
3　田野村（2012）は、コロケーションに「ぜひ～たい」、「より＋はるかに」「結果＋ついに」のように不連続あるいは構成素をなさない語連鎖を含めるとし、コロケーションの成立には、言語外的な事実（例「犬を散歩させる」vs「猫を散歩させる」）、語の意味（例「ハンサムな男性」「女々しい男」「しとやかな女性」「男勝りな女」）、文体的な適合性（例「ちょっと待ってくれ」「少々お待ちください」）、使用の習慣の異なり（例「膨大な量／数／時間／データ」「莫大な費用／利益／資金／金／借金」）が関わるとしている（pp.194-197）。
4　便宜上、2) ～ 4) 以外で意味的に関連が認められるものは 1) に入れている。副詞 - 動詞、名詞 - 形容詞のコロケーションは 1) に含めた。
5　主に「文型」と関連するものとした。
6　教材の効果について、鈴木（2006）は、読解テスト低得点グループが本教材を約２か月使用し、文章読解テストの得点が有意に上昇したと述べている。
7　東京外国語大学で開発されている日本語学習用 e-Learning System である。URL：http://jplang.tufs.ac.jp/account/login
8　「既習者」とは、ここでは高校ですでに日本語教育を受けていた者を指す。
9　「日本留学経験あり」の者は、１年以上日本に留学した経験を有する。
10　自己の日本語能力が N3 相当であるとする者が一人含まれる。
11　今回の実践では、学習者の日本語要旨の産出文から「処理短 II」を作成する必要があり、日本語要旨提出後に実施した。「処理短 II」で、各々の学生は要旨割り当て部分と割り当てられていない部分双方についての語彙の練習を行った。
12　得点は学習者 24 名全員の結果であり、各ユニット所要時間は記録があった 21 名（ユニット７のみ 20 名）の平均時間である。
13　ここに挙げた問題文は一部分であるものも多い。詳細は表 11 に示している。
14　アルファベットの付された項目は問題文に複数の問いが含まれ、同じ数字の問題番号は一続きの文として提示しているものである。

Vocabulary Elaboration Exercises in Intermediate/ Advanced "Specialized Japanese" Classes

– An Exercise Introduced into the "Introductory Interpreting Class" for Thai Students –

Mika Suzuki (Tokyo University of Foreign Studies)
Tasanee Methapisit (Thammasat University)

Keywords : Elaboration of Vocabulary Knowledge, "*Shoritan*", Collocation, Specialized Japanese, Introductory Course for Translation

This paper describes the development and introduction of a vocabulary elaboration exercise followed by an analysis of the Japanese vocabulary knowledge of Thai students and the usability of the materials. In this research, a vocabulary exercise called "SHORITAN (processing in a very short time)," developed at JLC, TUFS, was introduced into the "Introductory Interpreting Thai-Japanese" class for intermediate and advanced Japanese learners.

"SHORITAN" is a vocabulary building exercise that was designed by selecting high-frequency collocations and multi-word units such as "noun+particle+verb," used in context and arranged in the form of a short quiz to test students' comprehension of the words or expressions covering 338 components. The results of the exercise yielded an average total score of 75%, with a range of 58-91%. Based upon student evaluation of the material, the following points were evident: 1) 90% of the students regarded the material as user-friendly and useful with 20% believing the questions were too-hard to answer, 2) 90% thought that their vocabulary knowledge broadened and deepened and they became able to read faster, 3) material utilizing context was highly evaluated.

Next, "SHORITAN II" was developed by picking up errors found in lecture summaries written by the students and was used to help the learners notice word/expression usage and collocations in Japanese in 118 components. "SHORITAN II" consisted of the implementation of eight units with the students, and the results showed that the average score per unit was between 41% and 69%, indicating a wide range, depending upon the student' s proficiency. The items with few correct answers could be categorized into: particle-related, selection of verbs, tense/aspect, transitive/intransitive verbs, number-related expressions, and so on. The students evaluated "SHORITAN II" highly, commenting that they had developed a sense of their own level, gained vocabulary knowledge and realized the importance of continuing to learn vocabulary.

For further research, 1) a more detailed analysis of the influence using the materials has on learner knowledge and 2) improvement of the materials is recommended.

東京外国語大学国際日本研究センター

国際日本語教育部門3ヶ年プロジェクト成果論文集
「日本語学習者の母語・地域性をふまえた日本語教育研究
ー国内外の日本語教育研究機関との協働的研究」（2010～2012）

Proceedings of the Three-Year-Project:
"Japanese Education Research based on Learners' Mother Tongues and Regional Differences
Joint Research with Domestic and Overseas Japanese Education Research Organizations(2010-2012)"

発行：2014 年 3 月 31 日

編集者・発行者　東京外国語大学国際日本研究センター・国際日本語教育部門
代表者　小林幸江
〒183-8534　東京都府中市朝日町 3-11-1　アゴラ・グローバル 2 階
電話 /FAX：042-330-5794　E-mail: info-icjs@tufs.ac.jp
http://www.tufs.ac.jp/common/icjs/

印刷・製本　株式会社アトミ
〒187-0031　東京都小平市小川東 5 丁目 13-22
TEL.042-345-1155

© Tokyo University of Foreign Studies, INTERNATIONAL CENTER for JAPANESE STUDIES 2014
Printed in Japan

Print edition : ISSN 2188-5060
Online edition : ISSN 2188-5087

Proceedings of the Three-Year-Project: "Japanese Education Research based on Learners' Mother Tongues and Regional Differences

-Joint Research with Domestic and Overseas Japanese Education Research Organizations (2010-2012)"

International Japanese Education Division,
INTERNATIONAL CENTER for JAPANESE STUDIES,
Tokyo University of Foreign Studies